



SunPCi™ II 2.3 ユーザガイド

サン・マイクロシステムズ株式会社
東京都世田谷区用賀 4 丁目 10 番 1 号
SBS タワー 〒 158-8633

Part No. 816-4259-10
2002 年 3 月, Revision A

© 2002 by Sun Microsystems, Inc., 901 SAN ANTONIO ROAD, PALO ALTO, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられています。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

RESTRICTED RIGHTS: Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions of FAR 52.227-14(g)(2)(6/87) and FAR 52.227-19(6/87), or DFAR 252.227-7015(b)(6/95) and DFAR 227.7202-3(a).

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, SunPCi, OpenWindows は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape、Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	<i>SunPCi II 2.3 User's Guide</i> Part No: 816-4259-10 Revision A
------------	---



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

序文 xix

1. SunPCi II バージョン 2.3 ハードウェアおよびソフトウェアの紹介 1
 - サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム 1
 - SunPCi II 2.3 の機能 2
 - PC ユーザーに対する利点 3
 - Solaris ユーザーに対する利点 4
 - サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア 5
 - SunPCi II ソフトウェアのヘルプの表示 5
 - ▼ Solaris マニュアルページの表示方法 6
 - PDF ファイルマニュアルの表示 6
 - ▼ PDF ファイルマニュアルの参照方法 7
 - Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示 7
 - Microsoft Windows ソフトウェアの削除 8
 - 次のステップ 8
2. はじめに 11
 - システム必要条件 12
 - 複数の SunPCi II カードの構成 13
 - SunPCi II ソフトウェアの起動と終了 13

- ▼ SunPCi II ソフトウェアの起動方法 13
- ▼ SunPCi II ソフトウェアの終了方法 14
- エミュレートハードドライブの作成 15
- ▼ 新規エミュレートドライブの作成方法 17
- Service Pack のインストール 21
- ▼ CD から Service Pack をインストールする方法 21
- ▼ Microsoft Web サイトから Service Pack をダウンロードしてインストールする方法 23
- ▼ 既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法 24

次のステップ 25

3. 複数の SunPCi II カードの使用 27

構成に入る前に 28

 詳細な SunPCi II 複数カードのサーバーの構成 29

SunPCi II ソフトウェアでの複数カードの構成 29

 デフォルトの .ini 構成ファイル 29

 複数のカードを使用している際の .ini ファイルの命名 30

- ▼ -new オプションを使用した .ini ファイルの作成方法 31

カードとエミュレートドライブの使用 32

- ▼ カード名の特定方法 33
- ▼ 特定の .ini ファイルの起動方法 33
- ▼ 特定のカードの起動方法 34

特定のディスクイメージファイルの起動 35

- ▼ 特定のイメージと特定のカードの起動方法 35
- ▼ 各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法 36
- ▼ SunPCi II カード構成の更新方法 36

イメージファイル構成の変更 37

イメージとカードの再バインド	37
カードの MAC アドレスのプログラム	38
複数のカードの動作	38
複数のカードでのネットワーク	38
複数カードでのフロッピーディスクドライブの使用	38
複数カードでの CD-ROM ドライブの使用	38
次のステップ	39
4. SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク	41
SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク	41
SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定	43
▼ TCP/IP プロパティの設定方法	43
▼ 物理 Ethernet ネットワークの設定方法	44
▼ 仮想 Ethernet ネットワークの設定方法	44
▼ ネットワーク接続のセットアップ方法 例	45
次のステップ	47
5. Windows XP Professional の使用	49
Windows XP Professional のインストール	50
インストールに関する注意	50
▼ カスタムインストールの実行方法	51
▼ Windows XP Professional の再インストール方法	52
Windows XP Professional へのアップグレード	53
アップグレードに関する注意	53
Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード	54
アップグレードに入る前に	54
▼ Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード方法	55

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード	56
アップグレードに入る前に	56
▼ Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード方法	57
Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード	58
アップグレードに入る前に	58
▼ Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード方法	58
Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード	60
アップグレードに入る前に	60
▼ Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード方法	60
Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成	61
▼ 静的 IP アドレスを削除する方法	62
▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法	63
▼ Windows XP Professional でネットワークを構成する方法	64
▼ 物理Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法	65
▼ Windows XP Professional 用外部ビデオを構成する方法	66
▼ Windows XP Professional ディスプロレイブプロパティを構成する方法	68
次のステップ	70
6. Windows 2000 Professional および Windows 2000 Server の使用	71
Windows 2000 のインストール	72
インストールに関する注意	72
▼ カスタムインストールの実行方法	73
▼ Service Pack のインストール方法	75
▼ Windows 2000 の再インストール方法	75
Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード	75
アップグレードに関する注意	76

Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード	76
アップグレードに入る前に	76
▼ Windows 2000 Professional へのアップグレード方法	77
Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード	78
アップグレードに入る前に	78
▼ Windows 2000 Server へのアップグレード方法	79
サーバーの構成に関する注意	81
SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows オペレーティングシステム の間の割り当て	81
▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法	83
▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法	84
Windows 2000 での仮想 Ethernet ネットワークの構成	84
▼ 静的 IP アドレスを削除する方法	85
▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法	85
▼ Windows 2000 でネットワークを構成する方法	87
▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法	88
▼ Windows 2000 用外部ビデオを構成する方法	89
▼ Windows 2000 ディスプレイプロパティを構成する方法	92
▼ ディスプレイをシステムモニタへ戻す方法	93
次のステップ	94
7. Windows NT 4.0 Workstation または Server と Windows NT 4.0 Terminal Server の 使用	95
Windows NT のインストール	96
インストールに関する注意	96
▼ カスタムインストールの実行方法	97
▼ Service Pack のインストール方法	98
▼ Windows NT の再インストール方法	99

サーバーの構成に関する注意 99

SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows オペレーティングシステム
間の割り当て 99

▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法 101

▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法 102

Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成 102

▼ Sun NDIS アダプタのインストール方法 103

▼ Sun NDIS アダプタを削除する方法 104

▼ Windows NT 用に外部ビデオを構成する方法 105

▼ ディスプレイをシステムモニタに戻す方法 107

次のステップ 108

8. Microsoft Windows Millennium Edition のインストールと使用 111

Windows ME のインストール 111

インストールに関する注意 112

▼ 新規 C: ドライブに Windows ME をインストールする方法 113

▼ SunPCi II ドライバのインストール方法 115

▼ Windows ME の再インストール方法 116

▼ Windows 98 SE から Windows ME へのアップグレード方法 117

▼ Windows ME ドライバのインストール方法 118

Windows ME における仮想 Ethernet ネットワークの構成 119

▼ Windows ME のネットワークアダプタを構成する方法 119

▼ Windows ME の外部ビデオを構成する方法 120

▼ システムモニタに表示を戻す方法 121

次のステップ 122

9. Windows 98 SE の使用 123

Windows 98 SE のインストール 124

インストールに関する注意 124

- ▼ Windows 98 SE の再インストール方法 124
- Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成 125
- ▼ Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成方法 125
- ▼ Windows 98 SE 用に外部ビデオを構成する方法 126
- ▼ ディスプレイをシステムモニタに戻す方法 127
- 次のステップ 128

- 10. ドライブの使用と周辺装置の構成 129
 - SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムのフロッピーディスクドライブの使用 129
 - SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムの CD-ROM ドライブの使用 130
 - ▼ CD-ROM ドライブをマウントする方法 131
 - ▼ CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法 132
 - ▼ SunPCi II ウィンドウのサイズを変更する方法 132
 - オーディオデバイスと USB デバイスの接続 133
 - オーディオデバイスの接続 133
 - USB デバイスの接続 134
 - パラレルデバイスの接続 135
 - シリアルデバイスの接続 136
 - ▼ 外部モニタのシリアルマウスを構成する方法 136
 - 次のステップ 137

- 11. SunPCi IIソフトウェアの使用 139
 - sunpci コマンドとオプション 140
 - SunPCi II メニュー 143
 - [ファイル] メニュー 143
 - [オプション] メニュー 144
 - Boot@Boot サポート 145
 - SunPCi デーモン 145

Virtual Network Computing (VNC)	146
Boot@Boot サポートの構成と使用	147
VNC への Boot@Boot サポートの構成	148
Boot@Boot サポートするよう SunPCi II カードを準備する	150
Boot@Boot サポートに SunPCi II カードを構成する	150
Boot@Boot セッションのリスト	152
VNC または SunPCi II カードの Boot@Boot サポートを無効にする	152
VNC または SunPCi II セッションのシャットダウン	153
SunPCi デーモンプロセスのシャットダウン	153
手動による Boot@Boot 構成の変更	154
Xvnc 以外の X サーバーの使用	155
▼ リモートクライアントから VNC を操作する方法	155
エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア	156
FAT16 ファイルシステムの制限	156
ファイルシステムの互換性	157
Windows NT4 TS の大容量エミュレートドライブファイルシステムのパーティション	158
エミュレートドライブ、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、および SunPCi II ソフトウェア	158
▼ エミュレート C: ドライブをバックアップする方法	159
SunPCi II ソフトウェアでの古いエミュレートドライブの使用	160
複数の Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用	160
起動パーティションの作成	161
エミュレートディスクに関する問題のトラブルシューティング	161
エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア	161
ファイルシステムドライブ	162
ネットワークドライブ	162

- ▼ Windows ME または Windows 98 SE で Solaris ファイルおよびディレクトリ
へアクセスする方法 162
- ▼ Windows ME または Windows 98 で長いパスを持つディレクトリにドライブ
を割り当てる方法 164
- 拡張ドライブでの Windows ME および Windows 98 SE アプリケーションの
インストール 165
- ▼ Windows XP Professional、Windows 2000、またはWindows NT で Solaris
ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法 165

コピーおよび貼り付けコマンドの使用 167

- ▼ UNIX ウィンドウ から Microsoft Windows へのテキストをコピーする方
法 167
- ▼ Microsoft Windows から UNIX ウィンドウへのテキストのコピー 168
- ▼ Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるよ
うにする方法 168

Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する 169

- ▼ Microsoft Windows から Solaris プリンタを設定する方法 169

スクリーンセーバーの使用 170

次のステップ 171

A. トラブルシューティング 173

問題のサポート 173

SunPCi II 製品のホームページ 174

SunPCi II 既知の問題 175

CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール 175

Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際の
トラブルシューティング 175

SunFSD ソースディレクトリからのアプリケーションの
インストール 176

SunFSD ターゲットディレクトリへのアプリケーションの
インストール 177

ファイル番号の表示 177

ネットワークコンピュータの問題	178
ネットワークドライブを参照する際に SunPCi II ソフトウェアがハングしたように見える	178
SunPCi IIハードウェアの問題	179
ハードウェアエラーメッセージ	180
マウスの問題	181
フロッピーディスクドライブの問題	182
キーボードの問題	183
CD-ROM ドライブの問題	183
CD-ROM ドライブのセットアップ	184
ビデオディスプレイの問題	185
Sun Blade 100 の 24 ビットディスプレイ	185
外部ビデオ解像度	186
外部モニタと 1600 X 1200 の解像度	186
外部モニタと Windows NT	187
ネットワークハードウェアの問題	187
SunPCi II ソフトウェアの問題	189
ソフトウェア起動の問題	190
エミュレートハードドライブの問題	191
C: ドライブの接続	192
ディスクエラーメッセージ	192
拡張ドライブの問題	192
ネットワークの問題	193
構成後のネットワークの起動が遅い	193
他のシステムに接続できない	194
Windows XP Professional の問題	194
2つのマウスポインタ	195
ファイルシステムドライブの問題	195

日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題	196
Windows XP Professional の問題のトラブルシューティング	197
複数の Microsoft Windows バージョンの実行	198
Windows 2000 の問題	198
2つのマウスポインタ	198
ファイルシステムドライブの問題	199
CD-ROM ドライブの問題	199
日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題	200
Windows 2000 の問題のトラブルシューティング	201
複数の Microsoft Windows バージョンの実行	202
Windows NT の問題	202
外部ビデオの問題	202
ネットワークドライブへのインストールの問題	202
Windows NT の自動実行オプションからの回復	203
ファイルシステムドライブの問題	203
Windows NT 修復ディスクの作成	203
Windows NT 修復ディスクの使用	205
日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題	206
Windows 98 SE の問題	207
B. SunPCi II 各国語のサポート	209
海外サポート	209
キーボード環境変数の使用	210
KBTYPE 環境変数の設定	210
KBCP 環境変数の設定	211
▼ 環境変数の設定方法	212
▼ 環境変数をオフにする方法	212
▼ Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法	213

DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用	213
インターナショナルキーボードの使用	213
DOS 文字セット	214
コードページと SunPCi II ソフトウェア	215
コードページとは？	215
言語サポートコード	216
\$LANG 変数	217
C. SunPCi II パフォーマンス向上のヒント	219
SunPCi II 構成の調整	219
システムメモリの増設	220
エミュレートドライブの指定	220
ビデオパフォーマンスの向上	221
エミュレートドライブのパフォーマンスの向上	221
SunPCi II プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行	221
▼ ビデオメモリの増設方法	222
ビデオディスプレイの出力	223
SunPCi II ソフトウェアでの Palm Pilot の使用	223
D. 規制、安全、準拠に関する情報	225
Regulatory Compliance Statements	226
安全への準拠に関する情報	229
Declaration of Conformity	233
索引	235

目次

- 図 P-1 Sun キーボードの Meta キー xxiv
- 図 2-1 SunPCi II [オプション] メニュー 17
- 図 2-2 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックス 18
- 図 3-1 「既存のエミュレートドライブの接続」ダイアログボックス 32
- 図 10-1 SunPCi II カードの背面版にあるコネクタ 134
- 図 10-2 SunPCi II カードのアドオン背面板にあるコネクタ 135

表目次

表 2-1	SunPCi II 2.3 ソフトウェアに必要な Microsoft Service Pack	21
表 3-1	複数カード構成におけるファイル名の例	30
表 11-1	SunPCi II コマンドラインオプション	141
表 11-2	[オプション] メニューのディスク関連コマンド	144
表 11-3	変換されたファイルシステム間のアクセス可能性	157
表 A-1	SunPCi II エラーメッセージ	180
表 A-2	マウスの問題	181
表 A-3	CD-ROM ドライブの問題	183
表 A-4	SunPCi II ソフトウェアの外部ビデオ解像度 (SiS 630 ドライバ)	186
表 A-5	MAC アドレス問題における sunpciflash の使用	188
表 A-6	ソフトウェア起動エラーメッセージ	190
表 A-7	エミュレートハードドライブの問題	191
表 A-8	Windows XP Professional の問題	197
表 A-9	Windows 2000 の問題	201
表 B-1	KBTYPED 値	210
表 B-2	KBCPD 値	211
表 B-3	言語サポート	216
表 B-4	\$LANG 変数設定	217
表 C-1	ビデオに関するオプション	223

序文

『SunPCi II 2.3 ユーザーガイド』は、SunPCi™ II ソフトウェアのセットアップおよび操作について説明します。このマニュアルは、UltraSPARC™ システムに SunPCi II カードと SunPCi II 2.3 ソフトウェアをインストールした後に参照してください。

さらに、このマニュアルでは、SunPCi II カードで使用する次の Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストール方法についても説明します。

- Microsoft Windows XP Professional (Windows XP Professional)
- Microsoft Windows 2000 Professional (Windows 2000 Professional)
- Microsoft Windows 2000 Server Edition (Windows 2000 Server)
- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation (Windows NT4 WS)
- Microsoft Windows NT 4.0 Server (Windows NT4 Server)
- Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server (Windows NT4 TS)
- Microsoft Windows Millennium Edition (Windows ME)
- Microsoft Windows 98 Second Edition (Windows 98 SE)

このマニュアルに記載されている情報を有効に使用するため、まず、SunPCi II カードおよび SunPCi ソフトウェアパッケージを UltraSPARC システムにインストールします。カードのインストールと SunPCi II 2.3 ソフトウェアの詳細については、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

このマニュアルの対象読者

このマニュアルは、SunPCi II ソフトウェアを使用するすべてのユーザーを対象としています。SunPCi II を日常的に使用する一般ユーザーも、さまざまな SunPCi II セットアップのインストールや保守を担当するシステム管理者も、Microsoft Windows オペレーティングシステムとの SunPCi II ソフトウェアの使用についてはこのマニュアルを参照してください。

このマニュアルの説明は、一般ユーザーが理解できるように書かれています。ただし、Solaris™ オペレーティング環境、DOS オペレーティングシステム、そして目的のバージョンの Microsoft Windows ソフトウェアに関する基本的な知識は必要です。Caldera OpenDOS 7.01 (SunPCi II に使用する DOS のバージョン) は、MS-DOS 6.22 のスーパーセットです。

注 – SunPCi II カードで使用する UltraSPARC システム上への Microsoft Windows のインストールは、PC へのインストールとは異なります。したがって、Microsoft Windows のインストールの手順をよく理解している場合でも、このマニュアルの手順に従ってください。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次の章と付録から構成されます。

第 1 章では、SunPCi II 製品とその特徴について説明します。

第 2 章では、SunPCi II パッケージに含まれる内容をリストし、SunPCi II ソフトウェアをインストールして実行するために必要なシステムの必要条件について説明します。

第 3 章では、システムにインストールされた複数の SunPCi II カードを構成して使用する方法について説明します。

第 4 章では、SunPCi II 製品で仮想ネットワークと物理ネットワークを構成して使用する方法について説明します。

第 5 章では、Microsoft Windows XP Professional ソフトウェアを構成して使用する方
法、およびカスタムインストールの実行方法、Windows XP Professional へのアップ
グレード方法について説明します。

第 6 章では、Microsoft Windows 2000 Professional ソフトウェアと Microsoft Windows
2000 Server Edition ソフトウェアを構成して使用する方、カスタムインストールの実
行方法、これらのオペレーティングシステムへのアップグレード方法について説明し
ます。

第 7 章では、Microsoft Windows NT 4.0 Workstation ソフトウェアと Microsoft Windows
NT 4.0 Terminal Server ソフトウェアを構成して使用する方、およびカスタムインス
トールの実行方法について説明します。

第 8 章では、Microsoft Windows Millennium Edition ソフトウェアのインストール、構
成、使用方法、さらにカスタムインストールの実行方法、および Microsoft Windows
98 Second Edition から Microsoft Windows Millennium Edition へのアップグレード方
法について説明します。

第 9 章では、Microsoft Windows 98 Second Edition ソフトウェアを構成し使用する方
法、カスタムインストールの実行方法について説明します。

第 10 章では、周辺装置 (プリンタ、シリアルデバイス、オーディオデバイスなど) を
SunPCi II カードに接続する方法について説明します。これらの接続のうちいくつか
は、オプションのアドオン背面板 (SunPCi II パッケージに付属) を必要とします。

第 11 章では、`sunpci` コマンドとそのオプションの使用方を説明します。またこの
章には、SunPCi II ソフトウェアの実行についてのヒントも紹介されています。

付録 A では、発生する可能性のある問題と、その解決方法について説明します。

付録 B では、インターナショナルキーボードを使用できるように SunPCi II を構成す
る方法について説明します。

付録 C には、SunPCi II のパフォーマンスを向上させるヒントが記載されています。

付録 D には、SunPCi II ハードウェア製品の規制、安全そして準拠に関する情報が含
まれています。

UNIX コマンドの使用

このマニュアルには、システムのシャットダウンや起動、デバイスの構成、基本的な UNIX[®] のコマンドや手順に関する情報は記載されていません。

このような情報については、次を参照してください。

- Sun 周辺機器使用の手引き
- オンライン AnswerBook2[™] (Solaris[™] ソフトウェア環境について)
- システムに付属のその他のソフトウェアマニュアル

マニュアルの規則

このマニュアルの表記には、いくつかの規則があります。この項では、これらの表記規則とその意味について説明します。

Solaris コマンドウィンドウ

このマニュアルでは、さまざまな作業を実行する際に、コマンドウィンドウを開くように指示されることがあります。Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) では、これらのコマンドウィンドウは、コンソールまたは端末ウィンドウと呼ばれます。OpenWindows[™] 環境においては、Solaris コマンドツールウィンドウを使用することも、シェルツールウィンドウを使用することもできます。コマンドウィンドウは、UNIX コマンドを入力する、Solaris オペレーティングシステムの標準部分です。

表記規則

フォント	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。 <code>rm ファイル名</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	<code>% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

SunPCi II キーボードショートカット

SunPCi II ソフトウェアでは、SunPCi II ウィンドウ上部にあるメニューのさまざまな機能をキーボードショートカットで実行できます。SunPCi II コマンドで使用できるショートカットを表示するには、メニュー上で左マウスボタンを押し、ドロップダウンメニューを開きます。各コマンドの横に、対応するキーボードショートカットが表示されます。

CDE と OpenWindows 環境では、キーボードのショートカットは Meta キー (図 P-1) ともう 1 つのキーを組み合わせで使用します。Meta キーはキーボードのスペースバーの右側と左側にあります。ショートカットを使用するには、Meta キーを押しながらもう 1 つのキーを押します。たとえば、Meta-E キーの組み合わせは、Meta キーと E キーを同時に押すことを意味しています。



図 P-1 Sun キーボードの Meta キー

注 - この項の説明は、SunPCi II ソフトウェアのキーボードショートカットにのみ該当します。Microsoft Windows の各バージョンのキーボードショートカットについては、各オペレーティングシステムのマニュアルに説明されています。

SunPCi II ソフトウェアおよび Microsoft Windows を実行する際、コピー/貼り付け操作を可能にするため、Sun システムキーボードの Find、Undo、Copy、Paste、Cut キーが Microsoft Windows での該当アクションに割り当てられています。

カスタマーサポート

必要な情報がこのマニュアルに記載されていない場合は、SunPCi II の販売店またはサポートセンターにご連絡ください。米国以外にお住まいの場合は、販売元にご連絡ください。

関連マニュアル

ご使用の Microsoft Windows のバージョンの詳細とヘルプについては、関連する Microsoft Windows のマニュアルを参照するか、サービスプロバイダに問い合わせてください。

次の表は、SunPCi II 製品に関連する Sun のマニュアルを説明しています。

アプリケーション	タイトル	部品番号
SunPCi II ハードウェアと SunPCi II ソフトウェアのインストール	SunPCi II 2.3 インストールマニュアル	816-4250
オプションランダムアクセスメモリ SODIMM の SunPCi II カードへのインストール	SunPCi II SODIMM Installation Guide	806-5765
SunPCi II 製品についての重要な最新情報と注意	SunPCi II 2.3 Product Notes	806-4789

次の表は、各ヶ国語版のマニュアルが SunPCi II CD の Doc ディレクトリ内のどのディレクトリに収録されているかを示しています。SunPCi II CD のマニュアルを表示する方法については、6 ページの「PDF ファイルマニュアルの表示」を参照してください。

ディレクトリ名	言語	ディレクトリ名	言語
c	英語	ja	日本語
de	ドイツ語	ko	韓国語
es	スペイン語	sv	スウェーデン語
fr	フランス語	zh	中国語簡体字
it	イタリア語	zh_TW_Big5	中国語繁体字

第1章

SunPCi II バージョン 2.3 ハードウェアおよびソフトウェアの紹介

SunPCi II 2.3 ソフトウェアおよびハードウェアは、Solaris オペレーティング環境を実行する PCI ベースの UltraSPARC システムをパーソナルコンピュータ (PC) に統合します。PC は、Solaris デスクトップの 共通デスクトップ環境(CDE) の X ウィンドウ、またはカードに接続されている別のモニタから操作できます。SunPCi II 2.3 製品で、最大 40 ギガバイトのエミュレートディスクを作成できるようになりました。

この章では、次の主な項目について説明します。

- “サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム” –1 ページ
- “サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア” –5 ページ
- “SunPCi II 2.3 の機能” –2 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアのヘルプの表示” –5 ページ
- “Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示” –7 ページ

サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム

SunPCi II 2.3 製品では、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムと Service Pack がサポートされています。

- Microsoft Windows XP Professional (Windows XP Professional)
- Microsoft Windows 2000 Professional (Windows 2000 Professional) Service Pack 2
- Microsoft Windows 2000 Server Edition (Windows 2000 Server) Service Pack 2
- Microsoft Windows NT 4.0 Workstation (Windows NT4 WS) Service Pack 6a

- Microsoft Windows NT 4.0 Server (Windows NT4 Server) Service Pack 6
- Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server (Windows NT4 TS) Service Pack 6
- Microsoft Windows Millennium Edition (Windows ME)
- Microsoft Windows 98 Second Edition (Windows 98 SE)

注 - SunPCi II 2.3 ソフトウェアは、オリジナル版の Windows 95 オペレーティングシステムをサポートしていません。

SunPCi II 2.3の機能

この項では、Solaris デスクトップで使用する SunPCi II 2.3 製品の機能を説明します。

- Solaris デスクトップ上での PC - システムにインストールされた各 SunPCi II カードで、その PC アプリケーションを Solaris デスクトップのウィンドウで使用できます。
- Microsoft Windows XP Professional オペレーティングシステムのサポート - SunPCi II 2.3 ソフトウェアは、Windows XP Professional をサポートします。
- Microsoft Windows オペレーティングシステムの自動インストール - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスにより、さらに簡単に Windows オペレーティングシステムを選択、インストールすることができます。エミュレートドライブの作成では、Windows NT および Windows XP オペレーティングシステムの NT ファイルシステム (NTFS) もサポートしています。
- エミュレートドライブのパフォーマンスの向上 - ストリーミング書き込みによりパフォーマンスが向上しています。
- Microsoft Windows アプリケーション対応の高解像度 VGA ディスプレイ - SunPCi II ソフトウェアには、2 つの Microsoft Windows super-VGA ディスプレイドライバが含まれます。1 つは画面上の X ウィンドウで Microsoft Windows デスクトップを表示するためのドライバで、もう 1 つは外部 VGA モニタ用です。どちらのドライバをインストールするか選択することができます。
- 使い慣れた PC 周辺装置 - SunPCi II は、Microsoft マウスと IBM PC キーボードのエミュレーション、さらにプリンタやモデムなどの外部周辺装置へのアクセスを提供します。SunPCi II カードおよびオプションの背面板 (付属) には、PC 周辺装置に接続するための物理コネクタがあります。

- **ネットワークサービス、ファイル、プリンタへのアクセス** - SunPCi II 製品を使用すると、Ethernet ネットワークに接続することができます。また、物理または仮想ネットワーク接続を使用して、ネットワーク上の Solaris ファイルやプリンタにアクセスすることもできます。
- **複数の SunPCi II カードのサポート** - 複数のカードをインストールし、Sun UltraSPARC システムからワークステーションまたはサーバ PC アプリケーションに同時にアクセスすることができます。
- **電源管理サポート** - SunPCi II 2.3 は、Solaris 8 以降のオペレーティング環境でデバイスの自動電源管理をサポートできるようになりました。この機能により、SunPCi ウィンドウが実行していないときの SunPCi II カードの電力消費を抑えることができます。また、SunPCi ウィンドウが実行されていない場合には、UltraSPARC システムでサスペンドやレジュームを使用することもできます。以前のリリースの SunPCi ソフトウェアでは、SunPCi ウィンドウが実行していない場合でも、UltraSPARC システムをサスペンドすることができませんでした。Solaris 8 の電源管理の詳細については、power.conf のマニュアルページを参照してください。
- **大容量ディスクのサポート** - SunPCi II 2.3 は、最大 40 ギガバイトのエミュレートディスクをサポートします。
- **Boot@Boot のサポート** - Boot@Boot は、SunPCi II 2.3 リリースの新機能で、1 枚以上の SunPCi カードがインストールされている Solaris サーバを起動するとき、自動的に SunPCi 2.3 ソフトウェアを起動するように構成することができます。Boot@Boot の詳細については、このガイドの第 11 章を参照してください。

SunPCi II ソフトウェアパッケージには、Caldera OpenDOS 7.01 オペレーティングシステムが含まれます。Microsoft Windows オペレーティングシステムソフトウェアや PC アプリケーションに関しては、別に購入する必要があります。

PC ユーザーに対する利点

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアは、PC を通常利用しているユーザーに対し次のような利点をもたらします。

- ローカルの PC ハードドライブのように機能する、エミュレートハードドライブ
- PC 上のネットワークドライブに類似した拡張ドライブ
- IBM PC と PC キーボードのエミュレーション
- SunPCi オプションのアドオンの背面板に接続したプリンタ、スキャナ、デジタルカメラなどのシリアル、パラレル、USB 周辺装置へのアクセス

- 128 MB のオンボードメモリ (1 スロットでの標準) および追加メモリ用の第 2 スロット (128 MB と 512 MB のメモリが使用でき、合計で最大 1 GB までの増設が可能)
- ファイルや印刷サーバーなど、PC ベースサーバー、ワークステーション、ネットワークへのアクセス
- オプションでの外部 VGA モニタの使用
- 別の Ethernet 接続を使用した物理 Ethernet、または UltraSPARC システムのネットワーク機能を使用した仮想 Ethernet (仮想ネットワークは、複数の SunPCi カード環境では使用できません)
- ステレオスピーカーまたはヘッドフォン出力ジャック (出力) での PC オーディオ、およびモノラルのマイクロフォン入力ジャック (入力)

Solaris ユーザーに対する利点

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアは、UltraSPARC Solaris システムを通常利用しているユーザーに対し次のような利点をもたらします。

- カスタムの内部アプリケーションを含む、数多くの PC アプリケーションへの安定したアクセス
- super-VGA グラフィックを 16 ビットおよび 24 ビットカラーで表示する機能
- プリンタやファイルなど、ネットワークリソースを PC と Solaris 環境間で共有できる機能
- DOS または Microsoft Windows と OpenWindows/CDE アプリケーション間でのテキストのコピーおよび貼り付け機能 (この機能は、Microsoft Windows サーバー製品では使用できません)
- Novell NetWare ファイルや印刷サーバーなど、PC ベースのネットワークへのアクセス (カードが複数インストールされている場合、物理ネットワークのみがサポートされています。仮想ネットワークはサポートされていません)

サポートされている Citrix MetaFrame ソフトウェア

Citrix MetaFrame ソフトウェアを使用すると、Solaris クライアントは、リモートホストで Windows 2000 Server または Windows NT4 TS オペレーティングシステムを実行している SunPCi II 2.3 ソフトウェアを表示し、使用することができます。Citrix サーバーソフトウェアは、SunPCi II カードに接続する Windows 2000 Server または Windows NT4 TS オペレーティングシステムソフトウェアがインストールされているエミュレートドライブにインストールする必要があります。SunPCi II カードは Sun PCI ベースのホストにインストールする必要があります。

サーバーで Virtual Network Computing (VNC) の使用を構成している場合は、サーバーの起動時に SunPCi II ソフトウェアを起動することができます。この構成を使用すると、クライアント側で SunPCi II ソフトウェアを起動する必要はなくなります。

SunPCi II 2.3 ハードウェアおよびソフトウェアは、次の Citrix MetaFrame 製品をサポートしています。

- Citrix MetaFrame 1.8 for Microsoft Windows 2000 Servers
- Citrix MetaFrame 1.8 for Microsoft Windows NT 4.0 Servers

Citrix MetaFrame ソフトウェアの購入と使用方法については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.citrix.com>

SunPCi II ソフトウェアのヘルプの表示

SunPCi II コマンド (`sunpci`、`sunpcid`、`sunpciflash`) に関するヘルプは、オンラインで Solaris マニュアルページから、および SunPCi II 2.3 製品 CD の PDF ファイルのマニュアルから入手することができます。

▼ Solaris マニュアルページの表示方法

マニュアルページを利用して、Solaris オペレーティングシステムや Solaris ソフトウェアに関連付けられたコマンドに関する情報を得ることができます。Solaris オンラインマニュアルページを表示するには

1. MANPATH の変数を次のように設定します。

```
$MANPATH:¥opt¥SUNWspci2¥man
```

2. man と入力し、続けてヘルプを表示するコマンド名を入力します。

たとえば、sunpci コマンドに関するヘルプを表示するには、次のようにコマンドを入力します。

```
% man sunpci
```

「ページの再フォーマット中。お待ちください。」というメッセージが表示された後に、コマンドウィンドウにマニュアルページの 1 項目が表示されます。マニュアルページをスクロールするには、任意のキーを押します。マニュアルページを終了するには、Control-C キーを押します。

SunPCi II man ページディレクトリを MANPATH 環境変数に追加する方法については、Solaris のマニュアルを参照してください。

PDF ファイルマニュアルの表示

英語および自国の言語に翻訳されたマニュアルは、PDF (Adobe Acrobat) 形式で SunPCi II 2.3 製品 CD の Docs ディレクトリにあります。詳細については、序文の xxv ページの「関連マニュアル」を参照してください。SunPCi II CD-ROM には次のマニュアルが含まれています。

- PDF 形式の『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』 - 1 枚以上の SunPCi II カードのインストール方法、および UltraSPARC システムをサポートしている SunPCi II ソフトウェアの説明
- PDF 形式の『SunPCi II 2.2 ユーザーガイド』(本書) SunPCi II ソフトウェアを構成して 1 枚以上の SunPCi II カードを使用する方法、および SunPCi II カードに Microsoft Windows ソフトウェアをインストールする方法

- PDF 形式の『SunPCi II 2.3 Product Notes』(英語のみ) SunPCi II 製品の最新の問題点に関する説明

▼ PDF ファイルマニュアルの参照方法

PDF ファイルを参照するには、次の手順を実行します。

1. SunPCi II CD をCD-ROM ドライブに挿入します。
「CDE ファイルマネージャ」ウィンドウが表示されます。
2. 「ファイルマネージャ」ウィンドウで、目的の言語の PDF ファイルが保存されている SunPCi II CDの Docs サブディレクトリをダブルクリックします。
各言語のディレクトリ名を特定するには、序文の xxv ページの「関連マニュアル」、およびこのガイドを参照してください。
3. 別に表示される端末ウィンドウに次のコマンドを入力します。

```
% acroread &
```

数秒後に、Adobe Acrobat 初期画面が表示され、次にメインのプログラムウィンドウが開きます。

4. Adobe Acrobat で [ファイル] メニューから [開く] をクリックし、次に開くマニュアルのファイル名をダブルクリックして、マニュアルを開きます。

Adobe Acrobat のコマンド、および Page Up キーと Page Down キーを使用すると、PDF ファイルを参照または印刷することができます。

Microsoft Windows ソフトウェアヘルプの表示

Microsoft Windows オペレーティングシステムで作業中に Microsoft Windows 製品に関するヘルプを表示するには、開いているアプリケーションをツールバー上に最小化し、F1 キーを押します。または、Microsoft オペレーティングシステムウィンドウ

の [ヘルプ] メニューから [ヘルプ] を選択することもできます。F1 キーを押すと、または [ヘルプ] を選択することにより、Microsoft Windows ヘルプの「目次」ウィンドウが表示されます。

注 – Microsoft Windows ヘルプには SunPCi II アプリケーションに関するヘルプは含まれていません。SunPCi II アプリケーションソフトウェアのヘルプに関しては、前項で説明した Solaris マニュアルページや、このガイドの第 11 章の「SunPCi II ソフトウェアの使用」を参照してください。

Microsoft Windows アプリケーションソフトウェアのヘルプに関しては、アプリケーションのユーザーインターフェースやアプリケーションに付属のマニュアルを参照するか、または Microsoft に直接お問い合わせください。

Microsoft Windows ソフトウェアの削除

エミュレートドライブから Microsoft Windows ソフトウェアを削除するには、Microsoft Windows マニュアルを参照してください。

次のステップ

注 – SunPCi II カードを使用している UltraSPARC システムに Microsoft Windows をインストールする方法は、PC にインストールする方法とは異なります。したがって、Microsoft Windows インストール手順をよく理解している場合でも、本マニュアルの手順に従ってください。

- SunPCi II ソフトウェアの構成に関しては、第 2 章を参照してください。
- SunPCi II 製品と共に複数のカードを構成して使用する場合には、第 3 章を参照してください。
- ネットワーク接続を構成する前に、第 4 章の SunPCi II 2.3 ネットワークオプションを参照してください。

SunPCi II ハードウェアとソフトウェアをインストールして構成した後に、サポートされている Microsoft Windows のバージョンを 1 つ以上インストールすることができます。インストールを最も簡単に行うには、[SunPCi オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] をクリックし、インストールするオペレーティングシステムを選択します。詳細については、第 2 章を参照してください。

各オペレーティングシステムの構成と使用、アップグレードおよびカスタムインストールの詳細については、次の章を参照してください。

- 第 5 章—Windows XP
- 第 6 章—Windows 2000
- 第 7 章—Windows NT
- 第 8 章—Windows ME
- 第 9 章—Windows 98 SE

第2章

はじめに

この章の説明は、UltraSPARC システムへの SunPCi II カードのインストール、および SunPCi II 2.3 ソフトウェアパッケージのインストールが終了していることを前提としています。まだ、インストールしていない場合は、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

この章では、次の主な項目が扱われます。

- “システム必要条件” –12 ページ
- “複数の SunPCi II カードの構成” –13 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアの起動と終了” –13 ページ
- “エミュレートハードドライブの作成” –15 ページ
- “Service Pack のインストール” –21 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “SunPCi II ソフトウェアの起動方法” –13 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアの終了方法” –14 ページ
- “新規エミュレートドライブの作成方法” –17 ページ
- “CD から Service Pack をインストールする方法” –21 ページ
- “Microsoft Web サイトから Service Pack をダウンロードしてインストールする方法” –23 ページ
- “既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法” –24 ページ

システム必要条件

SunPCi II 2.3 ソフトウェアをインストールして使用するには、次の環境が必要です。

- 1枚以上の SunPCi II カードがインストールされている PCI ベースの UltraSPARC コンピュータ。サポートされているシステムの完全なリストについては、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。
- Solaris 2.6、Solaris 7 または Solaris 8 オペレーティング環境。
- Common Desktop Environment (CDE) X-Window マネージャ。
- ローカル (使用しているシステムに接続) またはリモート (ネットワーク上の別のコンピュータに接続) の CD-ROM ドライブ。

注 – SunPCi II 製品は、Sun CD-ROM ドライブのみをサポートしています。他社の CD-ROM ドライブでは正常に機能しない可能性があります。

- ローカルまたはリモート (ローカルを推奨) のハードディスク。SunPCi II パッケージ用に最低 40 MB と、さらにオペレーティングシステムに応じて次の空き容量が必要です。
 - Windows XP Professional – 2048 MB
 - Windows 2000 Server – 2048 MB
 - Windows 2000 Professional – 2048 MB
 - Windows NT4 TS – 1024 MB
 - Windows NT4 WS – 1024 MB
 - Windows ME – 512 MB
 - Windows 98 SE – 512 MB
- SunPCi II カードには、64 MB のオンボード RAM が搭載されています。SunPCi II システムで Microsoft Windows オペレーティングシステムを使用するには、SunPCi II カードに次の量の RAM がインストールされている必要があります。
 - Windows XP Professional – 128 MB (256 MB を推奨)
 - Windows 2000 Server – 128 MB (256 MB を推奨)
 - Windows 2000 Professional – 128 MB (256 MB を推奨)
 - Windows NT4 Server – 128 MB (256 MB を推奨)
 - Windows NT4 TS – 128 MB (256 MB を推奨)
 - Windows NT4 WS – 64 MB
 - Windows ME – 64 MB
 - Windows 98 SE – 64 MB

Windows NT4 Server または Windows NT4 TS に必要なメモリは、接続するユーザーの人数とタイプにより異なります。

複数の SunPCi II カードの構成

UltraSPARC サーバーまたはワークステーションに複数の SunPCi II カードをインストールすることができます。複数のカードを構成するには、次の手順に従ってください。

1. SunPCi Version I カードをすべて削除します。
2. 以前のバージョンの SunPCi ソフトウェアをすべて削除します。
3. 使用する SunPCi II カードをすべてインストールします。
4. SunPCi II 2.3 ソフトウェアをインストールします。
5. 1 枚のカード、およびそのエミュレートドライブソフトウェアを完全に構成します。
6. 残りの SunPCi II カードを構成します。

この手順については、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

SunPCi II ソフトウェアの起動と終了

この項では、SunPCi ソフトウェアの起動と終了について説明します。

▼ SunPCi II ソフトウェアの起動方法

- SunPCi ソフトウェアを起動するには、端末ウィンドウを開き、% プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci
```

SunPCi II ソフトウェアを初めて起動すると、ソフトウェアにより `~/pc` という Solaris ディレクトリが作成され、このディレクトリに数個の SunPCi II ファイルがインストールされます。この処理には、数分かかります。

注 – `sunpci` コマンドの完全パスを入力しないでソフトウェアを実行するには、`.login` ファイルの `$path` ステートメントを変更します。この方法については、Solaris ソフトウェアのマニュアルを参照してください。SunPCi ウィンドウのタイトルバーのテキストをカスタマイズするには、`sunpci` コマンドで `-title` オプションを使用します。詳細については、140 ページの「`sunpci` コマンドとオプション」を参照してください。例については、36 ページの「各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法」を参照してください。

▼ SunPCi II ソフトウェアの終了方法

SunPCi II ソフトウェアを終了するには、実行している Microsoft Windows オペレーティングシステムを先にシャットダウンする必要があります。

SunPCi II ソフトウェアを正しくシャットダウンするには、次の手順に従ってください。

1. Microsoft Windows で、[スタート] をクリックし、次に [スタート] メニューから [シャットダウン] をクリックします。



注意 – SunPCi ウィンドウを終了する前に、必ず Microsoft Windows をシャットダウンしてください。そうしないと、ファイルやアプリケーションが破損する可能性があります。



注意 – Microsoft Windows をシャットダウンするとき、[サスペンド] オプションは選択しないでください。SunPCi ソフトウェアは、サスペンドコマンドをサポートしていません。

2. コンピュータをシャットダウンするオプションを選択し、[OK] または [はい] をクリックします。

Windows オペレーティングシステムがシャットダウンすると、「コンピュータの電源を切る準備ができました」というメッセージが表示されます。

3. SunPCi ウィンドウの [ファイル] メニューから [終了] をクリックします。
確認のウィンドウが表示されます。
4. [OK] をクリックし、SunPCi アプリケーションを終了します。

エミュレートハードドライブの作成

SunPCi ソフトウェアを初めて起動すると、エミュレート C: ドライブの作成を求めるダイアログボックスが表示されます。[作成] をクリックすると、「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、次の処理を行うことができます。

- 自動インストールするオペレーティングシステムの選択
- エミュレートドライブのサイズの指定
- エミュレートドライブを C: および D: ドライブとして接続するか、またはそのどちらにも接続しないかの指定
- エミュレートドライブのディレクトリおよび名前の指定

このダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを選択すると、Windows のインストールを簡単に行うことができます。SunPCi ソフトウェアには、カスタマイズされたインストールファイルが必要です。これらのファイルの場所は、Windows オペレーティングシステムの種類によって異なります。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、ブートファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi の再起動の際に Windows セットアップが起動します。

追加のハードウェアドライブを作成して、C: または D: ドライブとして使用することもできます。

エミュレートドライブは、SunPCi が Solaris 環境に作成する 1 つのファイルです。デフォルトでは、このファイルには `c.diskimage` という名前が付けられ、ホームディレクトリの `/pc` サブディレクトリに保存されます。

エミュレートドライブは、Solaris 環境におけるファイルであるため、エミュレートドライブ (複数作成することも可) は、どの SunPCi II カードでも接続先にすることができます。各ドライブに異なる Windows オペレーティングシステムをインストール

し、そのドライブに接続してそこから起動し、SunPCi II カード上のオペレーティングシステムを開始することができます。SunPCi II カードは、PC のように Windows オペレーティングシステムを一度に 1 つだけ起動することができます。

SunPCi II カードを 1 枚だけインストールしている場合、標準インストールでは、エミュレートドライブにデフォルトのファイル名が使用されます。複数のカードがインストールされている場合は、29 ページの「SunPCi II ソフトウェアでの複数カードの構成」を参照してください。構成ファイル、ドライブ名、および関連カード名の管理を簡単にするため、名前を付ける際に規則を設けることをお勧めします。

DOS 固有の制限のため、最大 40 GB のエミュレートドライブを作成しても、FAT16 ファイルシステムを使用すると、最初の 2 GB 以外の部分には DOS からアクセスできません。どの Microsoft Windows オペレーティングシステムでも FAT16 のディスクが使用できますが、FAT16 形式で使用できるのは最大 2 GB までに限られます。Microsoft Windows オペレーティングシステムをインストールした後に、2 GB を超える部分にアクセスし、エミュレートハードドライブを再フォーマットして変換したり、パーティションの編成を変更したりすることができます。156 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください。

注 – Version 2.0 より前の SunPCi で作成した C: ドライブファイルは、起動ドライブとして使用することができません。ただし、そのファイルを D: ドライブとして接続することはできます。同様に、SunPCi II 2.3 ソフトウェアで作成した C: ドライブを前のバージョンの SunPCi ソフトウェアで使用することはできません。

▼ 新規エミュレートドライブの作成方法

1. 端末ウィンドウを開き、% プロンプトで次のコマンドを入力して、SunPCi II ソフトウェアを起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci
```

SunPCi II カードのエミュレートハードドライブを作成していない場合は、「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが自動的に表示されます。手順 4 に進みます。

2. SunPCi II ウィンドウ上部の [オプション] メニューを選択します。

[オプション] メニューが表示されます。図 2-1を参照してください。

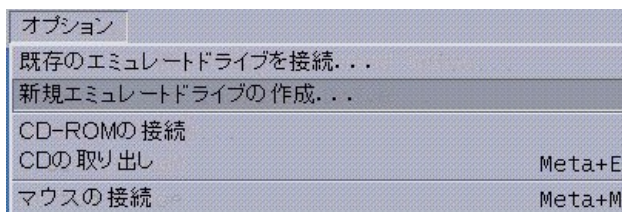


図 2-1 SunPCi II [オプション] メニュー

3. メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択します。

「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスが表示されます。図 2-2を参照してください。

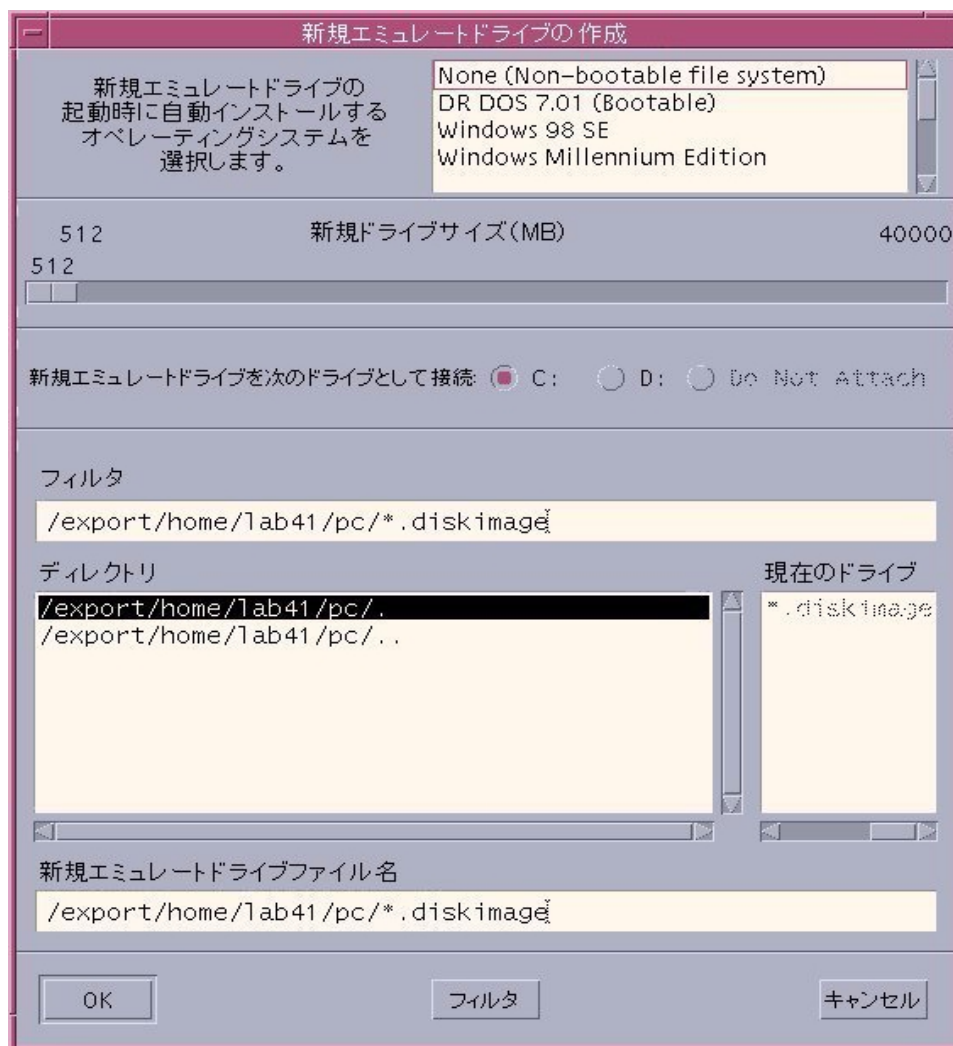


図 2-2 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックス

4. ダイアログボックスの一番上のペインで、新しいドライブを起動するときに自動インストールするオペレーティングシステムを選択します。

- 起動できないドライブ (D: ドライブ) を作成する場合は、[なし] (起動できないドライブ) を選択します。ドライブを使用するためには、まずドライブをフォーマットする必要があります。フォーマットについては、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。
- 後で Windows オペレーティングシステムのカスタムインストールを予定している場合は、DR DOS 7.01 (起動可能) を選択します。オペレーティングシステムをインストールする手順は、このガイドの対応する章で説明されています。
- リストボックスから自動インストールする Windows オペレーティングシステムを 1 つ選択します。ただし、Windows ME オペレーティングシステムでは自動インストール機能が使えません。Windows ME オペレーティングシステムをインストールするには、第 8 章の手順に従ってください。



注意 – 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで自動インストールするオペレーティングシステムを指定し、CD-ROM ドライブに適切な Microsoft Windows CD を挿入すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、ブートファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi の再起動の際に Windows セットアップが起動します。カスタマイズされたインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを行わないでください。

ほとんどのオペレーティングシステムで、ディスクを FAT16 ファイルシステムと NTFS ファイルシステムのどちらで作成するかが選択できます。NTFS ファイルシステムでフォーマットした C: ドライブで OpenDOS を起動することはできません。これは既知の制限です。詳細については、156 ページの「FAT16 ファイルシステムの制限」を参照してください。

5. ダイアログボックスの 2 番目のペインでスライダをドラッグし、新規ドライブのサイズを MB 単位で設定します。

スライダは、推奨のデフォルトサイズに自動的に設定されています。スケールの左端は、選択したオペレーティングシステムに必要な最小のドライブサイズです。

ドライブは一度作成すると拡張できないため、十分なサイズが確保されていることを確認します。システム上のハードディスクの空き容量によって、エミュレートドライブに最高 40 GB まで指定することができます。

注 – 最高の性能を得るには、Microsoft Windows アプリケーションの一部をローカルのドライブ C: または D: にインストールすることをお勧めします。ドライブサイズを選択する際、これらのアプリケーションのインストールに必要な容量も考慮してください。

6. **ダイアログボックスの 3 番目のペインで、新しいドライブを接続する方法を選択します。**

ドライブを作成してもすぐに接続しない場合は、[接続しない] ボタンをクリックします。すぐに接続する場合は、C: または D: の横のラジオボタンをクリックします。

7. **ダイアログボックスの一番下のペインで、新しいドライブで使用するパスとファイル名を入力します。**

既存のファイルを参照するには、[フィルタ] フィールドとボタンを使用します。エミュレートドライブに新しい名前を指定する必要があります。

注 – 最高の性能を得るには、ワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクにエミュレートドライブを作成することをお勧めします。ホームディレクトリ (デフォルトの場所) は、ネットワークドライブ上に置くことができます。Microsoft Windows のパフォーマンスを大幅に向上させるには、ホームディレクトリをローカルハードドライブ上に置くことをお勧めします。

8. **[OK] をクリックします。**

ディスクファイル作成の進行状況を示すウィンドウが表示されます。

9. **オペレーティングシステムの自動インストールを選択した場合は、オペレーティングシステムのインストール CD を CD-ROM ドライブに挿入し、SunPCi ウィンドウの指示に従います。**

注 – Meta-M キーを押すと SunPCi ウィンドウにマウスを接続でき、さらに Meta-M キーをもう一度押すと他のウィンドウでマウスを使用することができます。

注 – システムに複数のカードをインストールする場合には、第 3 章の 27 ページの「複数の SunPCi II カードの使用」を参照してください。インストールを続行する前に、複数カードの構成に関する項を読んで下さい。カードを 1 枚だけ構成する場合と複数構成する場合とでは、大きな違いがあります。

Service Pack のインストール

Windows オペレーティングシステムソフトウェアをインストールした後、場合によっては Microsoft Service Pack のインストールが必要になります。Service Pack をインストールする方法は 2 つあります。Service Pack は、Windows オペレーティングシステムの完全インストールパッケージ CD または他の Microsoft CD に含まれています。また、Microsoft Web サイトで入手することも可能です。23 ページの「Microsoft Web サイトから Service Pack をダウンロードしてインストールする方法」を参照してください。

表 2-1 には、SunPCi II 2.3 ソフトウェアで必要な Service Pack が、Windows オペレーティングシステム別にリストされています。指定バージョン以降の Service Pack をインストールしてください。

表 2-1 SunPCi II 2.3 ソフトウェアで必要な Microsoft Service Pack

Windows オペレーティングシステム	必要な Service Pack
Windows XP Professional	必要なし
Windows 2000 Professional	Service Pack 2
Windows 2000 Server	Service Pack 2
Microsoft Windows NT 4.0 Workstation	Service Pack 6a
Microsoft Windows NT 4.0 Server	Service Pack 6
Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server	Service Pack 6
Windows ME	必要なし
Windows 98 Second Edition	必要なし

▼ CD から Service Pack をインストールする方法

1. 端末ウィンドウを開き、% プロンプトで次のコマンドを入力して、SunPCi II ソフトウェアを起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci
```

ログイン画面が表示されます。

2. ユーザー名とパスワード (必要な場合) を入力し、[OK] をクリックします。
一部の Windows オペレーティングシステムでは、ソフトウェアをインストールする場合に管理者としてログインする必要があります。
3. [スタート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [プログラム] を選択します。Windows の [エクスプローラ] を選択します。
「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。
4. 該当する CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
自動実行ウィンドウが表示されます。
5. Windows エクスプローラで、CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックします。
6. 適切な Service Pack ファイル名をダブルクリックします。
Service Pack プログラムによって Service Pack ファイルが C:¥temp に抽出され、抽出プロセスが完了すると、update.exe プログラムが自動的に実行されます。
「Service Pack セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

注 - update.exe が自動的に実行されない場合は、C:¥temp の update.exe アイコンをダブルクリックすればセットアッププログラムが起動します。

7. 使用許諾契約書を読み、[同意する] をクリックします。[ファイルをバックアップする] メッセージの横にあるチェックボックスをクリックし、このオプションを解除します。[次へ] をクリックします。
「Service Pack セットアップ」画面が表示されます。インストールには数分間かかります。インストールの進行状況を示すバーが画面に表示されます。
8. Service Pack のインストールが完了したら、Windows を再起動します。

▼ Microsoft Web サイトから Service Pack をダウンロードしてインストールする方法

1. Web ページの指示に従って、Microsoft Web サイトから適切な Service Pack をダウンロードします。

どの Service Pack が必要かを調べるには、表 2-1 を参照してください。Service Pack は次の URL で入手できます。

<http://support.microsoft.com/>

2. 端末ウィンドウを開き、% プロンプトで次のコマンドを入力して、SunPCi II ソフトウェアを起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci
```

ログインの画面が表示されます。

3. ユーザー名とパスワード (必要な場合) を入力し、[OK] をクリックします。

Windows オペレーティングシステムにソフトウェアをインストールする場合は、管理者としてログインする必要があります。

4. [スタート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [プログラム] を選択します。Windows の [エクスプローラ] を選択します。

「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。

5. ダウンロードしたファイルを保存したディレクトリのフォルダ (C:¥temp など) をダブルクリックします。

6. Service Pack ファイル名をダブルクリックします。

Service Pack プログラムによって Service Pack ファイルが C:¥temp に抽出され、抽出プロセスが完了すると、update.exe プログラムが自動的に実行されます。

「Service Pack セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

注 - update.exe が自動的に実行されない場合は、C:¥temp の update.exe アイコンをダブルクリックしてセットアッププログラムを起動します。

7. 使用許諾契約書を読み、[同意する] をクリックします。[ファイルをバックアップする] メッセージの横にあるチェックボックスをクリックして選択を解除します。[次へ] をクリックします。

「Service Pack セットアップ」画面が表示されます。インストールには数分間かかります。インストールの進行状況を示すバーが画面に表示されます。

8. Service Pack のインストールが完了したら、Windows を再起動します。

▼ 既存のエミュレートドライブを C: または D: ドライブとして接続する方法

注 – 使用するドライブがすでに接続されている場合は、この手順を省略してください。

エミュレートドライブを SunPCi II カードに接続されていない C: または D: ドライブとして使用する場合、または接続されているドライブがない場合は、ドライブを接続する必要があります。

既存のエミュレートドライブを接続するには、次の手順を実行します。

1. [オプション] メニューから [既存のエミュレートドライブの接続] コマンドを選択します。

「SunPCi で既存のエミュレートドライブを接続」ダイアログボックスが表示されます。

2. C: または D: の横のラジオボタンをクリックして、ドライブの接続方法を指定します。
3. 17 ページの「新規エミュレートドライブの作成方法」で作成したエミュレートドライブファイルのパスとファイル名を入力します。

ドライブファイルの名前を忘れた場合は、ドライブファイルのパスを入力し、[フィルタ] をクリックします。ファイルのリストが表示されます。必要なドライブファイルを選択します。

4. [OK] をクリックします。

ドライブは C: または D: ドライブとして接続されました。

ダイアログボックスが開き、「In order for the drive mapping to take place, SunPCi must be rebooted. Reboot now?」というメッセージが表示されます。

5. Microsoft Windows を実行している場合は、[スタート] メニューを使用してシャットダウンします。Microsoft Windows がシャットダウンしたら、再起動ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
6. [ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択して変更を適用します。
「SunPCi 再起動」ダイアログボックスを表示します。
7. [OK] をクリックします。
SunPCi ソフトウェアが新しく接続したドライブを使用して再起動します。

次のステップ

- 追加のカードを構成する前に 15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」に戻り、第 3 章にある複数のカードのアクティブ化と使用についての説明を参照してください。
- ネットワーク接続を構成する前に、SunPCi II 2.3 ネットワークオプションに関する第 4 章を参照してください。
- システムのフロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ、または外部モニタの使用での問題については、第 10 章を参照してください。
- PC に Windows アプリケーションソフトウェアをインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの使用に関するヘルプについては、第 11 章を参照してください。

複数の SunPCi II カードの使用

この章では、追加のカードの構成方法を説明します。この説明は、SunPCi II 2.3 ソフトウェアパッケージおよび同時に使用するカードすべてをインストールしており、第2章の手順に従って1枚目のカードの構成が終了していることを前提にしています。

SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、UltraSPARC サーバーおよびワークステーションの両方に複数の SunPCi II カードをインストールすることができます。SunPCi II カードで使用する Microsoft Windows オペレーティングシステムは、サポートされているならどれでもインストールすることができます。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、1ページの「サポートされている Microsoft Windows オペレーティングシステム」を参照してください。

この章では、次の主な項目について説明します。

- “構成に入る前に” –28 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアでの複数カードの構成” –29 ページ
- “カードとエミュレートドライブの使用” –32 ページ
- “特定のディスクイメージファイルの起動” –35 ページ
- “イメージファイル構成の変更” –37 ページ
- “複数のカードの動作” –38 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “-new オプションを使用した .ini ファイルの作成方法” –31 ページ
- “カード名の特定方法” –33 ページ
- “特定の .ini ファイルの起動方法” –33 ページ
- “特定のカードの起動方法” –34 ページ
- “特定のイメージと特定のカードの起動方法” –35 ページ

- “各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法” –36 ページ
- “SunPCi II カード構成の更新方法” –36 ページ

構成に入る前に



注意 – システムを停止して複数のカードをインストールする前に、まず以前のバージョンの SunPCi ソフトウェアを削除してください。(『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください) 再構成起動 (`halt; reboot -r`) を実行し、そして SunPCi II 2.3 ソフトウェアをインストールします。



注意 – Version 2.2.1 より前の SunPCi ソフトウェアでは、複数のカードをサポートしていません。複数のカードをインストールする前に、Version 2.2.1 より後の SunPCi ソフトウェアをインストールする必要があります。2.2.1 以前のバージョンから SunPCi 2.3 ソフトウェアにアップグレードする前に複数の SunPCi カードをインストールすると、システムに異常が発生することがあります。また反対に、SunPCi II 2.3 バージョンをインストールした後に、以前の SunPCi ソフトウェアをインストールしても、システムに異常が発生することがあります。マシンから古いソフトウェアを削除できない状態になった場合には、追加したカードを削除するとシステムに異常が発生することを回避できます。まだすべてのカードをインストールしていない場合には、この章に目を通してからインストールしてください。インストール方法については、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

既存のシステムにカードを追加する前に、古い SunPCi ソフトウェアが削除されていることを確認します。ソフトウェアの構成を最終決定してソフトウェアを起動する前に、構成ファイルとカードを明確に特定する必要があります。これは、カードをインストールするときに行う必要があります。『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

詳細な SunPCi II 複数カードのサーバーの構成

SunPCi II メモリ、CPU、およびベンチマークの情報に関するさらに詳しい SunPCi II サーバースポーツは、次の URL にあるホワイトペーパーを参照してください。

- <http://www.sun.com/blueprints/0601/windows.pdf>
- <http://www.sun.com/blueprints/1101/sizesunray.html>

SunPCi II ソフトウェアでの複数カードの構成

新たに複数の SunPCi II カードと Microsoft Windows サーバースoftwareがサポートされ、SunPCi ハードウェアおよびソフトウェアの構成方法がさらに多様になりました。

初めて SunPCi II ソフトウェアを起動すると、デフォルトの **ファイル名.ini** (.ini) 構成ファイルが `~/pc/SunPC.ini` として作成されます。希望のエミュレートドライブ C: または D: を起動するには、この .ini ファイルを `sunpci` コマンドラインから指定します。

複数のカードがあるシステムでは、1 つのエミュレートドライブは一度に 1 つのカードにのみ関連付けることができます。必要に応じて特定のカードを指定することもできますが、デフォルトでは、ドライブは次の使用可能なカードに接続されます。

デフォルトの .ini 構成ファイル

エミュレートドライブ C: または D: を起動するには、`SunPC.ini` という名前のデフォルトの .ini ファイルにそのドライブのファイル名が書き込まれている必要があります。このドライブ名は、SunPCi II ソフトウェアを使用してドライブを作成し、接続する際に自動的に挿入されます。

また `SunPC.ini` 構成ファイルには、PC コンポーネント名やその他の情報も挿入されます。PC コンポーネントには、ドライブイメージファイル名、CD-ROM デバイスファイル名、フロッピーディスクデバイスファイル名、そしてプリンターやその他の周辺装置など、その他のデバイスが含まれます。

次は、カードが1枚インストールされたシステムに作成された、デフォルトの SunPC.ini ファイルの内容例です。

```
[Drives]
A drive=/dev/rdiskette
C drive=/home/user/pc/C.diskimage
CD=/vol/dev/aliases/cdrom0
D drive=/net/host/export/SunPCi_II/D.diskimage
```

複数のカードを使用している際の .ini ファイルの命名

同じシステムに複数のカードをインストールする場合には、それぞれのカードに対して .ini ファイルと、エミュレートドライブ C: または D: のドライブイメージが必要です。ただし、特定のカードが必ずしも特定の .ini ファイル名に関連付けられるわけではありません。

.ini ファイルおよびそのファイルと関連付けられている C: および D: ドライブイメージがはっきりと分かるようにファイルやディスクイメージに名前を付けると便利です。1つの .ini ファイルには、2つまでドライブイメージを含めることができます。

名前を付ける際のヒントとしては、.ini ファイルとそのディスクイメージに、ディスクイメージにインストールされた Microsoft Windows オペレーティングシステムなど、判別可能な特徴を使用して名前を付けることが挙げられます。表 3-1 の例では、この方法を使用して3枚のカードのディスクイメージ名に対応するように、表の一行に1つずつ .ini ファイルに名前が付けられています。1つの .ini ファイルには、2つまでディスクドライブイメージを含めることができます。カード 1 枚に対して一度に実行できるのは、1つの C: および1つの D: ドライブのみです。

表 3-1 複数カード構成におけるファイル名の例

.ini ファイル名	それぞれの .ini ファイル内のディスクイメージ名
SunPC.ini (デフォルト)	C. ディスクイメージ D. ディスクイメージ
win2k.ini	C.win2k. ディスクイメージ
ntts4.ini	C.ntts4. ディスクイメージ

特に指定しない限り、`sunpci` コマンドと `-new` オプションを使用した場合、デフォルトの SunPCi 2.3 グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) の動作では、`win2k` などのような、指定された `.ini` ファイル名の最初の部分が、表 3-1 に示されているように、ディスクイメージファイル名に組み込まれます。次の手順では、この動作について説明します。

▼ `-new` オプションを使用した `.ini` ファイルの作成方法

次の手順は、システムにカードが追加インストールされていることを前提としています。新しい `.ini` ファイルを作成するには、次の手順に従ってください。

1. Solaris プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -new ファイル名.ini
```

デフォルトでは、`c.ファイル名.diskimage` の形式で、新しいファイル名 `.ini` ファイルと同じ名前が C: エミュレートドライブに自動的に割り当てられます。GUI を使用して、その名前を編集することができます。

SunPCi II ソフトウェアで「既存のエミュレートドライブを接続」ダイアログボックスが表示されます。例内の変数「ファイル名」は、手順 1 で入力したファイル名に置き換えられます。



図 3-1 「既存のエミュレートドライブの接続」ダイアログボックス

2. Return を押して、デフォルトのディスクイメージ名を受け入れます。

カードとエミュレートドライブの使用

エミュレートドライブは SunPCi II カード上で実行する必要がありますが、SunPCi II エミュレートドライブは特定のカード上で実行する必要はありません。デフォルトでは、特定の .ini ファイルとその関連ドライブが使用可能なカードで起動され、どのカードが使用されるかは分かりません。ただし、ドライブと特定のカードを一緒に起動することはできます。一緒に起動するには、システムにインストールされたカードを特定する必要があります。

▼ カード名の特定方法

- インストール済みのカード名を特定するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -l
```

Card1 などのカード名、/dev ディレクトリにある、カードのデバイスファイル名、カードの種類、カードの説明、カードの ID または Ethernet (MAC) アドレスが表示されます。

次は、2 枚のカードがインストールされたシステムからの出力例です。

```
Name = Card1
  Device = /dev/sunpci2drv0
  Type = SunPCi II
  Description = SunPCi II card
  ID = 08:00:20:F9:5F:2C

Name = Card2
  Device = /dev/sunpci2drv3
  Type = SunPCi II
  Description = SunPCi II card
  ID = 08:00:20:E7:9B:06
```

注 - カードのいずれかが実行中の場合には、ID メッセージではなく「(Card In Use)」メッセージが表示されることがあります。

▼ 特定の .ini ファイルの起動方法

デフォルトでは、オプションなしで sunpci コマンドを使用すると、SunPCi ソフトウェアは SunPC.ini ファイルを使用します。複数カード構成で、別のエミュレートドライブを起動するには、-p オプションと共に sunpci コマンドを使用します。

- `-p` オプションで特定のファイルと共に SunPCi II ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -p ファイル名.ini
```

参照されたディスクイメージを使用して、SunPCi II ソフトウェアが起動します。

ドライブが作成されていないカードでエミュレートドライブを起動すると、次のような Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスが表示されます。

```
This emulated drive image was created on another SunPCi card. This
could cause problems if there was special hardware connected to
that card. It could also cause problems if your installed software
or configuration makes any assumptions about the MAC address.
```

```
Emulated Disk File /pathname/c.diskimage
was created on the card with the MAC address xx:yy:zz:zz:yy:xx
```

```
If you do not wish to see this message in the future, start sunpci
with the -nomac option.
```

アプリケーション登録やネットワーク構成セットアップに影響が出る場合、`-nomac` オプションを使用するか、またはディスクイメージに MAC アドレスを再割り当てして、特定のイメージとカードをバインドできます。

MAC アドレスを現在のディスクイメージにバインドするには、`-bindmac sunpci` コマンドオプションを使用します。詳細については、140 ページの「`sunpci` コマンドとオプション」を参照してください。

▼ 特定のカードの起動方法

構成上の理由から、特定の C: ドライブで特定のカードを起動する必要がある場合があります。たとえば、ポートにプリンタが接続されたカードで実行する場合や、メモリを消費するアプリケーションをサポートするために特定のカードで実行する場合などです。

- 特定のカードで SunPCi II ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -c カード名 -p ファイル名.ini
```

上記のカード名は、Card1 や Card2 のようなシステムから返されるカードの名前です。

特定のディスクイメージファイルの起動

別のディスクイメージ上で別の Microsoft Windows オペレーティングシステムと共に SunPCi ソフトウェアを使用する場合には、必要な数だけオペレーティングシステムの C: ドライブイメージファイルを作成することができます。次に、オペレーティングシステムをインストールします。このガイドの該当する章を参照してください。

別の Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するには、使用しているオペレーティングシステムの [シャットダウン] を選択し、SunPCi II GUI を終了します。次に、`sunpci` コマンドラインと `-p` オプションを使用して必要なディスクイメージを起動します。

注 - ディスクイメージファイルを接続し、それを SunPCi GUI から実行すると、イメージが接続するカードの MAC アドレスが `.ini` ファイルのヘッダー情報内で書き込まれます。Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスは表示されません。詳細については、33 ページの「特定の `.ini` ファイルの起動方法」を参照してください。

▼ 特定のイメージと特定のカードの起動方法

特定のイメージと特定のカードを起動すると、イメージとカードをリンクでき、特定のイメージを特定のカード上で実行できます。

注 - カード 1 枚で、一度に 1 つのオペレーティングシステムのみを実行することができます。

- `-p` および `-c` オプションを使用して、特定のファイルと特定のカードと共に SunPCi ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -p ファイル名.ini -c カード名
```

参照されたディスクイメージおよびカードを使用して、SunPCi II ソフトウェアが起動します。

イメージが作成されていないカードでイメージを起動すると、次のような Ethernet (MAC) アドレスに関する警告ダイアログボックスが表示されます。33 ページの「特定の .ini ファイルの起動方法」を参照してください。

▼ 各カードウィンドウのタイトルバーの指定方法

システムで複数のカードを実行している場合、どの Solaris デスクトップウィンドウでどのオペレーティングシステムとカードが実行されているのかが分かると便利です。SunPCi II ウィンドウのタイトルバーにテキストを入力すると、各ウィンドウを判別することができます。

- sunpci コマンドと `-title` オプションを使用して SunPCi ウィンドウのタイトルバーにテキスト文字列を追加します。

たとえば、特定の .ini を Card2 と共に起動する sunpci コマンドにタイトルを指定するには、次のように入力します。

```
% sunpci -title "Win2k Terminal Server on" -c card2 -p  
~/pc/win2kts.ini
```

これで、SunPCi 端末ウィンドウのタイトルバーに、「Win2k Terminal Server on Card2.」というテキストが表示されます。`-title` オプションの使用の詳細については、140 ページの「sunpci コマンドとオプション」を参照してください。

▼ SunPCi II カード構成の更新方法

SunPCi II カードの追加、削除、移動、置き換えが必要となることがあります。この場合、それぞれの作業後に、SunPCi II Solaris ドライバを更新するには、次の手順に従ってください。

1. /etc/Master.ini ファイルおよび /etc/Master.bak ファイルがあれば削除します。
2. スーパーユーザーとしてログインし、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWspci2/drivers/solaris/sunpload
```

3. Boot@Boot サポートが中止されるため、必要に応じてこのサポートを再構成します。
-a および -e オプションと共に `sunpcid` コマンドを使用して、VNC およびカードを追加し、有効にします。

147 ページの「Boot@Boot サポートの構成と使用」を参照してください。

4. スーパーユーザーアカウントを終了し、通常通りソフトウェアを起動します。

イメージファイル構成の変更

構成を最終決定する前に考慮する必要がある付加的な問題は、次のとおりです。

- 37 ページの「イメージとカードの再バインド」
- 38 ページの「カードの MAC アドレスのプログラム」
- 38 ページの「複数のカードでのネットワーク」

イメージとカードの再バインド

`disk.imagefile` ファイルが作成されると、`disk.imagefile` が作成されたカードの MAC アドレスがそのファイルヘッダーに書き込まれ、カードが `disk.imagefile` にバインドされます。バインドは情報提供を目的とするのみで、別のカードで C: または D: ドライブを実行する障害にはなりません。`sunpci` コマンドの `bindmac` オプションは、`disk.imagefile` ヘッダーで現在のカードの MAC アドレスを書き換えます。

このスイッチはほとんど使用されません。C: ドライブにおいて、登録またはネットワーク上の理由から、インストールされたアプリケーションによって元のカードの MAC アドレスが使用された場合、これを再割り当てすると、ライセンスおよびネットワーク上の問題が生じることがあります。

ディスクイメージのバインドを構成する前に、`sunpci` と `sunpciflash` コマンドラインオプションの説明を読み、その内容をよく理解してください。詳細については、140 ページの「`sunpci` コマンドとオプション」を参照してください。また `sunpciflash` については、表 A-5 を参照してください。

カードの MAC アドレスのプログラム

通常は、SunPCi II カード上の MAC アドレスを更新したり変更する必要はありませんが、トラブルシューティングの必要がある場合や、複数のカードを更新する必要がある場合には、付録 A の187 ページの「ネットワークハードウェアの問題」を参照してください。

複数のカードの動作

次は、同じシステムにインストールされた複数のカードを実行する場合の制限や機能です。

複数のカードでのネットワーク

複数のカードがインストールされたシステムでは、仮想ネットワークは自動的に無効になります。複数カード構成では、物理ネットワークを使用してください。

複数カードでのフロッピーディスクドライブの使用

1 つのシステムで複数のカードが実行されている場合、ある SunPCi II セッションでフロッピーディスクドライブの使用が開始されると、他のセッションでは使用できません。使用中ではない場合には、フロッピーディスクドライブは、それが使用可能になった後に起動された最初の SunPCi II セッションにロックされます。

複数カードでの CD-ROM ドライブの使用

1 つのシステムで複数のカードが実行されている場合、これらのカードはシステム CD-ROM ドライブを共有します。この場合ドライブに CD を挿入すると、すべての実行中の SunPCi セッションで自動実行が起動することがあります。これは頻繁に起こる状況ではありませんが、予期される動作です。

次のステップ

- ネットワーク接続を構成する前に、第 4 章の SunPCi ネットワークオプションを参照してください。

SunPCi II 2.3 ハードウェアおよびソフトウェアをインストールして構成した後に、サポートされている Microsoft Windows のバージョンを 1 つ以上インストールすることができます。インストールを最も簡単に行うには、SunPCi II の[オプション]メニューから [新規エミュレートドライブの作成] をクリックし、インストールするオペレーティングシステムを選択します。詳細については、第 2 章を参照してください。

各オペレーティングシステムの構成と使用、アップグレードおよびカスタムインストールの詳細については、次の章を参照してください。

- 第 5 章—Windows XP
- 第 6 章—Windows 2000
- 第 7 章—Windows NT
- 第 8 章—Windows ME
- 第 9 章—Windows 98 SE

第4章

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク

この章では、SunPCi II 2.3 製品で使用可能なネットワークオプションについて説明します。この説明は、UltraSPARC システムへの SunPCi II カードのインストール、および SunPCi II ソフトウェアパッケージのインストールが終了していることを前提としています。

この章では、次の主要な項目が扱われます。

- “SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク” –41 ページ
- “SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定” –43 ページ

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアによるネットワーク

各 SunPCi II カードをネットワークに接続するには、2つの方法があります。

- **物理 Ethernet**—SunPCi II カードの背面にある外部 Ethernet コネクタを使用し、別の物理 Ethernet 接続にカードを接続します。
- **仮想 Ethernet**—SunPCi II ソフトウェアの内部ネットワークドライバ (NDIS ドライバ) を使用し、システムの Ethernet 接続を介して接続します。

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

物理 Ethernet ネットワークは仮想 Ethernet ネットワークに比べて動作が速いですが、ネットワークに接続するために追加のポートを必要とします。したがって、Solaris システム用と SunPCi II カード用の 2 つの Ethernet 接続が必要となります。

物理 Ethernet では、Solaris システムと SunPCi II カードが TCP/IP を使用して通信するとき、別のホストに出力する必要がなくなります。物理 Ethernet ネットワークをセットアップすると、SunPCi II カードとワークステーションの両方がネットワークホストのリストに表示されます。

仮想 Ethernet ネットワークでは、2 つめのネットワークポートは必要ありません。システムと SunPCi II カードが 1 つの Ethernet 接続を共有します。仮想ネットワークを使用する場合、ネットワーク接続をセットアップするまでは、SunPCi II カードとホスト Solaris システムとの間のネットワークパスを設定することはできません。45 ページの「ネットワーク接続のセットアップ方法 例」を参照してください。

SunPCi II ソフトウェアをインストールする際、デフォルトでは、物理 Ethernet ネットワークが有効になり、仮想 Ethernet ネットワークは無効に設定されます。システムに複数のカードがインストールされている場合には、仮想 Ethernet ネットワークは常に無効になります。ご使用の Microsoft Windows のバージョンに対応するネットワークドライバに関する説明は、対応するインストールの章を参照してください。

- Windows NT ドライバのインストールに関しては、第 7 章を参照してください。
- Windows XP Professional ドライバのインストールに関しては、第 5 章を参照してください。
- Windows 2000 ドライバのインストールに関しては、第 6 章を参照してください。
- Windows ME ドライバのインストールに関しては、第 8 章を参照してください。
- Windows 98 SE ドライバのインストールに関しては、第 9 章を参照してください。

注 – システムに SunPCi II バージョン 2.3 ソフトウェアと SunPCi II カード 1 枚がインストールされている場合、物理ネットワークまたは仮想ネットワークのいずれかを使用できますが、両方を一度に使用することはできません。システムに複数のカードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは自動的に無効になります。また、Microsoft Windows の構成すべてで TCP/IP ネットワークプロトコルを構成する必要があります。

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定

SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定には、TCP/IP プロパティの設定、物理または仮想 Ethernet ネットワークの設定、SunPCi II カードと Solaris システム間のネットワーク接続設定が含まれます。

▼ TCP/IP プロパティの設定方法

TCP/IP を構成する前に、所属するサイトのネットワーク管理者からいくつかの情報を入手する必要があります。

1. 設定を始める前に次の情報を入手してください。
 - SunPCi II コンピュータ名 (Microsoft Windows のインストール時に入力した名前)。
 - IPアドレスの取得にダイナミックホスト構成プロトコル (DHCP) を使用していない場合には、次の情報も必要です。
 - SunPCi II カードの IP アドレス (ワークステーションの IP アドレスとは異なります)。
 - 所属するサイトのネットワークのサブネットマスク。
 - ルーター/ゲートウェイの IP アドレス (使用している場合)。

注 - 仮想ネットワークを使用している場合には、UltraSPARC システムと SunPCi II カードの両方に DHCP を使用することはできません。

- サイトの各ドメイン名サービス (DNS) のホスト名、ドメイン名、IP アドレス (使用している場合)。
2. TCP/IP を構成するには、Microsoft Windows の「コントロールパネル」の [ネットワーク] 機能を使用します。

上のリストの情報を、対応するフィールドに入力します。Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows ME または Windows 98 SE でのネットワーク設定の詳細については、Microsoft Windows に付属のマニュアルを参照してください。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法で新しいハードウェアを構成に追加することができます。別の PC で他の方法で成功したことがあっても、必ずこの章で説明された手順に従ってください。

▼ 物理 Ethernet ネットワークの設定方法

物理 Ethernet ネットワークを構成するには、次の手順を実行します。

1. Ethernet ケーブル (RJ-45 コネクタ付き) の一方の端を、SunPCi II カードの背面にあるポートに接続します。
2. ケーブルのもう一方の端をネットワークの Ethernet ポートに接続します。
3. Microsoft Windows を再起動します。

Microsoft Windows が起動したら、新しいハードウェアの追加ウィザードが「Microsoft Windows により、新しいハードウェアが検出されました。」というメッセージを表示します。SunPCi II ソフトウェアでは、デフォルトで Sis 900 物理 Ethernet ドライバが有効になっています。

4. TCP/IP をまだセットアップしていない場合には、前の項を参照してください。

▼ 仮想 Ethernet ネットワークの設定方法

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

ネットワークやネットワークのプロパティを変更したり、またはインストール時にネットワークを構成しなかった場合には、ネットワークに接続するため、TCP/IP を構成する必要があります。詳しくは、使用しているバージョンの Microsoft Windows に付属のマニュアルと43 ページの「TCP/IP プロパティの設定方法」を参照してください。

- 仮想ネットワークの構成
 - Windows XP Professionalを使用する場合は、61 ページの「Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成」を参照してください。

- Windows 2000を使用する場合は、84 ページの「Windows 2000 での仮想 Ethernet ネットワークの構成」を参照してください。
- Windows NTを使用する場合は、102 ページの「Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成」を参照してください。

注 – 仮想ネットワークに DHCP を使用している場合、ネットワークの構成後に Microsoft Windows を再起動すると、ネットワークの起動に数分かかります。これは、ネットワークのセットアップ後に初めて再起動する場合の正常な動作です。

ネットワークの問題を診断するには、付録 Aを参照してください。

▼ ネットワーク接続のセットアップ方法 例

仮想 Ethernet ネットワークを使用する場合、システムと SunPCi II ホストはネットワーク上で互いを認識することができません。システムとホストがネットワークを使用して通信する場合には、ネットワークルーターを使用して情報を送信する必要があります。ワークステーションと SunPCi II ホストを構成するには、ワークステーション、SunPCi II カード、ネットワークルーターの IP アドレスが必要です。さらに、ネットワーク上で使用されるサブネットマスクが必要です。IP アドレスが不明な場合や、SunPCi II カードに IP アドレスが割り当てられていない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

注 – この手順は、DHCP を利用してワークステーションまたは SunPCi II カードの IP アドレスを取得している場合には機能しません。

この例では、システムには次の項目が含まれるものとして説明します。

- SunPCi II カードの IP アドレス：192.9.200.1
- ホストワークステーションの IP アドレス：192.9.200.2
- ルーター IP のアドレス：192.9.200.3
- サブネットマスク：255.255.255.0

作業に入る前に、必ずネットワークルーターとして使用するシステムへのアカウントアクセスがあることを確認してください。

システム間の接続をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. Microsoft Windows の [スタート] ボタンをクリックし、メニューから [プログラム]、[MS-DOS プロンプト] を選択します。
2. DOS プロンプトに次のコマンドを入力します (C:¥> プロンプトは入力しないでください)。

```
C:¥> cd windows
```

3. Microsoft Windows を起動するたびにネットワークを開始するには、バッチファイルを作成して Microsoft Windows の Startup フォルダ (たとえば、C:¥WINDOWS¥Start Menu¥Programs¥Startup¥ADDDROUTE.BAT) に追加する必要があります。

ファイルには次のような 2 つの行が含まれます (実際のシステムの IP アドレスで置き換えてください)。次に例を示します。

```
@echo off  
route add 192.9.200.2 mask 255.255.255.0 192.9.200.3
```

4. ホストシステムで、次のコマンドを入力します。例内の IP アドレスを、SunPCi II カードとルーター (プロキシシステム) の実際の IP アドレスに置き換えてください。

```
% route add 192.90.1.2 192.9.200.3 1
```

2 番目の IP アドレス (192.9.200.3) の後に続く「1」は、パケットが目的地に着くまでに通過しなければならないルーティング距離、つまりシステムホップの数です。必要に応じて、システムを再起動するたびに実行される /etc/rc スクリプトに、この情報を入力することもできます。

5. ルーター (別のシステム、ルーター、システムおよび SunPCi II ホストと同じサブネット上にある別のコンピュータ) で、次のコマンドを入力します。例内の IP アドレスを実際の SunPCi II カードとシステムの IP アドレスに置き換えてください。

```
% route add 192.90.1.2 192.9.200.3 0  
% route add 192.9.200.2 192.9.200.3 0
```


最後に付いた「0」は、パケットが目的地に着くまでに通過しなければならないルーティング距離、つまりシステムホップの数です。ルーターとして指定されたシステムから作業している場合には、ネットワークパケットはあるポートから別のポートに渡されるだけであり、この場合のホップカウントはゼロです。

これで、システムから SunPCi II ホストに、SunPCi II ホストからシステムに、ping コマンドを使用して通信できるようになります。TCP/IP 接続のトラブルシューティングの詳細については、193 ページの「ネットワークの問題」を参照してください。

次のステップ

SunPCi II 2.3 ハードウェアおよびソフトウェアをインストールして設定した後に、サポートされている Microsoft Windows のバージョンを 1 つ以上インストールできます。インストールを最も簡単に行うには、SunPCi [オプション] メニューから「新規エミュレートドライブの作成」をクリックし、自動インストールするオペレーティングシステムを選択します。詳細については、第 2 章を参照してください。各オペレーティングシステムの構成と使用、アップグレードまたはカスタムインストールの方法の詳細については、次の章を参照してください。

- 第 5 章—Windows XP
- 第 6 章—Windows 2000
- 第 7 章—Windows NT
- 第 8 章—Windows ME
- 第 9 章—Windows 98 SE

第5章

Windows XP Professional の使用

この章では、SunPCi II システムに Microsoft Windows XP Professional をインストールし、構成する方法について説明します。また、既存のエミュレートドライブを Windows XP Professional へアップグレードする方法についても説明します。

この章では、次のような項目が扱われます。

- “Windows XP Professional のインストール” –50 ページ
- “Windows XP Professional へのアップグレード” –53 ページ
- “Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード” –54 ページ
- “Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード” –56 ページ
- “Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード” –58 ページ
- “Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード” –60 ページ
- “Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成” –61 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “カスタムインストールの実行方法” –51 ページ
- “Windows XP Professional の再インストール方法” –52 ページ
- “Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード方法” –55 ページ
- “Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード方法” –57 ページ
- “Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード方法” –58 ページ
- “Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード方法” –60 ページ
- “静的 IP アドレスを削除する方法” –62 ページ
- “仮想ネットワークアダプタを追加する方法” –63 ページ
- “Windows XP Professional でネットワークを構成する方法” –64 ページ
- “物理Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法” –65 ページ
- “Windows XP Professional 用外部ビデオを構成する方法” –66 ページ
- “Windows XP Professional ディスプレイプロパティを構成する方法” –68 ページ

この章では、Microsoft Windows XP Professional は Windows XP Professional と表記します。

Windows XP Professional のインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi の[オプション]メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、51 ページの「カスタムインストールの実行方法」を参照してください。

Windows XP Professional をインストールして実行する前に、SunPCi II カードの RAM を少なくとも 128 MB 以上にアップグレードするようにしてください。最高の性能を得るためには、256 MB 以上の RAM を使用して Windows XP Professional ソフトウェアを実行してください。

注 - このリリースでは、システムモニタと外部モニタを使用した Windows XP Professional の同時操作はサポートしていません。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows XP Professional インストールソフトウェア CD またはカスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードでの Windows XP Professional のワークグループまたはドメイン名

注 - Windows XP Professional へのアップグレードまたはインストールの際に、ディスプレイの設定情報を含むダイアログボックスが表示されることがあります。この時点では、マウスは使用できません。Tab キーおよび Enter キーを使用してダイアログボックスのボタンを選択する必要があります。続いて表示される、設定を確認するダイアログボックスでもマウスは使用できません。この手順の完了後、マウスが使用できるようになります。

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 – [新規エミュレートドライブの作成] ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows のセットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」の指示に従ってください。[新規エミュレートドライブの作成] ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- ドライブのサイズが 2 GB 以上であることを確認してください。作成した後でドライブを拡張することはできません。
- ドライブを C: ドライブとして作成します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi II ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi II ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (c:¥>) が表示されます。

3. SunPCi II ドライバをインストールします。

Windows XP Professional ファイルのデフォルトの場所は r:¥cdrom¥cdrom0¥i386 です。Windows XP Professional ファイルがデフォルト以外の場所にある場合は、¥s: スイッチを使用してファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows XP Professional ディスクイメージが Solaris ディレクトリの ¥export¥home¥winxp¥i386 にある場合は、OpenDOS で R: ドライブからアクセスします。次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:¥> f:¥drivers¥winxp¥setupwpxp ¥s:r:¥export¥home¥winxp¥i386
```

セットアップには数分間かかります。SunPCi II ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Setup Files...
Copying Boot Files...
Copying System Files...
Copying Optional Files...
Copying Assembly Files...
Copying SunPCi II Installation Files...
```

setupwpxp スクリプトが Windows XP Professional ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi II ソフトウェアが再起動します。Windows XP Professional のセットアップ画面が表示されます。Windows XP Professional セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi II ソフトウェアがもう一度再起動します。

4. SunPCi II ソフトウェアが再起動した後、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押してマウスを接続します。

これにより、Windows XP Professional のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。
6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Windows XP Professional の再インストール方法

- 標準バージョンの Windows XP Professional を再インストールする必要がある場合は、「コントロールパネル」画面の [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows XP Professional CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。



注意 – Windows XP Professional を再インストールする際、オートランダイアログボックスの [Windows XP Professional セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows XP Professional のエラーである「青い画面」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

Windows XP Professional へのアップグレード

SunPCi II ソフトウェアでは、エミュレートドライブディスクイメージをアップグレードできます。次のオペレーティングシステム用に構成されている既存の C: ドライブをアップグレードできます。

- Windows 2000 Professional
- Windows NT4 WS
- Windows ME
- Windows 98 SE

アップグレードに関する注意

Windows XP へのアップグレードを開始する前に、必ず次のソフトウェアメディアを用意してください。

- 市販の Windows XP Professional ソフトウェアインストール CD。この CD を CD-ROM ドライブに挿入しないと、インストールは動作しません。

また、エミュレート C: ドライブには、少なくとも 2 GB の空き容量が必要です。

参照 – アップグレードを実行する前に、既存のエミュレート C: ドライブファイルのバックアップコピーを作成してください。

Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に



注意 – Windows NT4 WS で外付け CD-RW ドライブを使用している場合は、このデバイスをアンインストールしてください。外付け CD-RW ドライブを取り外し、そのソフトウェアをアンインストールしないと、Windows XP Professional へアップグレードできません。アップグレードした後、デバイスを再インストールしてください。

新しい Windows NT4 WS パッケージから Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、必ず次の手順を実行します。

1. Windows エクスプローラのメニューで、ドライブを `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2` に割り当てます。

これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。

2. ディレクトリツリー内の `¥drivers¥winnt¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックします。

`update.bat` スクリプトによって必要なドライバが更新され、アップグレードの続行が可能になります。

3. 手順 1 のアップグレード手順に進みます。

▼ Windows NT4 WS から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional の CD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラで、次のパスを選択します。

C:\sun\wxpupg

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力が完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows XP Professional とともに開きます。

参照 - この手順には、数分間かかることがあります。

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップ グレード



注意 - アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows XP Professional エミュレートディスクで SunPCi II を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、次の手順に従ってください。

1. Windows エクスプローラを使用して、ドライブを `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2` に割り当てます。
これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。
2. ディレクトリツリー内の `¥drivers¥win2k¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックします。
`update.bat` スクリプトにより必要なドライバが更新され、アップグレードの続行が可能になります。
3. 実行しているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。
アンチウイルスソフトウェアは、インストール後に再び有効にすることができます。
4. 手順 1 のアップグレード手順に進みます。

▼ Windows 2000 Professional から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional の CD をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。
Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。
3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

```
C:\¥sun¥wxpupg¥upgrade.bat
```

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力が完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows XP Professional とともにもう一度開きます。

参照 - この手順には、数分間かかることがあります。

Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード



注意 - アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows XP Professional エミュレートディスクで SunPCi II を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、次の手順に従ってください。

1. Windows エクスプローラを使用して、ドライブを `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2` に割り当てます。
これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。
2. 続く手順 1 のアップグレード手順に進む前に、ディレクトリツリー内の `¥drivers¥winme¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックします。
`update.bat` スクリプトによって必要なドライバが更新されます。
3. 続く手順 1 のアップグレード手順に進みます。

▼ Windows ME から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional の CD をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。
Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

ドライブ文字 : ¥drivers¥winme¥wxpupg¥upgrade.bat

注 – このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが実行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 – Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力が完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows XP Professional とともにもう一度開きます。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード



注意 - アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows XP Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows XP Professional エミュレートディスクで SunPCi II を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレードを開始する前に、次の手順に従ってください。

1. Windows エクスプローラを使用して、ドライブを `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2` に割り当てます。
これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。
2. ディレクトリツリー内の `¥drivers¥win98¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックします。
`update.bat` スクリプトによって必要なドライバが更新されます。
3. 続く手順 1 のアップグレード手順に進みます。

▼ Windows 98 SE から Windows XP Professional へのアップグレード方法

1. Windows XP Professional の CD をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。
Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

```
ドライブ文字 : ¥drivers¥win98¥wxpupg¥upgrade.bat
```

注 – このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが実行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 – Windows XP Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力が完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows XP Professional とともにもう一度開きます。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

Windows XP Professional での仮想 Ethernet ネットワークの構成

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

SunPCi II ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、この手順を説明します。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、43 ページの「SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定」を参照してください。

Windows XP Professional で仮想 Ethernet ネットワークをセットアップするには、次に説明する手順に従ってください。この手順では、ネットワークアダプタを構成する方法を説明します。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはこれ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ 静的 IP アドレスを削除する方法

以前に物理ネットワークを使用していて、静的 IP アドレスを定義した場合には、次の手順に従ってそのアドレスを削除します。該当しない場合は、次の手順へ進んでください。

1. Windows デスクトップ上で、[マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
2. [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
4. 以前の IP アドレスを削除し、設定を [IP アドレスを自動的に取得する] にします。
5. [OK] を 2 回クリックして、2 つのダイアログボックスを閉じます。

▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法

1. Windows XP Professional の [スタート] メニューで [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. [ハードウェア] タブをクリックします。
3. [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
インストールされたデバイスドライバのリストがウィンドウに表示されます。
4. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
5. SiS 900 PCI Fast Ethernet Adapter を右クリックし、[無効] をクリックします。
このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。
6. コントロールパネルの [ハードウェアの追加] をダブルクリックします。
7. 「ハードウェアの追加ウィザードの開始」ダイアログボックスで、[次へ] をクリックします。
「ハードウェアは接続されていますか？」ダイアログボックスが表示されます。
8. [はい、ハードウェアを接続しています。] を選択し、[次へ] をクリックします。
9. [新しいハードウェアデバイスの追加] を選択し [次へ] をクリックします。
「ほかのハードウェアをインストールできます。」ダイアログボックスが表示されます。
10. [一覧から選択したハードウェアをインストールする (詳細)] を選択し、[次へ] をクリックします。
インストールするハードウェアのタイプを確認するダイアログボックスが表示されます。
11. [ネットワークアダプタ] を選択し、[次へ] をクリックします。
12. [ディスク使用] をクリックします。
13. [参照] をクリックし、c:\sun\sunnet\win2k\sunndis を選択します。

14. [開く] をクリックし、「ディスクからインストール」ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。

15. [次へ] をクリックします。

ダイアログボックスが表示され、インストールする新規ハードウェアとして SunNDIS Adapter Driver がリストされます。

16. [次へ] をクリックします。

ファイルがコピーされ、[ハードウェアの追加ウィザードの完了] が表示されます。

17. [完了] をクリックします。

コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] を選択して構成を終了します。

ネットワークで仮想アダプタ機能を有効にするには、64 ページの「Windows XP Professional でネットワークを構成する方法」の手順を実行する必要があります。

▼ Windows XP Professional でネットワークを構成する方法

仮想または物理ネットワークアダプタを構成して Windows XP Professional を再起動した後、TCP/IP を使用するようにアダプタの 1 つを構成する必要があります。Windows XP Professional に再度ログインし、ここで説明する手順に従ってください。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想または物理アダプタのいずれかを無効にしたことを確認してください。

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、[新しい接続の作成]、[ローカルエリア接続]、[ローカルエリア接続 2] の 3 つのアイコンが表示されます。

2. [ローカルエリア接続] または [ローカルエリア接続 2] をダブルクリックします。
[ローカルエリア接続] または [ローカルエリア接続 2] の選択は、どちらの Ethernet アダプタが有効になっているかによります。「状態」ウィンドウが表示されます。
3. [プロパティ] をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. 43 ページの「TCP/IP プロパティの設定方法」の説明に従い、SunPCi II カードの TCP/IP を設定します。
必要に応じて、Windows XP Professional のマニュアルを参照してください。
6. TCP/IP の設定が完了したら、[OK]、[はい] をクリックして Windows XP Professional を再起動します。

注 – ダイアログボックスに「SunNDIS を起動できませんでした。」というメッセージが表示される場合、メッセージを無視して [OK] をクリックします。DHCP ネットワークが無効になっている場合に、このメッセージが表示されることがあります。

▼ 物理Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法

物理ネットワークアダプタを再度有効にする必要がある場合は、次の手順に従います。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想アダプタを無効にしたことを確認してください。

1. Windows デスクトップ上で、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. [ハードウェア] タブをクリックします。

3. [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

コンピュータにインストールされたデバイスドライバのリストがウィンドウに表示されます。

4. コンピュータ名をクリックします。

5. [ネットワークアダプタ] を選択し、リストを拡張します。

[+] チェックボックスをクリックし、リストを拡張します。

6. 仮想ネットワークに静的 IP アドレスを構成した場合は、62 ページの「静的 IP アドレスを削除する方法」の手順を実行してください。

7. SunNDIS Virtual Adapter を右クリックし、[無効] を選択します。

このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。この手順により仮想ネットワークが無効になります。

8. Sis 900 PCI Fast Ethernet Adapter を右クリックし、メニューから [有効] を選択して [選択] をクリックします。

9. 「デバイスマネージャ」および「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

ネットワークで TCP/IP を使用するよう物理アダプタを有効にするには、64 ページの「Windows XP Professional でネットワークを構成する方法」の手順を実行する必要があります。

▼ Windows XP Professional 用外部ビデオを構成する方法

外部モニターを使用するには、モニターを SunPCi II アドオンの背面板に接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。



注意 – 内部および外部モニターを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

1. モニタを、SunPCi II アドオンの背面板にあるビデオポートコネクタに接続します。
ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。
2. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動します。
3. Windows のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
4. [管理] を選択し、[デバイスマネージャ] を選択します。
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
5. [ディスプレイアダプタ] をクリックします。
使用可能なディスプレイアダプタのリストが表示されます。
6. Sun Microsystems NULL SiS VGA Driver をダブルクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
7. [ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
8. [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] を選択し、[次へ] をクリックします。
「検索とインストールのオプションを選んでください。」ダイアログボックスが表示されます。
9. [検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] をクリックします。
「デバイスドライバ選択」ダイアログボックスが表示されます。
10. [ディスク使用] をクリックします。
11. ウィンドウ内で [参照] をクリックし、C:\sun\sisvideo\winxp フォルダを選択します。
12. ファイル名 sis630.inf をダブルクリックします。
「製造元のファイルのコピー元」ダイアログボックスにファイル名とパスが入力されます。
13. [OK] をクリックします。
ダイアログボックスに、Sis630/730 および Sun Microsystem Null Sis VGA という 2 種類のドライバが表示されます。

14. Sis 630/730 を選択し、[次へ] をクリックします。
インストールが完了すると、[ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示されます。
15. [完了] をクリックして「更新ウィザード」ウィンドウを閉じ、「Sis630/730 のプロパティ」ウィンドウを閉じます。
システムを再起動してハードウェアの変更を有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
16. [いいえ] を選択してダイアログボックスを閉じます。
17. [スタート] メニューから [シャットダウン] を選択します。
「コンピュータの電源を切る準備ができました」というダイアログボックスが表示されます。
18. SunPCi II ウィンドウの [ファイル] メニューから [SunPCi の終了] を選択します。
19. SunPCi ソフトウェアをシャットダウンするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。
20. Solaris システムプロンプトで `-vga` スイッチを使用し、SunPCi II ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -vga
```

注 - `-vga` オプションを使用しないと、Sun のディスプレイはスクランブル表示されます。

SunPCi II ソフトウェアが起動し、Windows XP Professional デスクトップが外部モニタに表示されます。Windows XP Professional と外部モニタで最高の性能を得るためには、SunPCi II カードのアドオンの背面板にあるシリアルポートにシリアルマウスを接続してください。

▼ Windows XP Professional ディスプレイプロパティを構成する方法

Windows XP Professional でのディスプレイ構成についての詳細は、Windows XP Professional のマニュアルを参照してください。

Windows XP Professional で Sun ディスプレイを再構成するには、次の手順を実行してください。

注 - 外部モニタから Sun ディスプレイに使用を切り替える場合にのみ、この手順を実行してください。この手順を実行する前に、66 ページの「Windows XP Professional 用外部ビデオを構成する方法」の手順を実行する必要があります。

1. Windows XP Professional デスクトップ上 (アイコンがない場所) で、マウスを右クリックします。

ドロップダウンメニューが表示されます。

2. [プロパティ] を選択します。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. [設定] タブをクリックします。

注 - 1 と 2 の番号が付いた 2 つのディスプレイがウィンドウに表示されています。ビデオ 1 がハイライトされており、これがメインのディスプレイ (SiS 630/730 用プラグアンドプレイモニタ) であることを示しています。ビデオ 2 (Sun Microsystems SunPCi ビデオのデフォルトモニタ) は淡色表示されており、メインのディスプレイではないことを示しています。2 つのビデオディスプレイの下方には、ビデオ 1 のドライバが表示されています。

4. ビデオ 2 をクリックします。

ビデオの下にリストされるドライバが、Sun Microsystems SunPCi ビデオのデフォルトモニタに変更されます。

5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。

6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。

7. ビデオ 1 をクリックします。

ビデオの下にリストされたドライバが、SiS 630/730 用プラグアンドプレイモニタに戻ります。

8. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオフにします。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

ビデオ 1 とビデオ 2 を示すアイコンの場所が変更され、ビデオ 2 が最初に表示されます。

9. [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
ディスプレイがワークステーションのモニタに戻ります。
10. [OK] を選択してウィンドウを閉じます。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

次のステップ

- 周辺装置 (オーディオデバイスやプリンタなど) を SunPCi II カードに接続する場合は、第 10 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの操作、ソフトウェアの起動および終了方法、コマンドラインオプションの使用法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、および SunPCi II 2.3 ソフトウェアのその他の機能については第 11 章を参照してください。
- Windows アプリケーションソフトウェアを PC にインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアまたは Windows XP Professional のインストール中や実行中に問題が発生した場合には、付録 A を参照してください。

第6章

Windows 2000 Professional および Windows 2000 Server の使用

この章では、SunPCi II 製品で Microsoft Windows 2000 Professional および Microsoft Windows 2000 Server Edition オペレーティングシステムを使用する場合の、システムソフトウェアのインストール方法と構成方法を説明します。また、オペレーティングシステムを Windows NT から Windows 2000 へアップグレードする方法についても説明します。

この章では、次のような項目が扱われます。

- “Windows 2000 のインストール” –72 ページ
- “Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード” –75 ページ
- “Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード” –76 ページ
- “Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード” –78 ページ
- “サーバーの構成に関する注意” –81 ページ
- “Windows 2000 での仮想 Ethernet ネットワークの構成” –84 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “カスタムインストールの実行方法” –73 ページ
- “Service Pack のインストール方法” –75 ページ
- “Windows 2000 の再インストール方法” –75 ページ
- “Windows 2000 Professional へのアップグレード方法” –77 ページ
- “Windows 2000 Server へのアップグレード方法” –79 ページ
- “SunFSD 割り当てを有効にする方法” –83 ページ
- “SunFSD 割り当てを無効にする方法” –84 ページ
- “静的 IP アドレスを削除する方法” –85 ページ
- “仮想ネットワークアダプタを追加する方法” –85 ページ
- “Windows 2000 でネットワークを構成する方法” –87 ページ
- “物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法” –88 ページ
- “Windows 2000 ディスプレイプロパティを構成する方法” –92 ページ
- “ディスプレイをシステムモニタへ戻す方法” –93 ページ

この章では、Microsoft Windows 2000 Professional は Windows 2000 Professional、Microsoft Windows 2000 Server Edition は Windows 2000 Server と表記します。またこの章で Windows 2000 といった場合には、両方のオペレーティングシステムを指しています。

参照 – この章の Windows 2000 Server のインストールや構成手順に Windows 2000 Professional のインストール手順と異なる点がある場合には、説明の後にサーバー用のヒントが記載されています。

Windows 2000 のインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、[SunPCi オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、73 ページの「カスタムインストールの実行方法」を参照してください。

Windows 2000 をインストールして実行する前に、SunPCi II カードの RAM を少なくとも 128 MB 以上にアップグレードするようにしてください。最高の性能を得るためには、256 MB 以上の RAM を使用して Windows 2000 ソフトウェアを実行してください。

SunPCi II 2.3 では、Windows 98 SE や Windows ME から Windows 2000 へのアップグレードはサポートしていません。



注意 – SunPCi II 2.3 はシステムモニタと外部モニタを使用した Windows 2000 の同時操作をサポートしていません。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows 2000 インストールソフトウェア CD またはカスタムインストールスクリプト

- システムにインストールされている各 SunPCi II カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードでの Windows 2000 のワークグループまたはドメイン名

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows のセットアップが開始します。カスタムインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」の指示に従ってください。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- ドライブのサイズが 2 GB 以上であることを確認してください。作成した後でドライブを拡張することはできません。
- ドライブを C: ドライブとして作成します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi II ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi II ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (c:¥>) が表示されます。

3. SunPCi II ドライバをインストールします。

Windows 2000 ファイルのデフォルトの場所は `r:\cdrom\cdrom0\i386` です。Windows 2000 ファイルがデフォルト以外の場所にある場合は、`/s:` スイッチを使用してファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows 2000 ディスクイメージが Solaris ディレクトリの `/export/home/win2k/i386` にある場合は、OpenDOS で R: ドライブからアクセスします。次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:\> f:\drivers\win2k\setupw2k /s:r:\export\home\win2k\i386
```

セットアップには数分間かかります。SunPCi II ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Setup Files...
Copying Boot Files...
Copying System Files...
Copying Optional Files...
Copying SunPCi II Installation Files...
```

`setupw2k` スクリプトが Windows 2000 ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi II ソフトウェアが再起動します。Windows 2000 のセットアップ画面が表示されます。Windows 2000 セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi II ソフトウェアがもう一度再起動します。

参照 – この SunPCi II メッセージは Windows 2000 Professional セットアップのメッセージであり、Windows 2000 Server の場合は多少異なります。

注 – 以下のインストール作業では、マウスを使用できない場合があります。Tab キーと矢印キーを使用して、Windows 2000 セットアップ画面をナビゲートしてください。

4. SunPCi II ソフトウェアが再起動した後、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押してマウスを接続します。

これにより、Windows 2000 のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。

6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Service Pack のインストール方法

SunPCi II 2.3 ソフトウェアで必須の適切な Microsoft Windows Service Pack をインストールする必要があります。

- 必要な Service Pack の種類とそのインストール方法については、21 ページの「Service Pack のインストール」を参照してください。

▼ Windows 2000 の再インストール方法

- 標準バージョンの Windows 2000 を再インストールする場合は、「コントロールパネル」画面の [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows 2000 CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。



注意 – Windows 2000 を再インストールする際、オートランダイアログボックスの [Windows 2000 セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows 2000 のエラーである「青い画面」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード

SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、エミュレートドライブディスクイメージをアップグレードできます。既存の C: ドライブをアップグレードするには、次のいずれかを実行します。

- Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード
- Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード

Service Pack 2 を使用して、アップグレードした Windows 2000 を更新します。

注 – SunPCi II2.3 ソフトウェアリリースは、Windows 98 SE や Windows ME から Windows 2000 オペレーティングシステムへのアップグレードをサポートしていません。

アップグレードに関する注意

Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server へのアップグレードを開始する前に、市販の Windows 2000 Professional CD または Windows 2000 Server インストール CD があることを確認してください。市販のインストール CD を CD-ROM ドライブに挿入しないと、インストールは動作しません。

また、エミュレート C: ドライブには、少なくとも 2 GB の空き容量が必要です。

参照 – アップグレードを実行する前に、既存のエミュレート C: ドライブファイルのバックアップコピーを作成してください。

Windows NT4 WS から Windows 2000 Professional へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows 2000 Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に



注意 – Windows NT4 WS で外付け CD-RW ドライブを使用している場合は、このデバイスをアンインストールしてください。外付け CD-RW ドライブを取り外し、そのソフトウェアをアンインストールしないと、Windows 2000 Professional へのアップグレードできません。アップグレードした後、デバイスを再インストールしてください。

Windows NT4 WS パッケージから Windows 2000 Professional へのアップグレードを開始する前に、必ず次の手順を実行します。

1. Windows エクスプローラのメニューで、ドライブを `¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2` に割り当てます。

これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。

2. ディレクトリツリー内の `¥drivers¥winnt¥patch` にアクセスし、`update.bat` をダブルクリックします。

`update.bat` スクリプトによって必要なドライバが更新され、アップグレードの続行が可能になります。

3. 手順 1 のアップグレード手順に進みます。

▼ Windows 2000 Professional へのアップグレード方法

1. Windows 2000 Professional の CD を、システムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

`C:¥sun¥w2kupg`

注 – このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 – Windows 2000 Professional の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows 2000 Professional とともに開きます。

参照 – この手順には、数分間かかることがあります。

6. Service Pack をインストールします。

プロセスを完了するには、適切な Service Pack をインストールする必要があります。この手順については 21 ページの「Service Pack のインストール」を参照してください。

Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレード



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows 2000 Professional の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

アップグレードに入る前に

Windows NT4 TS から Windows 2000 Server へのアップグレードを開始する前に、次の手順に従ってください。

1. Windows NT4 TS のアップグレード、および Windows NT4 TS で SunFSD の割り当てを有効にする前に、すべてのクライアントや他のプロセスをサーバーからログオフします。

SunFSD の割り当てを有効にすると、**現在のユーザーすべて**で SunFSD 割り当てが有効になり、セキュリティホールが生じることがあるので注意してください。

2. 次の場所にある fsdon.reg レジストリファイルをダブルクリックします。

C:\¥sun¥sunfsd¥fsdon.reg

これで SunFSD が有効になります。Windows 2000 Server へのアップグレードが終了するまで SunFSD を有効にしておきます。

3. Windows エクスプローラを使用して、ドライブを ¥¥localhost¥opt¥SUNWspci2 に割り当てます。

これでパッチディレクトリにアクセスできるようになります。

4. ディレクトリツリー内の ¥drivers¥winnt¥patch にアクセスし、update.bat をダブルクリックします。

update.bat スクリプトによって必要なドライバが更新され、アップグレードの続行が可能になります。

5. 続く手順 1 のアップグレード手順に進みます。



注意 – アップグレードスクリプトには SunFSD 依存性があるため、SunFSD を有効にしてドライブを割り当てた後、SunFSD を無効にした状態でアップグレードを行わないでください。

▼ Windows 2000 Server へのアップグレード方法



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順には、Microsoft のアップグレード手順と異なる部分があります。Windows 2000 Server の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows 2000 Server エミュレートディスクで SunPCi II を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

1. Windows 2000 Server の CD をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。

2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。

Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。

3. Windows エクスプローラのウィンドウで次のパスを選択します。

C:\¥sun¥w2kupg¥upgrade.bat

注 - このディレクトリが C: ドライブに見つからない場合は、間違ったバージョンの SunPCi II ソフトウェアをインストールしたか、SunPCi II ドライバを更新していないかのいずれかです。

4. [アップグレード] をダブルクリックします。

アップグレードプロセスが続行されます。このプログラムによって、使用するネットワークドライブが自動的に割り当てられます。Windows エクスプローラに使用可能なネットワークドライブ文字がない場合、このプロセスは失敗します。

注 - Windows 2000 Server の CD が CD-ROM ドライブに挿入されていない場合、アップグレードプロセスはこの段階で失敗します。

5. 画面のプロンプトに従って、Microsoft Windows が要求する情報 (たとえば、CD ケースの裏面に記載されている CD キー、管理者のパスワードなど) を入力します。

すべての情報の入力完了すると、SunPCi II ソフトウェアが Windows 2000 Server とともにもう一度開きます。

参照 - この手順には、数分間かかることがあります。

6. Service Pack をインストールします。

プロセスを完了するには、適切な Service Pack をインストールする必要があります。この手順については 21 ページの「Service Pack のインストール」を参照してください。

サーバーの構成に関する注意

次の情報は、Solaris オペレーティングシステム上で SunPCi II2.3 ソフトウェアを使用し、サポートされている Microsoft Windows サーバーオペレーティングシステムを構成しインストールするための情報です。

SunPCi II メモリ、CPU、およびベンチマークの情報に関するさらに詳しい SunPCi II サーバーサポートは、次の URL のホワイトペーパーを参照してください。

- <http://www.sun.com/blueprints/0601/windows.pdf>
- <http://www.sun.com/blueprints/1101/sizesunray.html>

命名規則のため、CD-ROM ドライブを SunFSD (¥¥localhost¥cdrom¥cdrom0) にマウントすると、一部のアプリケーションでファイルを検索できない場合があります。

SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows オペレーティングシステム間の割り当て

SunPCi II2.3 ソフトウェアパッケージには Sun ファイルシステムドライバ (SunFSD) が含まれ、これは Microsoft Windows ドライブ文字を Solaris ディレクトリに割り当て、オペレーティングシステムとファイルシステム間のアクセスを可能にします。SunFSD の割り当ては変更することができます。

SunPCi II2.3 のインストールでは、デフォルトで次の Microsoft Windows サーバーソフトウェアの SunFSD 割り当て機能が無効になります。

- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS
- Windows 2000 Server Edition

したがって、サーバーソフトウェアの実行中、管理者を含むあらゆるユーザー（またはプログラム）による ¥¥localhost ディレクトリの割り当ては失敗します。さらに、Universal Naming Convention (UNC) プリフィックスとして ¥¥localhost を含む UNC パスを使用した、ファイルへの参照やアクセスはすべて失敗します。

この割り当ての制御は、セキュリティ上の理由で行われています。SunFSD の現行リリースでは、¥¥localhost を通じての割り当てやファイルアクセスは、SunPCi II ソフトウェアを起動したユーザーまたはプロセスの権限を継承します。したがって、

SunPCi II カードで Microsoft Serverオペレーティングシステムが実行されている場合に SunPCi ソフトウェアがルートアカウントで起動されると、通常のサーバーユーザーはそのネットワーク内のルート権限を継承してしまいます。

Windows NT4 WS および Windows 2000 Professional では、SunFSD は有効になっています。これは、これらのオペレーティングシステムを使用する場合にはマルチクライアントファイルシステムのセキュリティ上の問題が存在しないためです。Windows NT4 WS および Windows 2000 Professional では、以前のリリースと同様に SunFSD ドライブを割り当てることができます。

Solaris ディレクトリへのアクセスを必要とするサーバーインストールの場合、サーバー管理者はクライアントごとにセキュリティ証明を使用する Solaris PC NetLink や Samba、または Microsoft Windows ドライブ文字をローカルユーザーとして割り当てる Citrix MetaFrame クライアントを使用する必要があります。

Sun の PC NetLink ソフトウェアについての詳細は、Web サイト www.sun.co.jp にアクセスし、PC NetLink で検索してください。

注 - Microsoft Windows 互換アプリケーションを SunFSD のマウント位置より下位のディレクトリにインストールすると、一部の古い Microsoft Windows アプリケーションが使用できなくなる場合があります。SunFSD およびその使用中に発生した問題の解決方法については、175 ページの「Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際のトラブルシューティング」を参照してください。

▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法

SunFSD は、サーバー管理者のアカウントのみにより、必要に応じてサーバーのインストール中に有効にすることができます。この場合特に注意が必要です。また次に説明するメンテナンス作業の実行後には SunFSD を無効にするのを忘れないでください。

SunFSD 割り当てを有効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある fsdon.reg レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdon.reg
```

この作業は、サーバー管理者のアカウントを使用してのみ可能です。サーバークライアント (または権限を持たないプログラム) がレジストリを変更しようとする拒否されます。

SunFSD を有効にすると、その後の ¥¥localhost プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて成功します。また、サーバーを再起動しても SunFSD は有効になったままです。SunFSD の有効後に行われた割り当ては、ログオフした後でも、またはシステムを再起動しても、システムへのログイン後に再接続されます (再接続されるように構成されている場合)。



注意 – SunFSD が管理者によって有効にされると、あらゆるサーバークライアントやプログラムが SunPCi ソフトウェアを起動したプロセスのセキュリティ証明を使用して Solaris ディレクトリやファイルを割り当てたり、それらにアクセスしたりできるようになります。

管理者が SunFSD を有効にする主な理由は、ドライバ更新スクリプトやその他の SunPCi から提供されているスクリプトを実行するために SunFSD 機能が必要とされるためです。

SunFSD を有効にする前に、管理者はまずクライアントログインを無効にする必要があります。また、更新 (またはその他のアクティビティ) が終了した後、管理者はすべての SunFSD ドライブを削除または割り当てを解除し、SunFSD による割り当てを無効にして、システムを再起動します。

▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法

SunFSD 割り当てを無効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある fsdon.reg レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdoff.reg
```

一旦 SunFSD 割り当てを無効にすると、その後の ¥¥localhost プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて失敗します。また、サーバーを再起動しても SunFSD 割り当ては無効になったままです。したがって、SunFSD 割り当てを無効にする前に成功した SunFSD ディレクトリ割り当てがあった場合でも、システムの再起動後にはその割り当ては使用できません。

Windows 2000 での仮想 Ethernet ネットワークの構成

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

SunPCi II ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、この手順を説明します。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、43 ページの「SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定」を参照してください。

Windows 2000 で仮想 Ethernet ネットワークをセットアップするには、次に説明する手順に従ってください。この手順では、ネットワークアダプタを構成する方法を説明します。

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはこれ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ 静的 IP アドレスを削除する方法

以前に物理ネットワークを使用していて、静的 IP アドレスを定義した場合には、次の手順に従ってそのアドレスを削除します。該当しない場合は、次の手順へ進んでください。

1. Windows デスクトップ上で、[マイネットワーク] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
2. [ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
4. 以前の IP アドレスを削除し、設定を [IP アドレスを自動的に取得する] にします。
5. [OK] を 2 回クリックして、2 つのダイアログボックスを閉じます。

▼ 仮想ネットワークアダプタを追加する方法

1. Windows 2000 のデスクトップで [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. [ハードウェア] タブをクリックします。
3. [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
インストールされたデバイスドライバのリストがウィンドウに表示されます。
4. [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。
5. SiS 900 PCI Fast Ethernet Adaptor を右クリックし、[無効] をクリックします。

6. このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。
7. コントロールパネルの [ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックします。
8. 「ハードウェアの追加と削除ウィザードの開始」 ダイアログボックスで、[次へ] をクリックします。
「ハードウェアに関する作業の選択」 ダイアログボックスが表示されます。
9. [デバイスの追加/トラブルシューティング] を選択し、[次へ] をクリックします。
Microsoft Windows により、新しいハードウェアデバイスが検索されます。「ハードウェアデバイスの選択」 ダイアログボックスが表示されます。
10. [新しいデバイスの追加] を選択し [次へ] をクリックします。
「新しいハードウェアの検索」 ダイアログボックスが表示されます。
11. [いいえ (一覧から選択する)] エントリを選択し、[次へ] をクリックします。
「ハードウェアの種類」 ダイアログボックスが表示されます。
12. [次へ] をクリックします。
「ネットワークアダプタの選択」 ダイアログボックスが表示されます。
13. [ディスク使用] をクリックします。
[参照] をクリックし、c:\sunnet\win2k\sunndis を選択します。
14. [開く] をクリックし、「ディスクからインストール」 ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
「ネットワークアダプタの選択」 ダイアログボックスが表示されます。
15. [次へ] をクリックします。
Windows がデバイスの設定を検出できないことを知らせるダイアログボックスが表示されます。
16. [OK] をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザードプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
17. [リソース] タブの [割り込み要求] をダブルクリックします。
「割り込み要求の編集」 ダイアログボックスが表示されます。

18. デフォルト値 (09) を選択して、[OK] をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザードプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

19. [OK] をクリックします。

「変更不可の構成を作成しています」ダイアログボックスが表示されます。

20. [はい] を選択します。

「ハードウェアのインストールの開始」ダイアログボックスが表示されます。

21. [次へ] を選択します。

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。

22. [完了] を選択します。

コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい] を選択して構成を終了します。

ネットワークで仮想アダプタ機能を有効にするには、87 ページの「Windows 2000 でネットワークを構成する方法」の手順を実行する必要があります。

▼ Windows 2000 でネットワークを構成する方法

仮想または物理ネットワークアダプタを構成して Windows 2000 を再起動した後、TCP/IP を使用するようにアダプタの 1 つを構成する必要があります。Windows 2000 に再度ログインし、ここで説明する手順に従ってください。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想または物理アダプタのいずれかを無効にしたことを確認してください。

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。ウィンドウには、[新しい接続の作成]、[ローカルエリア接続]、[ローカルエリア接続 2] の 3 つのアイコンが表示されます。

2. [ローカルエリア接続] または [ローカルエリア接続 2] をダブルクリックします。
選択は、どちらの Ethernet アダプタが有効になっているかによります。「状態」ウィンドウが表示されます。
3. [プロパティ] をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をダブルクリックします。
「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. 43 ページの「TCP/IP プロパティの設定方法」の説明に従い、SunPCi II カードの TCP/IP を設定します。
必要に応じて、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。
6. TCP/IP の設定が完了したら、[OK]、[はい] をクリックして Microsoft Windows を再起動します。

注 – ダイアログボックスに「Sunndis を起動できませんでした。」というメッセージが表示される場合、メッセージを無視して [OK] をクリックします。DHCP ネットワークが無効になっている場合に、このメッセージが表示されることがあります。

▼ 物理 Ethernet のネットワークアダプタを再構成する方法

物理ネットワークアダプタを再度有効にする必要がある場合は、次の手順に従います。



注意 – 仮想および物理ネットワークアダプタを同時に有効にしないでください。次の手順を実行する前に、仮想アダプタを無効にしたことを確認してください。

1. Windows 2000 のデスクトップで [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. [ハードウェア] タブをクリックします。

3. [デバイスマネージャ] ボタンをクリックします。「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
コンピュータにインストールされたデバイスドライバのリストがウィンドウに表示されます。
4. コンピュータ名をクリックします。
5. [ネットワークアダプタ] を選択し、リストを拡張します。
[+] チェックボックスをクリックし、リストを拡張します。
6. 仮想ネットワークに静的 IP アドレスを構成した場合は、85 ページの「静的 IP アドレスを削除する方法」の手順を実行してください。
7. SunNDIS Virtual Adapter を右クリックし、[無効] を選択します。
このデバイスを無効にすると機能が停止するという内容のメッセージが表示されるので、[はい] をクリックします。この手順により仮想ネットワークが無効になります。
8. Sis 900 PCI Fast Ethernet Adapter を右クリックし、メニューから [有効] を選択します。
9. 「デバイスマネージャ」および「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。
10. ネットワークで TCP/IP を使用するよう物理アダプタを有効にするには、87 ページの「Windows 2000 でネットワークを構成する方法」の手順を実行する必要があります。

▼ Windows 2000 用外部ビデオを構成する方法

外部モニタを使用するには、モニタを SunPCi II アドオンの背面板に接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

1. モニタを、SunPCi II アドオンの背面板にあるビデオポートコネクタに接続します。
ビデオポートの場所については、図 10-1を参照してください。
2. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動します。

3. Windows 2000 のデスクトップで、[マイコンピュータ] を右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
4. [管理] を選択し、[デバイスマネージャ] を選択します。
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
5. [ディスプレイアダプタ] をクリックします。
使用可能なディスプレイアダプタのリストが表示されます。
6. Sun Microsystems NULL SiS VGA Driver をダブルクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
7. [ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] ボタンをクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウが表示されます。
8. [次へ] をクリックして [デバイスに最適なドライバを検索する] を選択し、もう一度 [次へ] をクリックします。
「ドライバファイルの特定」ウィンドウが表示されます。
9. [フロッピーディスクドライブ] および [CD-ROM ドライブ] チェックボックスをオフにします。
10. [場所を指定] チェックボックスをオンして、[次へ] をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウで、「製造元のファイルのコピー元」ダイアログボックスが表示されます。
11. ウィンドウ内で [参照] をクリックし、C:\¥sun¥sisvideo¥win2k フォルダにアクセスします。
12. ファイル名 sis630.INF をダブルクリックします。
「製造元のファイルのコピー元」ダイアログボックスにファイル名とパスが入力されます。
13. [OK] をクリックします。
「ドライバファイルの検索」ウィンドウが表示されます。
14. [別のドライバを 1 つインストールする] チェックボックスをオンにして、[次へ] をクリックします。
「検出されたドライバファイル」ウィンドウが表示されます。

15. このウィンドウで Sis 630/730 をハイライト表示し、[次へ] をクリックします。
インストールが終了したら、完了したことを知らせるメッセージがウィンドウに表示されます。
16. [完了] をクリックして「更新ウィザード」ウィンドウを閉じ、「Sis 630/730 のプロパティ」ウィンドウを閉じます。
システムを再起動してハードウェアの変更を有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
17. [いいえ] を選択してダイアログボックスを閉じます。
18. [スタート] メニューから [シャットダウン] を選択し、メニューから [コンピュータをシャットダウンする] を選択します。
「電源を切断しても安全です。」ウィンドウが表示されます。
19. SunPCi ウィンドウの [ファイル] メニューから [SunPCi の終了] を選択します。
20. SunPCi ソフトウェアをシャットダウンするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。
21. Solaris システムプロンプトで `-vga` スイッチを使用し、SunPCi II ソフトウェアを再起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -vga
```

SunPCi II ソフトウェアが起動すると、Windows 2000 はまず外部モニタに表示され、その後ワークステーションモニタの SunPCi II ウィンドウに表示されます。次に、以下の手順の説明に従って Windows 2000 のディスプレイを構成します。

▼ Windows 2000 ディスプレイプロパティを構成する方法

Windows 2000 でのディスプレイ構成についての詳細は、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi II 2.3 ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

Windows 2000 で外部ビデオディスプレイを構成するには、次の手順を実行します。

1. Windows 2000 デスクトップ上 (アイコンがない場所) で、マウスを右クリックします。
ドロップダウンメニューが表示されます。
2. [プロパティ] を選択します。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [設定] タブをクリックします。

注 – 1 と 2 の番号が付いた 2 つのディスプレイがウィンドウに表示されています。ビデオ 1 がハイライトされており、これ (システムモニタ) がメインのディスプレイであることを示しています。ビデオ 2 は淡色表示されており、メインのディスプレイではないことを示しています。2 つのビデオディスプレイの下方には、ビデオ 1 のドライバ (SunPCi II ビデオドライバ) が表示されています。

4. ビデオ 2 をクリックします。
ビデオの下にリストされるドライバが、Sis630/730 に変更されます。
5. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [このデバイスをプライマリモニタとして使用する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
7. ビデオ 1 をクリックします。
ビデオの下にリストされたドライバが、SunPCi II ビデオドライバに戻ります。

8. [Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする] の横にあるチェックボックスをオフにします。

ビデオ 1 とビデオ 2 を示すアイコンの場所が変更され、ビデオ 2 が最初に表示されます。

9. [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

これで外部モニタが Windows 2000 で有効になります。内部モニタには空の SunPCi ウィンドウが表示され、タイトルバーには [外部 モニタ へ 出力された ビデオ] と表示されます。

10. 「モニタの設定」ダイアログボックスで [はい] をクリックします。

11. [OK] を選択してウィンドウを閉じます。

これで Windows 2000 で外部ビデオを使用することも、コントロールパネルの [画面] を使用してビデオの解像度を変更することもできるようになります。詳細については、Windows 2000 のマニュアルを参照してください。

注 – Windows 2000 と外部モニタで最高の性能を得るためには、SunPCi II カードのアドオンの背面板にあるシリアルポートにシリアルマウスを接続します。

▼ ディスプレイをシステムモニタへ戻す方法

- 外部ビデオからシステムモニタに戻すには、92 ページの「Windows 2000 ディスプロイプロパティを構成する方法」の手順に従います。ただし 手順 4 で、メインモニタとしてビデオ 1 をクリックします。



注意 – 内部および外部モニタを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。SunPCi ソフトウェアはマルチヘッド機能をサポートしていません。

次のステップ

- 周辺装置 (オーディオデバイスやプリンタなど) を SunPCi II カードに接続する場合は、第 10 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 の操作、ソフトウェアの起動および終了方法、コマンドラインオプションの使用方法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、および SunPCi II 2.3 ソフトウェアのその他の機能については第 11 章を参照してください。
- Windows アプリケーションソフトウェアを PC にインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアまたは Windows 2000 のインストール中や実行中に問題が発生した場合には、付録 A を参照してください。

第7章

Windows NT 4.0 Workstation または Server と Windows NT 4.0 Terminal Server の使用

この章では、SunPCi II 製品で Microsoft Windows NT 4.0 Workstation、Microsoft Windows NT 4.0 Server、および Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server オペレーティングシステムを使用する場合の、システムソフトウェアのインストール方法と構成方法を説明します。

この章では、次のような項目が扱われます。

- “Windows NT のインストール” –96 ページ
- “サーバーの構成に関する注意” –99 ページ
- “Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成” –102 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “カスタムインストールの実行方法” –97 ページ
- “Service Pack のインストール方法” –98 ページ
- “Windows NT の再インストール方法” –99 ページ
- “SunFSD 割り当てを有効にする方法” –101 ページ
- “SunFSD 割り当てを無効にする方法” –102 ページ
- “Sun NDIS アダプタのインストール方法” –103 ページ
- “Sun NDIS アダプタを削除する方法” –104 ページ
- “Windows NT 用に外部ビデオを構成する方法” –105 ページ
- “ディスプレイをシステムモニタに戻す方法” –107 ページ

この章では、Microsoft Windows NT 4.0 Workstation は Windows NT4 WS、Microsoft Windows NT 4.0 Server は Windows NT4 Server、および Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server は Windows NT4 TS と呼びます。この後の手順で Windows NT といった場合には、これら 3 つのオペレーティングシステムすべてを指しています。

参照 – この章では、Windows NT4 Server および Windows NT4 TS ソフトウェアのインストールや構成手順に Windows NT4 WS と異なる点がある場合には、説明の後にサーバー用のヒントが記載されています。

Windows NT のインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi の [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。標準の Microsoft インストールスクリプトとは異なるスクリプトを使用してカスタムインストールを実行する場合は、97 ページの「カスタムインストールの実行方法」を参照してください。

Windows NT4 Server または Windows NT4 TS をインストールして実行する前に、SunPCi II カードの RAM を少なくとも 128 MB、可能ならそれ以上にアップグレードすることは重要です。これらのオペレーティングシステムの実行には、256 MB 以上の RAM を使用するようお勧めします。Windows NT4 Server および Windows NT4 TS に必要なメモリは、接続するユーザーの人数とタイプにより異なります。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報をすべて用意してください。

- 市販の Windows NT インストールソフトウェア CD、またはカスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードでの Windows NT のワークグループまたはドメイン名

▼ カスタムインストールの実行方法



注意 - 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスでオペレーティングシステムの自動インストールを指定すると、オペレーティングシステムに対応したセットアップファイル、起動ファイル、システムファイル、およびドライバが自動的に検索およびコピーされ、SunPCi ソフトウェアの再起動の際に Windows のセットアップが開始します。カスタマイズされたインストールスクリプトを使用しない場合は、カスタムインストールを実行しないでください。

1. 新しいエミュレートハードドライブを作成し、DR DOS 7.01 オペレーティングシステムソフトウェアを自動インストールします。

15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」の手順に従ってください。「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスのオプションを次のように設定します。

- 自動インストールするオペレーティングシステムとして、DR DOS 7.01 を選択します。
- ドライブは一度作成すると拡張できないため、十分なサイズが確保されていることを確認します。
- ドライブを C: ドライブとして作成します。
- 最高の性能を得るために、エミュレートハードドライブをワークステーションまたはサーバーのローカルハードディスクに作成することをお勧めします。

2. SunPCi II ソフトウェアを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

SunPCi II ソフトウェアが再起動します。OpenDOS プロンプト (C:¥>) が表示されます。

3. SunPCi II ドライバをインストールします。

Windows NT ファイルのデフォルトの場所は r:¥cdrom¥cdrom0¥i386 です。カスタムインストールを実行するには、¥s: スイッチを使用して、カスタムインストールファイルの場所を指定する必要があります。たとえば、Windows NT ディスクイメージがドライブ R: 上の Solaris ディレクトリの ¥export¥home¥winnt¥i386 にある場合は、次のコマンドを使用します。

```
C:¥> f:¥drivers¥winnt¥setupnt /s:r:¥export¥home¥winnt¥i386
```

セットアップには数分かかります。SunPCi II ソフトウェアにより、次のメッセージが表示されます。

```
Copying Windows Setup files...
Copying Windows Boot files...
Copying Windows System files...
Copying Optional files...
Copying SunPCi II Installation Files...
```

参照 – Windows NT4 TS のメッセージは多少異なります。

setupnt スクリプトが Windows NT ファイルを C: ドライブにコピーし終わると、SunPCi II ソフトウェアが再起動します。Windows NT のセットアップ画面が表示されます。Windows NT セットアップがファイルのコピーを完了すると、SunPCi II ソフトウェアがもう一度再起動します。

4. SunPCi II ソフトウェアが再起動した後、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか Meta-M を押して、マウスを接続します。

これにより、Windows NT のインストール中にマウスが使用できるようになります。インストール中に正しいマウスドライバがインストールされるので、インストール後にマウスを手動で接続する必要はありません。

5. ディレクトリをカスタムインストールスクリプトの場所に変更します。
6. カスタムインストールスクリプトを使用して、インストールを完了します。

▼ Service Pack のインストール方法

SunPCi II 2.3 ソフトウェアで必須の適切な Microsoft Windows Service Pack をインストールする必要があります。

- 必要な Service Pack の種類とそのインストール方法については、21 ページの「Service Pack のインストール」を参照してください。

▼ Windows NT の再インストール方法

- 標準バージョンの Windows NT を再インストールする場合は、「コントロールパネル」画面の [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows NT CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。



注意 – Windows NT を再インストールする際、自動実行ダイアログボックスの [Windows NT セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows NT のエラーである「青い画面」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

サーバーの構成に関する注意

次の情報は、Solaris オペレーティング環境で SunPCi II 2.3 ソフトウェアを使用し、サポートされている Windows NT サーバーオペレーティングシステムを構成、インストールする際の注意事項です。Windows NT4 TS では、コピーと貼り付けは機能しません。

SunPCi II サーバーの構成および性能に関する詳細な情報については、次の URL のホワイトペーパーを参照してください。

- <http://www.sun.com/blueprints/0601/windows.pdf>
- <http://www.sun.com/blueprints/1101/sizesunray.html>

SunFSD を使用した Solaris と Microsoft Windows オペレーティングシステム間の割り当て

SunPCi II 2.3 ソフトウェアパッケージには Sun ファイルシステムドライバ (SunFSD) が含まれています。このドライバにより、Microsoft Windows のドライブ文字が Solaris ディレクトリに割り当てられ、Solaris ディレクトリとファイルシステムへのアクセスが可能になります。SunFSD の割り当ては構成することができます。

SunPCi II 2.3 のインストールでは、デフォルトで次の Microsoft Windows サーバーソフトウェアの SunFSD 割り当て機能が**無効**になります。

- Windows 2000 Server

- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS

したがって、サーバーソフトウェアの実行中、管理者を含むあらゆるユーザー（またはプログラム）による `¥¥localhost` ディレクトリの割り当ては失敗します。さらに、Universal Naming Convention (UNC) プリフィックスとして `¥¥localhost` を含む UNC パスを使用した、ファイルへの参照やアクセスはすべて失敗します。

このような割り当ての制御は、セキュリティ上の理由で行われています。SunFSD の現行リリースでは、`¥¥localhost` を通じての割り当てやファイルアクセスは、SunPCi II ソフトウェアを起動したユーザーまたはプロセスの権限を継承します。したがって、SunPCi II カードで Microsoft サーバーオペレーティングシステムが実行されている場合に SunPCi ソフトウェアがルートアカウントで起動されると、通常のサーバーユーザーがそのネットワーク内のルート権限を継承してしまいます。

Windows XP Professional、Windows 2000 Professional、および Windows NT4 WS では、SunFSD が有効になっています。これは、これらのオペレーティングシステムを使用する場合にはマルチクライアントファイルシステムのセキュリティ上の問題が存在しないためです。Windows XP Professional、Windows 2000 Professional、および Windows NT4 WS では、以前のリリースと同様に SunFSD ドライブを割り当てることができます。

Solaris ディレクトリへのアクセスを必要とするサーバーインストールの場合、サーバー管理者はクライアントごとにセキュリティ証明を使用する Solaris PC NetLink や Samba などのアプリケーション、または Windows ドライブ文字をローカルユーザーとして割り当てる Citrix MetaFrame クライアントを使用する必要があります。

Sun の PC NetLink ソフトウェアの詳細については、Web サイト www.sun.com にアクセスし、PC NetLink で検索してください。

注 - Microsoft Windows 互換アプリケーションを SunFSD のマウント位置より下位のディレクトリにインストールすると、一部の初期型 Microsoft Windows アプリケーションが使用できなくなる場合があります。SunFSD およびその使用中に発生する問題の解決方法については、175 ページの「Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際のトラブルシューティング」を参照してください。

▼ SunFSD 割り当てを有効にする方法

SunFSD は、サーバー管理者のアカウントのみにより、必要に応じてサーバーインストールで有効にすることができます。この場合は特に注意が必要です。この項で説明するメンテナンス作業の実行後には、必ず SunFSD を無効にしてください。

SunFSD 割り当てを有効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある fsdon.reg レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdon.reg
```

この作業は、サーバー管理者のアカウントを使用してのみ実行することができます。サーバークライアント (または権限を持たないプログラム) がレジストリを変更しようとすると拒否されます。

SunFSD を有効にすると、その後の ¥¥localhost プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて成功します。また、サーバーを再起動しても SunFSD は有効になったままです。SunFSD の有効後に行われた割り当ては、ログオフの後、またはシステムの再起動の後、システムへのログイン時に再接続されます (再接続されるように構成されている場合)。



注意 – SunFSD が管理者によって有効にされると、あらゆるサーバークライアントやプログラムが SunPCi II ソフトウェアを起動したプロセスのセキュリティ証明を使用して Solaris ディレクトリやファイルを割り当てたり、それらにアクセスしたりできるようになります。

管理者が SunFSD を有効にする主な理由は、ドライバ更新スクリプトやその他の SunPCi から提供されているスクリプトを実行するために SunFSD 機能が**必要**とされるためです。

SunFSD を有効にする前に、管理者はまずクライアントログインを無効にする必要があります。また、更新 (またはその他のアクティビティ) が終了したら、管理者はすべての SunFSD ドライブを削除または割り当て解除し、SunFSD での割り当てを無効にして、システムを再起動する必要があります。

▼ SunFSD 割り当てを無効にする方法

SunFSD 割り当てを無効にするには、サーバー管理者として次の手順を実行します。

- 次の場所にある `fsdoff.reg` レジストリファイルをダブルクリックします。

```
C:\¥sun¥sunfsd¥fsdoff.reg
```

一旦 SunFSD 割り当てを無効にすると、その後の ¥¥localhost プリフィックスを使用した割り当てや参照はすべて失敗します。また、サーバーを再起動しても SunFSD 割り当ては無効になったままです。したがって、SunFSD 割り当てを無効にする前に成功した SunFSD ディレクトリ割り当てがある場合でも、システムの再起動後にその割り当てを使用することはできません。

Windows NT での仮想 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi II ソフトウェアでは、デフォルトで物理 Ethernet ネットワークが有効になっています。物理ネットワークではなく仮想ネットワークを使用する場合は、Microsoft Windows で物理 Ethernet アダプタを無効にし、仮想 Ethernet アダプタをインストールする必要があります。この項では、この手順を説明します。



注意 – 仮想および物理ネットワークを同時に有効にすると、問題となる相互作用が発生する場合があります。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、43 ページの「SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定」を参照してください。

参照 – 仮想 Ethernet は、Microsoft Windows NT 4.0 Terminal Server ではサポートされていません。

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

SunPCi II ソフトウェアでは、出荷時に SiS 900 Fast Ethernet の物理 Ethernet ドライバがデフォルトで有効になっていますが、Windows NT のデフォルトのネットワーク設定は仮想 Ethernet ネットワークです。Windows NT で仮想ネットワークを使用するためには、SiS ドライバを無効にして Sun NDIS アダプタを有効にする必要があります。

▼ Sun NDIS アダプタのインストール方法

注 – Microsoft Windows ではさまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができますが、以前に Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の手順に従ってください。SunPCi II ソフトウェアは、これ以外のインストール方法をサポートしていません。

1. Windows NT の [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
コントロールパネルの「ネットワーク」ウィンドウが表示されます。
3. [アダプタ] タブをクリックします。
ウィンドウ内で Sis 900 Fast Ethernet Adapter がハイライトされています。
4. [削除] をクリックします。
このドライバを永久に削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
5. [はい] をクリックします。
[アダプタ] タブに戻ります。
6. [追加] をクリックします。
ダイアログボックスが開き、「ネットワークアダプタの一覧を作成しています」というメッセージが少しの間表示されます。リストの作成が完了すると、「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。
7. [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。

8. [ファイルの場所] フィールドに次のパスを入力します。

c:\¥sun¥sunnet¥winnt

9. [OK] をクリックします。

「OEM オプションの選択」ダイアログボックスが表示されます。Sun NDIS アダプタが表示されています。

10. [OK] をクリックして Sun NDIS アダプタをインストールします。

インストールが完了すると、コントロールパネルの [ネットワーク] に戻ります。

11. [閉じる] をクリックします。

「TCP/IPの設定」ダイアログボックスが表示されます。43 ページの「TCP/IP プロパティの設定方法」の情報を参照してください。TCP/IP の構成が完了すると、Windows NT を再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

12. [はい] をクリックします。

Microsoft Windows が再起動し、仮想 Ethernet アダプタが TCP/IP に対して有効になります。

▼ Sun NDIS アダプタを削除する方法

Sun NDIS ドライバを削除し、SiS 900 Fast Ethernet アダプタを復元するには、次の手順を実行します。

1. Windows NT の [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2. [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

コントロールパネルの「ネットワーク」ウィンドウが表示されます。

3. [アダプタ] タブをクリックします。

ウィンドウ内で Sis 900 Fast Ethernet Adapter がハイライトされています。

4. [削除] をクリックします。

このドライバを永久に削除するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

5. [はい] をクリックします。

[アダプタ] タブに戻ります。

6. [追加] をクリックします。

ダイアログボックスが開き、「ネットワークアダプタの一覧を作成しています」というメッセージが少しの間表示されます。リストの作成が完了すると、「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスが表示されます。

7. [ディスク使用] をクリックします。

「フロッピーディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。

8. [ファイルの場所] フィールドに次のパスを入力します。

c:\¥sun¥sisnet¥winnt

9. [OK] をクリックします。

「OEM オプションの選択」ダイアログボックスが表示されます。Sun 900 Fast Ethernet アダプタが表示されています。

10. [OK] をクリックして、Sun 900 Fast Ethernet アダプタをインストールします。

インストールが完了すると、コントロールパネルの [ネットワーク] に戻ります。

11. [閉じる] をクリックします。

「TCP/IP の設定」ダイアログボックスが表示されます。43 ページの「TCP/IP プロパティの設定方法」の情報を参照してください。TCP/IP の構成が完了すると、Windows NT を再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

12. [はい] をクリックします。

Microsoft Windows が再起動し、仮想 Ethernet アダプタが TCP/IP に対して有効になります。

▼ Windows NT 用に外部ビデオを構成する方法

注 - VGA 画面を起動する際には、Windows NT 起動時の OS Loader 画面を使用しないでください。外部 VGA ドライバをセットアップする際は、この項の手順に従ってください。

外部モニターを使用するためには、モニターを接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。

1. モニターを SunPCi II のアドオン背面板にあるビデオポートコネクタに接続します。
ビデオポートの場所については、図 10-1 を参照してください。
2. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動してください。
3. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
4. [画面] アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. [ディスプレイの設定] タブをクリックし、[ディスプレイの種類] をクリックします。
「ディスプレイの種類」設定ウィンドウが表示されます。



注意 – 「ディスプレイの種類」ウィンドウで [検出] ボタンはクリックしないでください。
[検出] ボタンをクリックすると、SunPCi ソフトウェアが再起動します。

6. [変更] をクリックします。
「ディスプレイの変更」設定ウィンドウが表示されます。
7. [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
8. [ファイルの場所] フィールドに次のパスを入力します。

c:\¥sun¥sisvideo¥winnt

9. [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。
ダイアログボックスが開き、「サードパーティドライバをインストールしようとしています。」というメッセージが表示されます。
10. [はい] をクリックします。
プログラムによってドライバがインストールされると、ダイアログボックスが開き、「ドライバは正常にインストールされました。」というメッセージが表示されます。
11. [OK] をクリックします。

12. [OK] を 2 回クリックし、画面上の 2 つのダイアログボックスを閉じます。
Windows NT によりコンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
13. [いいえ] をクリックします。Windows NT をシャットダウンします。
14. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
15. 外部ビデオを使用するには、外部ビデオの構成後、UNIX コマンドプロンプトから次のコマンドを使用して SunPCi II ソフトウェアを起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -vga
```

外部モニタに Windows NT 画面が表示されます。モニタの解像度と色数の詳細については、185 ページの「ビデオディスプレイの問題」を参照してください。

注 – 表示モードを変更するたびに (システム表示から外部へ、またはその逆)、Windows NT をシャットダウンし SunPCi ソフトウェアをリセットする必要があります。SunPCi ソフトウェアを再起動すると、モニタの適切なディスプレイドライバがロードされます。

▼ ディスプレイをシステムモニタに戻す方法

1. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動してください。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. [画面] アイコンをダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. [ディスプレイの設定] タブをクリックし、[ディスプレイの種類] をクリックします。
「ディスプレイの種類」設定ウィンドウが表示されます。



注意 – 「ディスプレイの種類」ウィンドウで [検出] ボタンはクリックしないでください。[検出] ボタンをクリックすると、SunPCi ソフトウェアが再起動します。

5. [変更] をクリックします。
「ディスプレイの変更」設定ウィンドウが表示されます。
6. [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクからインストール」ダイアログボックスが表示されます。
7. c:\¥sun¥sunvideo¥winnt と入力して [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。
プログラムによってドライバがインストールされると、ダイアログボックスが開き、「ドライバは正常にインストールされました。」というメッセージが表示されます。
8. [OK] をクリックします。
9. [OK] を 2 回クリックし、画面上の 2 つのダイアログボックスを閉じます。
Windows NT によりコンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
10. [いいえ] をクリックします。
11. Windows NT をシャットダウンします。
12. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
13. -vga スイッチを使用しないで、SunPCi II ソフトウェアを再起動します。
システムモニタに SunPCi ウィンドウが表示されます。

注 – モニタの解像度またはディスプレイの色数を変更する前に、実行しているアプリケーションをすべてシャットダウンし、作業を保存してください。適用する前に新しい設定をテストする必要はありません。

次のステップ

- 周辺装置 (オーディオデバイスやプリンタなど) を SunPCi II カードに接続する場合は、第 10 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの操作、ソフトウェアの起動および終了方法、コマンドラインオプションの使用法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、および SunPCi II 2.3 ソフトウェアのその他の機能については、第 11 章を参照してください。

- Windows アプリケーションソフトウェアを通常の手順に従ってインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアまたは Windows NT のインストール中や実行中に問題が発生した場合は、付録 A を参照してください。

第8章

Microsoft Windows Millennium Edition のインストールと使用

この章では、SunPCi II 製品を使用した場合の、Microsoft Windows Millennium Edition オペレーティングシステムソフトウェアのインストール方法と構成方法を説明します。

この章では、次のような項目が扱われます。

- “Windows ME のインストール” –111 ページ
- “Windows ME における仮想 Ethernet ネットワークの構成” –119 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “新規 C: ドライブに Windows ME をインストールする方法” –113 ページ
- “SunPCi II ドライバのインストール方法” –115 ページ
- “Windows ME の再インストール方法” –116 ページ
- “Windows 98 SE から Windows ME へのアップグレード方法” –117 ページ
- “Windows ME ドライバのインストール方法” –118 ページ
- “Windows ME のネットワークアダプタを構成する方法” –119 ページ
- “Windows ME の外部ビデオを構成する方法” –120 ページ
- “システムモニタに表示を戻す方法” –121 ページ

この章では、Microsoft Windows は Windows ME を指しています。

Windows ME のインストール

通常、オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、[SunPCi オプション] メニューから「新規エミュレートドライブの作成」を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。しかし、SunPCi の自動インストールの手順では Windows ME オペレーティングシステムはサポートしていません。

SunPCi II 製品を使用した場合の、Windows ME のインストール方法は 2 つあります。

- 17 ページの「新規エミュレートドライブの作成方法」の説明に従って、新しいエミュレートハードディスクを作成し、Windows ME および Microsoft Windows ベースのアプリケーションすべてをインストールします。この手順については、113 ページの「新規 C: ドライブに Windows ME をインストールする方法」で説明されています。
- Windows 98 SE エミュレートドライブを Windows ME にアップグレードします。この方法を使用すると、Windows 98 SE エミュレートドライブにインストールされているアプリケーションまたはデータをすべて保持できます。エミュレートドライブを Windows ME にアップグレードする方法については、117 ページの「Windows 98 SE から Windows ME へのアップグレード方法」で説明されています。

注 – SunPCi II ソフトウェアでは、40 GB までのサイズのエミュレートドライブファイルの作成が可能です。ただし DOS ファイルシステム固有の制限のため、Microsoft Windows オペレーティングシステムのインストール後直ちにアクセスできるのは、最初の 2 GB だけです。大容量エミュレートドライブファイルシステムにパーティションを作成する方法については、156 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows ME インストールソフトウェア CD、またはカスタムインストールスクリプト
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードでの Windows ME ワークグループまたはドメイン名

次の項の手順を実行する前に、スーパーユーザーではなく通常ユーザーとしてログインしていることを確認してください。スーパーユーザーとしてログインしている場合は、exit と入力して % プロンプトに戻ってください。

注 – CD-ROM ドライブを SunFSD (¥¥cdrom¥cdrom0) にマウントすると、特定のプログラムでファイルを検出できなくなることがあります。

▼ 新規 C: ドライブに Windows ME をインストールする方法

注 – Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、これ以外のインストール方法はサポートしていません。



注意 – SunPCi II 2.3 システムで使用する Windows ME をインストールする場合、Windows ME の起動ディスクを使用しないでください。この章で説明される手順に従って、正しいドライバをインストールしてください。

1. 17 ページの「新規エミュレートドライブの作成方法」の説明に従って、新しいエミュレートドライブを作成してください。

自動インストールするオペレーティングシステムに、Windows ME を選択します。ドライブの作成手順が完了したら、Windows ME を手動でインストールするようというメッセージが表示されます。

2. 市販の Windows ME の CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

CD は自動的にマウントされ、画面上の Solaris ウィンドウに CD の内容が表示されます。表示されない場合は、Solaris ボリュームマネージャーが使用可能になっていない可能性があります。131 ページの「CD-ROM ドライブをマウントする方法」を参照してください。

3. OpenDOS プロンプトで、次のコマンドを入力し、Return を押します。

```
C:> f:%drivers%winme%cpy_drv.bat
```

cpy_drv.bat プログラムにより、Windows ME ドライバが C: ドライブにコピーされます。

4. SunPCi II ウィンドウの OpenDOS プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
C:> r:%cdrom%cdrom0%setup.exe
```

注 - CD-ROM ドライブを手動でマウントした場合は、¥cdrom¥cdrom0 パスを、CD-ROM ドライブをマウントしたパスに置き換えてください。詳しくは、131 ページの「CD-ROM ドライブをマウントする方法」を参照してください。

画面に「システムをチェックして、安全に Windows をインストールできるか確認します。」というメッセージが表示されます。

5. Return を押して続行します。

Scandisk ユーティリティが実行されます。Windows ME の「セットアップウィザード」ウィンドウが表示されます。

6. [次へ] をクリックして続行します。

インストールプログラムによってファイルがいくつかロードされ、Windows ME 使用許諾契約書が表示されます。

7. [同意する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[次へ] をクリックします。

「プロダクトキー」ウィンドウが表示されます。

8. Windows ME CD のプロダクトキーを入力し、[OK] をクリックします。

Windows ME のプロダクトキーやその他の Microsoft Windows 関連の情報については、Windows ME のマニュアルを参照してください。

9. セットアップウィザードのダイアログボックスが表示されたら、[次へ] をクリックしてセットアップウィザードのインストール手順を続行します。インストールのオプションを確認する画面が表示されたら、オプション (標準、最小など) を選択します。

インストールの過程では、情報画面がいくつか表示されます。ファイルのコピーが終了すると、コンピュータを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

10. [OK] をクリックしてコンピュータを再起動します。

インストールルーチンが Windows ME を再起動し、セットアップとハードウェアの構成タスクを続行します。

Windows ME をインストールし、SunPCi II ソフトウェアを再起動した後、SunPCi II ドライバをインストールしてください。次の項に進んでください。

注 – マウスポインタが 2 つ表示されていると、SunPCi II ドライバがインストールされていません。

▼ SunPCi II ドライバのインストール方法

SunPCi II セットアップユーティリティを使用して SunPCi II ドライバをインストールします。このユーティリティは Windows ME から実行します。

1. [スタート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。

[ファイル名を指定して実行] フィールドが表示されます。

2. 次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

```
C:\winme\setup
```

「InstallShield Wizard ウィザードの準備中」というメッセージが表示されます。

「InstallShield ウィザード」ウィンドウと進行状況を示すバーが表示されます。

「SunPCi II セットアッププログラムへようこそ」画面が表示されます。

3. [次へ] をクリックして続行します。

「使用するモニタを選択してください」画面が表示されます。

4. SunPCi II ソフトウェアをメインのワークステーションのモニタから実行する場合は、[ワークステーションモニタ] を選択します。SunPCi II カードの背面に接続された VGA モニタを使用する場合は、[外部モニタ] を選択します。

5. [次へ] をクリックします。

6. ワークステーションの Solaris ネットワーク (仮想 Ethernet) から SunPCi II ソフトウェアを実行する場合は [ソフトウェアエミュレーション] の [ワークステーションアダプタ] を、物理 Ethernet 接続で SunPCi II カードを実行する場合は [ハードウェア] の [SunPCi アダプタ] を選択します。

物理 Ethernet を実行するには、SunPCi II カードの背面に Ethernet ケーブルが接続されている必要があります。

7. [次へ] をクリックして続行します。

インストールプロセスが続行されます。

8. 画面上の指示とプロンプトに従います。

インストールが完了すると、ダイアログボックスが開き、「セットアップの完了」というメッセージが表示されます。コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

9. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[完了] をクリックします。

SunPCi II が再起動されると、Microsoft ネットワークのネットワークパスワードの入力を確認するダイアログボックスが表示される場合があります。

このダイアログボックスが表示された場合、ユーザー名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。パスワードを確認するメッセージが表示されたら、パスワードをもう一度入力します。ドライバがインストールされ、SunPCi II システムで Windows ME を使用する準備が整います。

▼ Windows ME の再インストール方法

- Windows ME を再インストールする場合は、「コントロールパネル」画面の [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows ME CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。



注意 – Windows ME を再インストールする際、オートランダイアログボックスの [Windows ME セットアップ] オプションは使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows ME のエラーである「青い画面」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

▼ Windows 98 SE から Windows ME へのアップグレード方法



注意 – アップグレードは、この項の説明に従って慎重に行ってください。。SunPCi II プログラムのセットアップおよび構成手順は、Microsoft アップグレード手順とは異なる部分があります。Windows ME の CD にある標準の Microsoft アップグレード手順は使用しないでください。標準のアップグレード手順を実行すると、インストールに失敗し、Windows ME エミュレートディスクで SunPCi II を実行できず、エミュレート C: ドライブが破損する可能性があります。

1. Windows ME CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Windows のデスクトップで、[スタート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューの [プログラム] から Windows エクスプローラを選択します。
Windows エクスプローラのウィンドウが表示されます。
3. CD-ROM ドライブに対応するアイコンをダブルクリックします。
CD 内のファイルのリストが、ウィンドウの右側に表示されます。
4. [セットアップ] をダブルクリックすると Windows ME インストールウィザードが開始します。
5. [次へ] をクリックします。

「Windows ME セットアップ」ウィンドウが開き、「Windows ME ウィザードの準備中」というメッセージが表示されます。

6. [次へ] をクリックして続行し、画面上の指示に従います。

Microsoft Windows インストールプログラムによってファイルがいくつかロードされ、Microsoft Windows ME 使用許諾契約書が表示されます。Windows ME のプロダクトキーやその他の Microsoft Windows 関連の情報については、Windows ME の CD ケースおよびマニュアルを参照してください。

インストールの過程では、情報画面がいくつか表示されます。Windows ME のダイアログボックスが開き、「システムファイルを保存しますか?」というメッセージが表示されます。

7. Windows 98 SE のシステムファイルを保存する場合は、[はい] をクリックして保存先ドライブを選択します。ファイルを保存しない場合は、[いいえ] をクリックしてこの手順をスキップします。

インストールが完了すると、ダイアログボックスに、「再起動の準備ができました。」というメッセージが表示されます。ドライブからすべてのディスクを取り出し、[OK] をクリックするとコンピュータが再起動します。

8. [OK] をクリックして SunPCi II ソフトウェアを再起動します。

ソフトウェアが再起動されると、Windows ME の初期画面が表示されます。必要に応じて、続行する前に紹介ビデオを見ることもできます。

9. 初期画面を閉じるには、ウィンドウの右上隅の終了ボタンをクリックします。

注 - ドライブ F: が Windows エクスプローラに表示されなくなります。SunPCi II システムの Windows ME では、F: ドライブを必要としないため、ユーザーはこれを自由に割り当てることができます。

▼ Windows ME ドライバのインストール方法

1. Windows ME で [スタート] ボタンをクリックし、ポップアップメニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

2. 次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
C:¥winme¥setup
```

「SunPCi II セットアップ」ウィンドウが表示されます。

3. [既存のドライバの更新] の隣にあるラジオボタンをクリックし、[次へ] をクリックします。

「セットアップ」ダイアログボックスが表示されます。

4. [次へ] をもう一度クリックしてドライバの更新を続行します。

インストールプロセスが完了すると、コンピュータを再起動するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

5. [はい] をクリックして SunPCi II と Windows ME を再起動します。

Windows ME における仮想 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi II ソフトウェアは、Windows 98 SE と Windows ME において、デフォルトで仮想 (NDIS) ネットワークが有効になっています。物理ネットワークを使用する場合には、SunPCi II の Windows ME セットアップルーチンを使用して物理 Ethernet アダプタを切り替える必要があります。この項では、この手順を説明します。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、43 ページの「SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定」を参照してください。

注 - システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合には、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

Windows ME は CD に収録されているファイルにアクセスする必要があるため、作業に入る前に CD-ROM ドライブに Windows ME CD が入っていることを確認してください。

注 - Microsoft Windows では、さまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができます。Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の説明に従ってください。SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、これ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ Windows ME のネットワークアダプタを構成する方法

1. Windows ME の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。
2. 次のパスを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
C:\winme\setup
```

「SunPCi II セットアップ」ウィンドウが表示されます。

3. [ネットワークコントローラの種類の変更] をクリックし、[次へ] をクリックします。
4. [ソフトウェアエミュレーション] の [ワークステーションアダプタ] か [ハードウェア] の [SunPCi アダプタ] のいずれかを選択し、[次へ] をクリックします。

「Windows の再起動」画面が表示され、再起動後には、SunPCi II 製品上で Windows ME を使用することができます。

5. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[OK] をクリックします。

SunPCi II ソフトウェアが再起動し、Windows ME の「プラグアンドプレイ」ダイアログボックスで適切なネットワークコントローラが検出されます。検出が終了したら、ダイアログボックスが開き、「コンピュータを今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

6. [はい] をクリックして Windows ME を再起動します。
7. Windows ME の再起動後、Windows ME のマニュアルに従って TCP/IP を構成します。

▼ Windows ME の外部ビデオを構成する方法

外部モニタを使用するには、モニタを SunPCi II カードのアドオン背面板に接続し、外部ビデオドライバをインストールする必要があります。

1. モニタを SunPCi II のアドオン背面板にあるビデオポートコネクタに接続します。
ビデオポートの場所については、図 10-1 を参照してください。
2. Windows ME の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
3. 次のパスを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
C:\winme\setup
```

「SunPCi II セットアップ」ウィンドウが表示されます。

4. [ディスプレイの種類] をクリックし、[次へ] をクリックします。
ビデオ表示に使用するモニタを確認する画面が表示されます。

5. [外部モニタ] を選択し、[完了] をクリックします。
6. [コンピュータを後で再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[OK] をクリックします。
7. Windows ME の[スタート] メニューから [Windows の終了] を選択します。
Windows ME をシャットダウンします。
8. SunPCi のウィンドウの [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
9. SunPCi II のダイアログボックスで [OK] をクリックして SunPCi II ソフトウェアをシャットダウンします。
10. 外部ビデオの構成後に UNIX コマンドプロンプトから SunPCi を起動するには、次のコマンドを使用します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -vga
```

ビデオ出力が、外部モニタに表示されます。

▼ システムモニタに表示を戻す方法

1. まだ SunPCi II ソフトウェアを実行していない場合は起動します。
2. Windows ME の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
3. 次のパスを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
C:¥winme¥setup
```

「SunPCi II セットアップ」ウィンドウが表示されます。

4. [ディスプレイの種類] をクリックし、[次へ] をクリックします。
ビデオ表示に使用するモニタを確認する画面が表示されます。
5. [システムモニタ] を選択し、[完了] をクリックします。

6. [コンピュータを後で再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックします。
[OK] をクリックします。
7. Windows ME の[スタート] メニューから [Windows の終了] を選択します。
Windows ME のシャットダウン
8. SunPCi II ウィンドウの [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
9. SunPCi II ダイアログボックスで [OK] をクリックし、SunPCi II ソフトウェアをシャットダウンします。
10. -vga スイッチを使用せずに SunPCi II ソフトウェアを再起動します。
システムモニタに SunPCi II ウィンドウが表示されます。

注 – モニタの解像度またはディスプレイの色数を変更する前に、実行しているすべてのアプリケーションをシャットダウンし、作業を保存してください。適用する前に新しい設定をテストする必要はありません。

次のステップ

- 周辺装置 (オーディオデバイスやプリンタなど) を SunPCi II カードに接続する場合は、第 10 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの操作、起動および終了方法、さらにコマンドラインオプションの使用法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、SunPCi II 2.3 ソフトウェアのその他の機能については第 11 章を参照してください。
- Windows アプリケーションソフトウェアを通常の手順に従ってインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアのインストール中または実行中に問題が発生した場合には、付録 A を参照してください。

第9章

Windows 98 SE の使用

この章では、SunPCi II 製品で Microsoft Windows 98 Second Edition オペレーティングシステムを使用する場合の、システムソフトウェアのインストール方法と構成方法を説明します。

注 – SunPCi II 2.3 ソフトウェアは Microsoft Windows 98 のオリジナルリリースをサポートしていません。SunPCi II 2.3 製品で Windows 98 を使用するには、Microsoft Windows 98 Second Edition をインストールする必要があります。

この章では、次のような項目が扱われます。

- “Windows 98 SE のインストール” –124 ページ
- “Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成” –125 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “Windows 98 SE の再インストール方法” –124 ページ
- “Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成方法” –125 ページ
- “Windows 98 SE 用に外部ビデオを構成する方法” –126 ページ
- “ディスプレイをシステムモニタに戻す方法” –127 ページ

この章では、Microsoft Windows 98 Second Edition を Windows 98 SE と呼びます。

注 – これ以降の項で説明される手順を実行する前に、スーパーユーザーではなく通常のユーザーとしてシステムにログインしていることを確認してください。スーパーユーザーとしてログインしている場合は、exit と入力して % プロンプトに戻ってください。

Windows 98 SE のインストール

オペレーティングシステムソフトウェアのインストールは、SunPCi の [オプション] メニューから [新規エミュレートドライブの作成] を選択してエミュレートドライブを作成する際に行います。15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。

インストールに関する注意

インストールを開始する前に、必ず次のメディアと情報を用意してください。

- 市販の Windows 98 SE インストールソフトウェア CD
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードのネットワークシステム名
- システムにインストールされている各 SunPCi II カードでの Windows 98 SE のワークグループまたはドメイン名

▼ Windows 98 SE の再インストール方法

- Windows 98 SE を再インストールする場合は、「コントロールパネル」画面の [アプリケーションの追加と削除] 機能を使用するか、Windows 98 SE CD を挿入すると表示される自動実行ダイアログボックスを使用します。



注意 – Windows 98 SE を再インストールする際には、オートランダイアログボックスの [Windows 98 SE セットアップ] オプションを使用しないでください。このオプションを使用すると、Windows 98 SE のエラーである「青い画面」が現れ、起動デバイスがアクセス不能であることを示すメッセージが表示されます。

Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成

SunPCi II ソフトウェアでは、Windows 98 SE と Windows ME 用の**仮想 (NDIS) ネットワーク**がデフォルトで有効になっています。**物理ネットワーク**を使用する場合は、仮想 Ethernet アダプタを無効にして、物理 Ethernet アダプタを有効にする必要があります。

注 – システムに複数の SunPCi II カードがインストールされている場合、仮想ネットワークは SunPCi II ソフトウェアによって無効にされます。

物理および仮想 Ethernet ネットワークの詳細については、43 ページの「SunPCi II ハードウェアおよびソフトウェアのネットワーク設定」を参照してください。

注 – Microsoft Windows ではさまざまな方法でソフトウェアをインストールすることができますが、以前に Microsoft Windows ソフトウェアをインストールした経験がある場合でも、この項の手順に従ってください。SunPCi II 2.3 ソフトウェアは、これ以外のインストール方法をサポートしていません。

▼ Windows 98 SE での物理 Ethernet ネットワークの構成方法

1. Windows 98 SE CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

CD は自動的にマウントされ、SunPCi II Solaris ウィンドウが表示されます。このウィンドウが表示されない場合は、Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない可能性があります。131 ページの「CD-ROM ドライブをマウントする方法」を参照してください。

2. Windows 98 SE の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のパスをダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

SunPCi II のセットアップウィンドウが表示されます。

4. [ネットワークコントローラの種類の変更] をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [ソフトウェアエミュレーション] の [ワークステーションアダプタ]、または [ハードウェア] の [SunPCi アダプタ] を選択し、[次へ] をクリックします。

「Windows の再起動」画面が表示されます。

6. [コンピュータを今すぐ再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[OK] をクリックします。

SunPCi II ソフトウェアが再起動し、Windows 98 SE の「プラグアンドプレイ」ダイアログボックスで適切なネットワークコントローラが検出されます。検出が終了すると、ダイアログボックスが開き、「今すぐコンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されます。

7. [はい] をクリックして Windows 98 SE を再起動します。
8. Windows 98 SE が再起動されたら、Windows 98 SE のマニュアルに従って TCP/IP を構成します。

これで、SunPCi II 製品で Windows 98 SE を使用することができます。

▼ Windows 98 SE 用に外部ビデオを構成する方法

1. モニタを SunPCi II のアドオン背面板にあるビデオポートコネクタに接続します。
ビデオポートの場所については、図 10-1 を参照してください。
2. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動してください。
3. Windows 98 SE の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

4. 次のパスをダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

SunPCi II のセットアップウィンドウが表示されます。

5. [ディスプレイの種類の変更] をクリックし、[次へ] をクリックします。
6. ビデオ表示に使用するモニタの選択画面で、[外部モニタ] を選択します。
ドライバのインストールが進行し、ダイアログボックスに「今すぐコンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
7. [コンピュータを後で再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックします。
8. Windows 98 SE の [スタート] メニューから [Windows の終了] を選択します。
Windows 98 SE がシャットダウンします。
9. SunPCi ウィンドウの [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
10. SunPCi II ダイアログボックスで [OK] をクリックして、SunPCi II ソフトウェアをシャットダウンします。
11. 外部ビデオを使用するには、外部ビデオの構成後、UNIX コマンドプロンプトから次のコマンドを使用して SunPCi II ソフトウェアを起動します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -vga
```

外部モニタに Windows 98 SE 画面が表示されます。モニタの解像度と色数の詳細については、185 ページの「ビデオディスプレイの問題」を参照してください。

▼ ディスプレイをシステムモニタに戻す方法

1. SunPCi II ソフトウェアをまだ実行していない場合は、起動してください。
2. Windows 98 SE の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のパスをダイアログボックスに入力し、[OK] をクリックします。

```
f:¥drivers¥win98¥setup
```

SunPCi II のセットアップウィンドウが表示されます。

4. [ディスプレイの種類の変更] をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. ビデオ表示に使用するモニタの選択画面で、[システムモニタ] を選択します。
6. [コンピュータを後で再起動する] の横にあるラジオボタンをクリックし、[OK] をクリックします。
7. Windows 98 SE をシャットダウンします。
8. SunPCi の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。
9. -vga スイッチを使用しないで、SunPCi II ソフトウェアを再起動します。
システムモニタに SunPCi II ウィンドウが表示されます。

次のステップ

- 周辺装置 (オーディオデバイスやプリンタなど) を SunPCi II カードに接続する場合は、第 10 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの操作、ソフトウェアの起動および終了方法、コマンドラインオプションの使用方法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、および SunPCi II ソフトウェアのその他の機能については、第 11 章を参照してください。
- Windows アプリケーションソフトウェアを通常の手順に従ってインストールします。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアまたは Windows 98 SE のインストール中や実行中に問題が発生した場合は、付録 A を参照してください。

第10章

ドライブの使用と周辺装置の構成

この章では、次のような項目が扱われます。

- “SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムのフロッピーディスクドライブの使用” –129 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムの CD-ROM ドライブの使用” –130 ページ
- “オーディオデバイスと USB デバイスの接続” –133 ページ
- “パラレルデバイスの接続” –135 ページ
- “シリアルデバイスの接続” –136 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法について説明します。

- “CD-ROM ドライブをマウントする方法” –131 ページ
- “CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法” –132 ページ
- “SunPCi II ウィンドウのサイズを変更する方法” –132 ページ
- “外部モニタのシリアルマウスを構成する方法” –136 ページ

SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムのフロッピーディスクドライブの使用

使用しているシステムにフロッピーディスクドライブが内蔵されている場合、Microsoft Windows ではこのドライブが A: ドライブとして認識されます。

ほとんどの Sun システムにはフロッピーディスクドライブが 1 台搭載されていますが、一部の UltraSPARC システムにはフロッピーディスクドライブが内蔵されていません。内蔵フロッピーディスクドライブが搭載されていない UltraSPARC システムを使用している場合、フロッピーディスクからソフトウェアをインストールしたりデータをコピーしたりするには、フロッピーディスクドライブを取り付ける必要があります。

システムで Solaris ボリュームマネージャー (vold プロセス) を実行している場合、SunPCi II 2.3 ソフトウェアでフロッピーディスクドライブを使用するためには、フロッピーディスクドライブに対するボリュームマネージャーのコントロールを無効にする必要があります。vold を無効にして SunPCi II でフロッピーディスクドライブを使用するには、SunPCi II ソフトウェアを起動する前に Solaris プロンプトでスクリプト /opt/SUNWspci2/bin/vold_floppy_disable を実行します。この手順を実行しないと、フロッピーディスクドライブを A: ドライブとして使用することはできません。

SunPCi II ソフトウェアにおけるシステムの CD-ROM ドライブの使用

SunPCi II ソフトウェアには Microsoft Windows 用のダイレクト CD-ROM ドライバが含まれているため、CD-ROM ドライブを割り当てる必要はありません。エミュレート D: ドライブを作成している場合、CD-ROM ドライブはデフォルトで自動的に E: ドライブに割り当てられます。D: ドライブを作成していない場合、CD-ROM ドライブは D: ドライブに割り当てられます。

システムの Solaris ボリュームマネージャー (vold) を無効にしている場合、SunPCi II ソフトウェアで vold を使用するには、このプログラムを有効に戻す必要があります。または、vold を使用せずに、手動で CD-ROM ドライブファイルシステムをマウントすることもできます。

注 – SunPCi II 2.3 ソフトウェアは、DVD データはサポートしますが、DVD ビデオはサポートしていません。

▼ CD-ROM ドライブをマウントする方法

システムの Solaris ボリュームマネージャー (vold) を無効にしている場合、SunPCi II ソフトウェアで vold を使用するには、このプログラムを有効に戻す必要があります。または、vold を使用せずに、手動で CD-ROM ドライブファイルシステムをマウントすることもできます。

1. ボリュームマネージャーが有効であるかどうかを確認するには、Solaris デスクトップで端末ウィンドウを開き、次のように入力します。

```
% ps -df | grep vold
```

有効である場合は、ボリュームマネージャープロセス (vold) に関する情報が返されます。

ワークステーションで Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない場合は、スーパーユーザーとしてログインし、次の手順に従って CD-ROM ドライブを手動でマウントする必要があります。

vold が無効である場合は、次の例のように、grep プロセスの情報のみが返され、vold プロセスの情報は返されません。

```
ユーザー名 2698 1934 0 10:34:01 pts/s 0:00 grep vold
```

上記の例では、vold に関して表示される情報が grep vold のみであるため、ボリュームマネージャーは有効になっていません。ボリュームマネージャーが有効である場合は、追加の行と別のプロセス ID (上記の grep の例では 2698) が表示されます。

ワークステーションの Solaris ボリュームマネージャーが有効である場合は、この手順の残りの部分を省略してください。

2. Solaris ボリュームマネージャーが有効になっていない場合は、次のコマンドとルートパスワードを入力し、スーパーユーザーとしてログインします。

```
% su  
パスワード
```

3. 次のように入力し、ルートディレクトリに移動します。

```
# cd /
```

4. 次のいずれかのコマンドを入力します。

- CD-ROM ドライブが SCSI ドライブである場合は、ワークステーションの端末ウィンドウに次のコマンドを入力して、CD-ROM ドライブをマウントします。

```
# mount -o ro -F hsfs /dev/dsk/c0t6d0s2 /cdrom
```

注 – マイナス記号とアルファベット o の間にスペースを挿入せずに -o と入力してください。

- CD-ROM ドライブが IDE ドライブである場合は、次のように入力します。

```
# mount -o ro -F hsfs /dev/dsk/c0t2d0s2 /cdrom
```

CD-ROM ドライブの種類や、ドライブがサポートするファイルシステムを確認するには、ハードウェアプラットフォームのマニュアルを参照してください。

5. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザーのセッションを終了します。

```
# exit
```

▼ CD-ROM ドライブから CD を取り出す方法

- CD-ROM ドライブから CD を取り出すには、[オプション] メニューから [CD の取り出し] を選択するか、またはマウスポインタが SunPCi II ウィンドウにある状態で Meta-E を押します。

▼ SunPCi II ウィンドウのサイズを変更する方法

Solaris ウィンドウマネージャー機能を使用して、SunPCi II ウィンドウのサイズを変更することはできません。SunPCi II ウィンドウのサイズを変更するには、次の手順に従ってください。

1. Microsoft Windows デスクトップを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
2. 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで、[設定] タブをクリックします。

3. [デスクトップ領域] スライダーを移動して解像度を調整し、[OK] をクリックします。
4. プロンプトが表示されたら、新しい表示サイズを設定します。

オーディオデバイスと USB デバイスの接続

SunPCi II カードの背面板には、オーディオポート (マイクrophonと出力) が 2 つ、外部ビデオポートが 1 つ、および USB (Universal Serial Bus) ポートが 1 つあります。

オーディオデバイスの接続

SunPCi II オーディオポートでは、オーディオがワークステーションのスピーカーに出力されません。オーディオを聴くには、別のスピーカーやヘッドフォンを出力ステレオポートに接続する必要があります。

図 10-1 は、SunPCi II カードの背面版にあるポートを示したものです。

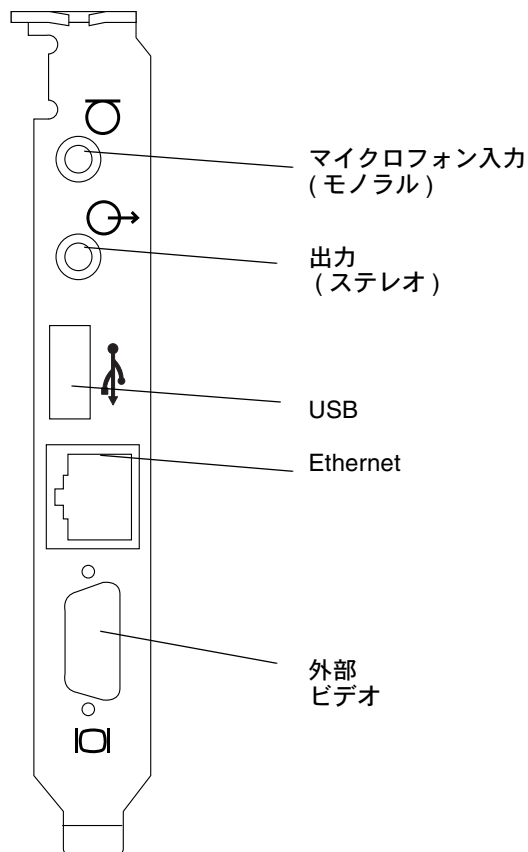


図 10-1 SunPCi II カードの背面版にあるコネクタ

USB デバイスの接続

Windows XP Professional、Windows 2000、Windows ME、および Windows 98 SE では USB 接続がサポートされていますが、Windows NT は USB デバイスをサポートしていません。詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

USB ポートには、デジタルカメラやプリンタなど、さまざまな USB デバイスを接続できます。複数の USB デバイスを接続する場合は、外部電源ハブを使用する必要があります。

USB デバイスを SunPCi II カードに接続するには、それぞれのデバイスに応じて必要な接続を行います。デバイスのケーブルを SunPCi II カードの背面にある USB ポート (図 10-1) に接続します。USB デバイスはすぐに動作します。

パラレルデバイスの接続

アドオンの背面板 (SunPCi II カードに付属しています) には、パラレルポートがあります。このポートには、プリンタなど、SunPCi II ソフトウェアで使用するパラレルデバイスを接続することができます。図 10-2 は、アドオンの背面板にあるコネクタを示しています。背面板の取り付けはオプションです。

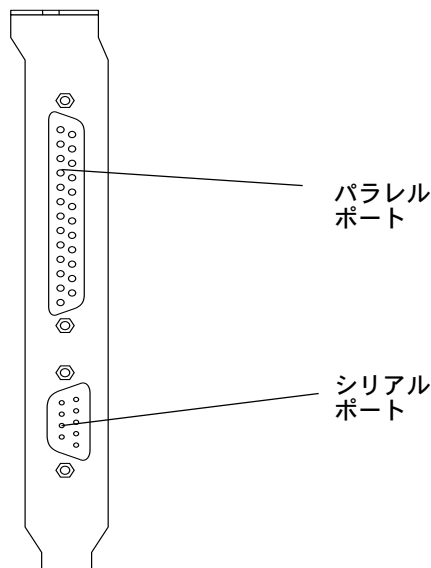


図 10-2 SunPCi II カードのアドオン背面板にあるコネクタ

アドオンの背面板をまだ取り付けていない場合は、プリンタを接続する前に背面板を取り付けてください。背面板を取り付ける方法については、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

アドオンの背面板を取り付けた後で、背面板の平行ポートに平行ケーブルを接続します。SunPCi II カードのアドオン平行ポートは LPT1 に割り当てられます。Microsoft Windows のコントロールパネルの [プリンタ] を使用して、プリンタをプリンタポートに割り当てることができます。Windows 98 SE での印刷設定の詳細については、第 11 章を参照してください。

SunPCi II ソフトウェアの平行ポートで印刷するには、通常の PC での操作と同様に、PC ベースのアプリケーションの [印刷] コマンドを使用します。

注 - 以上の説明は、SunPCi II カードの平行ポートに接続するローカルプリンタに関するものです。Microsoft Windows オペレーティングシステムで Solaris プリンタを使用する方法については、169 ページの「Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する」を参照してください。USB プリンタの使用方法については、134 ページの「USB デバイスの接続」を参照してください。

シリアルデバイスの接続

オプションのアドオン背面板にはシリアルポートがあります。このポートには、SunPCi II ソフトウェアで使用するモデムやシリアルデバイスを接続することができます。このシリアルポートは COM1 に割り当てられます。図 10-2 は背面板のシリアルポートの位置を示しています。

シリアルポートを使用するには、デバイスとアドオン背面板のシリアルポートをシリアルケーブルで接続します。使用するデバイスのドライバをインストールする必要がある場合は、そのソフトウェアのフロッピーディスクまたは CD を手元に準備し、対応するコントロールパネルを使用してドライバをインストールします。シリアルデバイスの接続と使用の詳細については、シリアルデバイスに付属しているマニュアルを参照してください。

▼ 外部モニタのシリアルマウスを構成する方法

1. マウスのコネクタを、アドオンの背面板にあるシリアルコネクタに接続します。
コネクタが背面板にしっかりと接続されていることを確認します。

2. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] メニューの [ハードウェアの追加] オプションを選択します。

ウィザードの指示に従って、シリアルマウスをインストールします。

次のステップ

SunPCi II 2.3 製品で使用する周辺装置のインストールと構成に関する説明は以上です。

- SunPCi II 2.3 ソフトウェアの操作、ソフトウェアの起動および終了方法、コマンドラインオプションの使用方法、SunPCi II 2.3 ウィンドウ、および SunPCi II 2.3 ソフトウェアのその他の機能については、第 11 章を参照してください。
- SunPCi II 2.3 ソフトウェアのインストール中や実行中に問題が発生した場合は、付録 A を参照してください。

SunPCi IIソフトウェアの使用

この章では、`sunpci` ソフトウェアコマンドラインオプション、SunPCi II 2.3 グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) ウィンドウ、メニュー、およびダイアログボックスの使い方について詳しく説明します。また、フロッピーディスクドライブや CD-ROM ドライブなど、SunPCi II ドライブを使用した作業についても説明します。

さらに、ワークステーションの X Windows と Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows ME、Windows 98 SE 間での [コピー] コマンドおよび [貼り付け] コマンドの使用方法について説明します。また、SunPCi II システムでの印刷設定方法についても説明します。

この章では、次の一般的な項目について説明します。

- “`sunpci` コマンドとオプション” –140 ページ
- “SunPCi II メニュー” –143 ページ
- “Boot@Boot サポート” –145 ページ
- “Boot@Boot サポートの構成と使用” –147 ページ
- “エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア” –156 ページ
- “エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア” –161 ページ
- “コピーおよび貼り付けコマンドの使用” –167 ページ
- “Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する” –169 ページ
- “スクリーンセーバーの使用” –170 ページ

この章では、次のタスクを完了する方法が扱われます。

- “リモートクライアントから VNC を操作する方法” –155 ページ
- “エミュレート C: ドライブをバックアップする方法” –159 ページ

- “Windows ME または Windows 98 SE で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法” -162 ページ
- “Windows ME または Windows 98 で長いパスを持つディレクトリにドライブを割り当てる方法” -164 ページ
- “Windows XP Professional、Windows 2000、またはWindows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法” -165 ページ
- “UNIX ウィンドウ から Microsoft Windows へのテキストをコピーする方法” -167 ページ
- “Microsoft Windows から UNIX ウィンドウへのテキストのコピー” -168 ページ
- “Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法” -168 ページ
- “Microsoft Windows から Solaris プリンタを設定する方法” -169 ページ

sunpci コマンドとオプション

sunpci コマンドと共にコマンドラインオプションを使用するには、コマンド、ダッシュ、コマンドラインオプションの順に入力し、その後にファイル名、カード名、またはコマンドなど必要な引数を入力します。

次に例を示します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci - オプション 引数
```

使用するコマンドラインオプションを指定するには、*option* を使用します。オプションと共に使用するファイル名を指定するには、**ファイル名** を使用します。どのオプションでもファイル名が使用できるわけではありません。ダッシュとオプションの間にはスペースを挿入しないでください。

たとえば、SunPCi II ソフトウェアを起動し、ウィンドウのタイトルバーにカスタマイズしたテキストを挿入する場合は次のコマンドを入力します。

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -title " テキスト文字列"
```

デフォルトの C: ドライブ以外の C: ドライブで SunPCi II ソフトウェアを起動するには、次のコマンドを入力します。新規ドライブを新しい C: ドライブの名前に置き換えてください。c. **新規ドライブ**

```
% /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -c c.新規ドライブ
```

表 11-1 は、使用可能な SunPCi II コマンドラインオプションのリストです。

表 11-1 SunPCi II コマンドラインオプション

オプション	説明
オプションなし	sunpci コマンドにオプションが使用されない場合、SunPCi II によりデフォルトで SunPCi メニューが表示されます。
-bindmac	sunpci -C ディスクイメージファイル名および-c カード名オプションと共に使用される場合、bindmac オプションは、カード名カードの MAC アドレスをファイル名.ini ファイルヘッダーに書き込み、指定されたカード名の MAC アドレスをディスクイメージファイル名にバインドします。この操作により、ファイルヘッダーにある元の MAC アドレスが上書きされます。 次に示すのは、bindmac オプションの一般的な使用形式です。 sunpci -C ディスクイメージ -c カード名-bindmac
-C ディスクイメージ	ディスクイメージファイル名を C: ドライブとして使用し、SunPCi II ウィンドウを起動します。これにより、デフォルトのプロパティファイル /\$HOME/pc/SunPC.ini で指定されているデフォルトドライブが無効になります。
-c カード名	カード名 を C: ドライブとして使用して、SunPCi II カードを起動します。カード名は、Card1、Card2 などのように SunPCi II ソフトウェアによって割り当てられるラベルです。インストールされているカード名の一覧を表示するには、-l オプションを使用します。複数カードの使用の詳細については、27 ページの「複数の SunPCi II カードの使用」を参照してください。
-D ディスクイメージ	ディスクイメージファイル名を D: ドライブとして使用し、SunPCi II ウィンドウを起動します。このオプションにより、デフォルトのプロパティファイル /\$HOME/pc/SunPC.ini で指定されるデフォルトドライブが無効になります。

表 11-1 SunPCi II コマンドラインオプション (続き)

オプション	説明
-display ホスト名.ドメイン:0.0	別のワークステーション (ドメインにあるホスト名) で SunPCi II ウィンドウを表示します。たとえば、SunPCi II ウィンドウを eastern ドメインにある willow というシステムで開くには、ワークステーション (SunPCi II カードがインストールされているワークステーション) に次のコマンドを入力します。 /opt/SUNWspci2/bin/sunpci -display willow.eastern:0.0
-h	SunPCi II コマンドラインのヘルプを表示します。このオプションにより、すべての SunPCi II コマンドラインオプションとその形式の一覧が表示されます。
-l	システムにインストールされ、認識されている SunPCi カードを表示します。スイッチは、Card1 のようなカード名、/dev ディレクトリ内のデバイスファイル名 (/dev/sunpci2drv0 など)、カードの種類と説明、そしてカードの標準 Ethernet (MAC) アドレス (ID = 08:00:20:F9:5F:2C など) を返します。出力形式の一覧については、33 ページの「カード名の特定方法」を参照してください。
-new ファイル名.ini	新しい ファイル名.ini と、そのファイル名を組み込んだ新しいディスクイメージ名を作成します。このコマンドを使用すると、SunPCi II の [Disk Create] メニュー GUI が、デフォルトのディスク名 (\$HOME/pc/c.ファイル名.diskimage) と共に表示されます。ファイルが既に存在する場合には、sunpci コマンドが中止され、ファイル名は作成されません。
-nomac	イメージが作成されていないカードでイメージを起動した場合は、カードとディスクイメージの組み合わせの確認を停止し、警告ダイアログボックスの表示を停止します。この警告の全文については、33 ページの「特定の .ini ファイルの起動方法」を参照してください。イメージと現行カードの再バインドについては、-bindmac オプションを参照してください。
-p ファイル名.ini	ファイル名で指定したプロパティファイルの構成情報を使用して SunPCi II を起動します。SunPCi II のデフォルトのプロパティファイルは \$HOME/pc/SunPC.ini です。
-title "テキスト文字列"	引数テキスト文字列がスペースを含む引用符付きの文字列である場合は、SunPCi II ウィンドウのタイトルバーにタイトル引数を書き込みます。文字列にスペースがない場合は、引用符は必要ありません。

表 11-1 SunPCi II コマンドラインオプション (続き)

オプション	説明
-vga	Microsoft Windows ビデオを外部ビデオコネクタに接続します。ビデオポートの位置を確認するには、図 10-1 を参照します。 モニタでこの設定を行う方法については、該当するオペレーティングシステムの章にある外部ビデオの構成の項を参照してください。
-xwait [時間]	X サーバーとの接続に失敗した場合、SunPCi II 2.3 ソフトウェアが接続を再試行するように設定します。接続の試行時間は、無期限 (-xwait に続く引数 時間 がいない場合) または 時間 秒になります。SunPCi II 2.3 ソフトウェアが、指定された 時間 秒後でも X サーバーへ接続できないと、SunPCi II 2.3 ソフトウェアが終了します。

SunPCi II メニュー

SunPCi II ソフトウェアの起動の際、最初に表示される画面は SunPCi II ウィンドウです。このウィンドウにはエミュレート OpenDOS コマンドプロンプトがあり、これにより、DOS プログラムを実行したり、インストールされている Microsoft Windows オペレーティングシステムを起動したりすることができます。

次の項では、SunPCi II ウィンドウの上部にある [ファイル] および [オプション] メニューについて説明します。

[ファイル] メニュー

SunPCi II の [ファイル] メニューには、[PC のリセット] と [終了] の 2 つのコマンドがあります。

SunPCi II ウィンドウのリセットでは、PC でリセットボタンを押した場合と同じ処理が行われます (ハードリセットとも呼ばれます)。SunPCi II ウィンドウを再起動する主な理由は 2 つあります。

- 異なる SunPCi II エミュレートハードドライブを接続するため (詳しくは156 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照)
- キーボード、または SunPCi II ウィンドウで実行している Microsoft Windows オペレーティングシステムが応答しない場合

SunPCi II [ファイル] メニューから [PC のリセット] コマンドを選択すると、SunPCi II をリセットするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックするとダイアログボックスが閉じ、SunPCi II が再起動します。

[終了] コマンドを使用すると、SunPCi II アプリケーションが終了し、SunPCi II ウィンドウが閉じます。

注 – Microsoft Windows の応答がない場合以外は、SunPCi II GUI の [終了] オプションを選択する前に、スタートメニューから [シャットダウン] を選択して Microsoft Windows を終了するようにしてください。[終了] オプションを使用して Microsoft Windows を終了すると、開いているアプリケーションの最新情報が失われる可能性があります。

[オプション] メニュー

[オプション] メニューを使用すると、エミュレートハードディスクドライブ (C: および D: ドライブ) を作成して接続したり、CD-ROM ドライブを接続したり、CD を取り出したりすることができます。また、このメニューを使用して SunPCi II にマウスを接続することもできます。この作業は、Microsoft Windows のインストール後、SunPCi II ドライバのインストール前に行う必要があります。

表 11-2 は、[オプション] メニューにあるディスク関連のコマンドを説明しています。エミュレートドライブを選択する方法については、15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。

表 11-2 [オプション] メニューのディスク関連コマンド

設定	説明
既存のエミュレートドライブを接続	C: または D: ドライブに割り当てるエミュレートハードドライブ (ディレクトリ/ファイル名) を指定します。
新しいエミュレートドライブの作成	エミュレートドライブとして使用するファイルを作成します。
CD-ROM の接続	CD-ROM ドライブを SunPCi II に接続します。
CD の取り出し	CD を CD-ROM ドライブから取り出します。キーボードショートカットは Meta-E です。
マウスの接続	SMI モードで SunPCi II ウィンドウにマウスを接続することができます。キーボードのショートカットは Meta-M です。

Boot@Boot サポート

Boot@Bootは SunPCi II 2.3 リリースの新機能で、Boot@Bootがインストールされているサーバーの起動時に、1枚以上の SunPCi II カードの SunPCi II 2.3ソフトウェアが自動的に起動されるよう構成することができます。また、何らかの理由で SunPCi セッションが失敗した場合にセッションを自動的に再開する機能や、Microsoft Windows オペレーティングシステムのシャットダウンを含め、SunPCi セッションを順にシャットダウンする機能を含んでいます。この機能は、次のバージョンの Windows でのみサポートされます。それ以外の Windows オペレーティングシステムではサポートされません。

- Windows 2000 Server
- Windows NT4 Server
- Windows NT4 TS

次の SunPCi II 2.3 ソフトウェアコンポーネントは Boot@Boot をサポートしています。

- SunPCi デーモン—これは、必須コンポーネントです。
- Virtual Network Computing¹ (VNC)—これはオプションのコンポーネントです。

SunPCi デーモン

SunPCi デーモン (sunpcid) は Boot@Boot サポートのデーモン機能を実装するデュアルファンクションアプリケーションで、起動時に SunPCi セッションを自動的に開始し、システムのシャットダウン時に SunPCi セッションを自動的にシャットダウンする機能を備えています。また、コマンドライン引数による制御機能が実装され、Solaris サーバーの管理者は必要に応じて処理を行うよう SunPCi デーモンプロセスを構成することができます。たとえば、sunpcid コマンドを使用して、SunPCi II カードの Boot@Boot サポートを /etc/Master.ini ファイルに追加することができます。このファイルは sunpcid デーモンの構成情報を格納するように拡張されています。

1. Virtual Network Computing (VNC) ソフトウェアの著作権は、X Consortium (1993) および AT&T ケンブリッジ研究所 (1999) が有します。全権保有。VNC を SunPCi に導入する場合、サポートされるのは SunPCi 製品のみです。VNC の他のバージョンは、このバージョンの VNC と互換性がありません。VNC ソースコードは SunPCi II CD の /source ディレクトリに含まれています。VNC ソースコードの使用、変更、再配布についての詳細は、ソースコードの法的通知を参照してください。

sunpcid コマンドを使用して、自動再起動機能の有効/無効を設定したり、1 枚以上のカードで SunPCi ソフトウェアを起動/停止したりすることができます。sunpcid コマンドとコマンドライン引数を使用して SunPCi デーモンの構成に変更を加えると、制御 sunpcid デーモンにより SunPCi デーモンプロセスに変更を通知する信号が送信され、自動的にデーモンプロセスが再構成されます。

sunpcid コマンドおよびオプションの詳細については、sunpcid マニュアルページを参照してください。MANPATH 環境変数が次のように設定されていることを確認してください。

```
$MANPATH:/opt/SUNWspci2/man
```

次に、以下のコマンドを入力します。

```
% man sunpcid
```

Virtual Network Computing (VNC)

VNC は、AT&T 研究所が GNU 一般公的使用許諾 (GPL) を有するソフトウェア製品のカスタマイズバージョンで、SunPCi II 製品をリモート管理することができます。また、ディスプレイハードウェアが未接続のヘッドレスサーバーや、ユーザーがシステムにログインする前などの理由で標準 X11 ディスプレイを使用できないサーバーで、SunPCi II ソフトウェアを実行することができます。

SunPCi II 2.3 リリースに付属する VNC のバージョンには、次の 2 つのコンポーネントが含まれています。

- Xvnc-仮想フレームバッファにデータを渡す改良型 X11 サーバー
- vncviewer-Xvnc 仮想フレームバッファの内容を別の X11 ディスプレイで表示可能な X11 クライアント

Xvnc サーバーにより、SunPCi セッションの表示内容が標準 X11 ディスプレイで表示できるようになります。通常、Xvnc は SunPCi セッションが開始される前に SunPCi デーモンにより起動されます。

vncviewer により、システム管理者はローカルのサーバー上にある SunPCi カード (ディスプレイが接続されていると仮定)、または Sun X サーバーを実行しているリモートの Sun マシン上 (SunRay ディスプレイを含む) にある SunPci カードを操作することができます。vncviewer と Xvnc サーバーへの表示を行う SunPCi の組み合わせにより、ネットワーク上の Sun マシンから現在実行されている VNC セッ

セッションに「オンザフライ」方式で接続し、リモートサーバーで実行されている SunPCi セッションを操作することができます。VNC セッションは切断して、後で完全に異なるマシンから再接続することができます。SunPCi セッションは、ユーザーの操作がない場合でも継続します。

VNCは SunPCi の管理に使用するよう設計されており、通常の Microsoft Windows を操作する SunPCi セッションをリモート表示するには設計されていません。通常的环境下 (単一ユーザーがワークステーションを使用) では、SunPCi セッションのリモート表示に X11 リモート表示機能を使用してください。複数のユーザーが使用するサーバー環境では、リモート表示に Citrix または NT ターミナルサーバー機能を使用してください。

注 – SunPCi II 2.3 バージョンの Xvnc および vncviewer は、これら両ソフトウェア間でのみ動作します。VNC ソフトウェアの他のバージョンとは互換性がありません。

Boot@Boot サポートの構成と使用

SunPCi Boot@Boot サポートを使用するには、SunPCi デーモンを構成し、デーモンで実行する機能を指定する必要があります。SunPCi デーモンはルートアカウントで実行されるので、Boot@Boot サポートを構成するには root としてログインする必要があります。

次の項では、Boot@Boot サポートの構成方法について説明します。sunpcid コマンドおよびそのオプションの詳細については、sunpcid マニュアルページを参照してください。MANPATH 環境変数が次のように設定されていることを確認してください。

```
$MANPATH: /opt/SUNWspci2/man
```

次に、以下のコマンドを入力します。

```
% man sunpcid
```

VNC への Boot@Boot サポートの構成

Boot@Boot を構成するには、まず VNC サポートを構成し、SunPCi II カードの起動時に、カードが必ず実行中の接続可能な X サーバーを使用できるようにします。SunPCi コンソールを表示する別の X サーバーがあり、接続にその X サーバーを必ず使用する場合は、VNC サポートを使用しないよう選択することができます。155 ページの「Xvnc 以外の X サーバーの使用」を参照してください。

VNC サポートを構成するには、まず次のコマンドを使用して、VNC サポートをファイル `/etc/Master.ini` に追加します。

```
# sunpcid -a VNC
```

これにより、デーモンが Xvnc サーバーを起動するのに必要な構成情報が追加されます。

注 - `sunpcid` コマンドは VNC またはカードの参照時に大文字と小文字を区別しないので、コマンド `sunpcid -a vnc`、`sunpcid -a VNC`、および `sunpcid -a Vnc` はすべて同様に処理されます。

最初にファイル `/etc/Master.ini` に VNC 構成情報を追加するときは、デフォルトで VNC が無効として構成されています。これにより、Xvnc が起動する前に構成情報をカスタマイズすることができます。

たとえば、ルートアカウント以外のアカウントで VNC および SunPCi セッションを実行する場合、ユーザーのユーザー ID、グループ ID、およびホームディレクトリを変更することができます。VNC のユーザー名を変更すると、Xvnc サーバーへの接続時に `vncviewer` アプリケーションにより、ルートパスワードではなくユーザー名のパスワードを入力するよう求められます。

この方法で、カードがインストールされているマシンにルートパスワードを入力しなくても SunPCi カードの管理者がすべてのアクセス権を持つように設定することができます。指定するアカウントが NIS または NIS+ アカウントでなく、ローカルアカウントの場合、そのアカウントの `/etc/shadow` パスワードファイルへのアクセス権は読み取り専用になります。

sunpcigroup グループの sunpciadmin アカウントで、ホームディレクトリ /home/sunpciadmin を使用して VNC を実行するよう構成するには、/etc/Master.ini ファイルで VNC セクションを次のように変更します。

```
[VNC]
CmdLineArgs=-geometry "1152x900" -depth 24
DisplayNum=10
StartupScript=/opt/SUNWspci2/bin/VNCStartup
UID=sunpciadmin           ;User ID
GID=sunpcigroup          ;Group ID
HomeDir=/home/sunpciadmin ;Home directory
AutoStart=Disabled
```

この構成情報により、SunPCi デーモンが解像度 1152 x 900 ピクセル、ピクセルあたり 24 ビットの色数で Xvnc サーバーを起動するように設定されます。サーバーはディスプレイ番号 10 への接続を許可します (DISPLAY=hostname:10)。ホームディレクトリ /home/sunpciadmin を使用して、プロセスがグループ sunpcigroup の sunpciadmin アカウントで実行されます。また、デーモンにより /opt/SUNWspci2/bin/VNCStartup スクリプトが実行されて CDE ウィンドウマネージャーおよび xterm ターミナルエミュレーターが起動されます。

Xvnc サーバーに他のエントリを追加することができます。たとえば、Xvncで 外国語キーボードのキーテーブルを使用できるように設定できます。SunPCi カード管理者が Sun ドイツタイプ 5 キーボードを使用する場合は、CmdLineArgs エントリを次のように変更します。

```
CmdLineArgs=-geometry "1152x900" -depth 24 -keytable Germany5
```

X11 キーテーブルのファイルは /usr/openwin/share/etc/keytables ディレクトリにあります。他の Xvnc コマンドオプションについては、Xvnc マニュアルページを参照してください。

VNC の構成後、VNC を有効にする必要があります。これにより、SunPCi デーモンは Xvnc サーバーの実行を開始します。Boot@Boot の VNC を有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWspci2/bin/sunpcid -e VNC
```

これにより、/etc/Master.ini ファイルの AutoStart 行が Enabled に変更され、SunPCi デーモンがファイルで指定される構成でファイルを再処理し、Xvnc サーバープロセスを開始します。この手順が完了すると、vncviewer を実行して、Xvnc サーバーに表示される X アプリケーションを操作できるようになります。

Boot@Boot サポートするよう SunPCi II カードを準備する

Boot@Boot サポート用に構成する各カードには、既存で固有の .ini ファイルと、該当する C: ドライブ (オプションで D: ドライブ) が必要です。命名規則により、カード *n* の .ini ファイルは `card n.ini` という名前が付けられます。また、このファイルは SunPCi セッションが実行するユーザー名の `~/pc` ディレクトリに格納されます。

たとえば SunPCi セッションがルートアカウントで実行される場合、Card1 の .ini ファイルは `/pc/card1.ini` になります。card1.ini ファイルにより参照される C: ドライブは、アクセス可能なファイルシステムのどこにでも配置することができますが、最高の性能を得るためには、ファイルシステムがカードのインストールされたマシンに物理的に接続されている必要があります。

たとえば、Windows 2000 オペレーティングシステムがインストールされた Card1 の C: ドライブへのパスが、`/files/drives/C.Win2K.diskimage` だとすると、`/pc/card1.ini` ファイルには次のエントリが格納されます。

```
[Drives]
C drive = /files/drives/C.Win2K.diskimage
```

適切な `cardn.ini` ファイルを作成し、Microsoft Windows オペレーティングシステムなどをインストールした後、Boot@Boot サポートのカードを構成することができます。29 ページの「SunPCi II ソフトウェアでの複数カードの構成」を参照してください。

Boot@Boot サポートに SunPCi II カードを構成する

VNC サポートと同様、それぞれのカードを個別に追加し、実行できるようにしてください。カードに Boot@Boot サポートを追加するには、`sunpcid` コマンドで `-a` オプションを使用します。

たとえば、Card1 に Boot@Boot サポートを追加するには、次のコマンドを使用します。

```
# sunpcid -a card1
```


これにより、/etc/Master.ini ファイルにあるカード 1 の既存の構成情報に、次の情報が追加されます。

```
[Card1]
CmdLineArgs=-p /pc/card1.ini -c card1 -xwait
AutoStart=Disabled
UID=root          ;User ID
GID=root          ;Group ID
HomeDir=/         ;Home directory
```

この情報により、SunPCi デーモンは Card1 を処理するタスクの内部リストに追加します。VNC と同様、カードに Boot@Boot サポートを追加すると、カードの AutoStart は無効として構成されます。これにより、カードの構成者は、SunPCi ソフトウェアを起動する前にカードで SunPCi ソフトウェアの実行方法をカスタマイズすることができます。

/etc/Master.ini ファイルの Card1 のセクションに追加された上記の情報は、VNC のセクションと同じ項目を多く含んでいます。UID、GID、および HomeDir エントリと、CmdLineArgs および AutoStart オプションは、セクション間で共通であり、同じ働きをします。

たとえば通常的环境中で、VNC セクションの UID、GID、または HomeDir エントリを変更する場合は、Boot@Boot に構成されている各カードで同様の変更を加える必要があります。

カードを適切に構成した後、sunpcid コマンドで -e オプションを使用してカードを有効にできます。1 度にカード 1 枚のみを追加する -a オプションとは異なり、-e オプションは 1 度に複数のカードを有効にします。

たとえば、Card1 と Card2 の 2 枚のカードを Boot@Boot サポートに構成する場合、次のコマンドを使用して同時に両方のカードを有効にできます。

```
# sunpcid -e card1 card2
```

このコマンドの発行後、SunPCi デーモンにより両方のカードで SunPCi セッションが開始されます。

注 - カードの `/etc/Master.ini` ファイルで `AutoStart` が有効に設定されている場合は、カードを有効にする `sunpcid -e` オプション使用時に、SunPCi ソフトウェアがそのカードで実行されていないことを確認してください。カードで `AutoStart` が有効になっていると、デーモンはそのカードでの SunPCi ソフトウェアの起動に失敗します。

Boot@Boot セッションのリスト

セッションのプロセス ID に加え、実行中の SunPCi セッションを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
# sunpcid -l
```

システムにより、次のようなリストが返されます。

```
sunpcid:      pid = 1131
VNC:          pid = 1134
Card1:        pid = 1135
Card2:        pid = 1136
#
```

VNC または SunPCi II カードの Boot@Boot サポートを無効にする

1つ以上の SunPCi セッションをシャットダウンする場合 (バックアップ用に C: ドライブを複製するときなど)、SunPCi デーモンの `AutoStart` 機能を無効にしておく必要があります。無効にせずに SunPCi セッションをシャットダウンすると、SunPCi デーモンは自動的にセッションの再開を試みます。SunPCi カードまたは Xvnc サーバーの `AutoStart` 機能を無効にするには、`sunpcid` コマンドで `-d` オプションを使用します。`-d` オプションを使用して、同時に複数のカードを無効にすることができます。

たとえば、Card1 および Card2 を無効にする場合は、次のコマンドを使用します。

```
# sunpcid -e card1 card2
```

これにより、Card1 および Card2 セクションの AutoStart エントリが無効になります。各カードの SunPCi セッションは、別の方法でシャットダウンされない限り継続します。

VNC または SunPCi II セッションのシャットダウン

VNC または SunPCi II セッションのシャットダウンが必要な場合があります。シャットダウンには、必要に応じてさまざまな方法を使用できます。

vncviewer による経由で SunPCi ソフトウェアまたは VNC を直接操作せずに SunPCi または VNC セッションをシャットダウンするには、`-D` オプションで `sunpcid` コマンドを使用します。これにより、`/etc/Master.ini` ファイルでセッションに `Disabled` というマークが付けられ、そのセッションで SunPCi デーモンによるシャットダウン手順が実行されます。

カード *n* でセッションをシャットダウンするには、次のコマンドを使用します。

```
# sunpcid -D cardn
```

これによりカード *n* の AutoStart が無効になります。したがって、カード *n* でセッションを再開したり、次の再起動時にセッションを自動的に起動したりするには、`sunpcid -e` コマンドを使用してカード *n* を再び有効にする必要があります。

VNC をシャットダウンするには、次のコマンドを使用します。

```
# sunpcid -D VNC
```

このコマンドを使用して VNC をシャットダウンすると、現在の SunPCi セッションすべても順にシャットダウンされます。

SunPCi デーモンプロセスのシャットダウン

SunPCi デーモンプロセスをシャットダウンする (SunPCi ソフトウェアを新規リリースにアップグレードするときなど) には、`sunpcid` コマンドで `-t` または `-T` オプションを使用する直接的な方法と、`-stop` オプションと `/etc/init.d/sunpci.server` スクリプトとを使用する間接的な方法があります。

sunpcid コマンドの `-t` オプションおよび `-T` オプションにより、SunPCi デーモンプロセスは実行中の SunPCi セッションすべてを順にシャットダウンし、その後デーモン自体も終了します。これら 2 つのオプションで異なる点は、`-t` オプションでは、セッションの終了がすべて完了してからシェルの呼び出しに戻るのに対し、`-T` オプションでは、デーモンがセッションを終了するとすぐにシェルの呼び出しに戻るという点です。

SunPCi デーモンプロセスを終了しても `/etc/Master.ini` file ファイルの Boot@Boot 構成情報は変更されません。sunpcid コマンドでオプションを指定せずに SunPCi デーモンを再起動してバックグラウンドで実行したり、`-start` オプションで `/etc/init.d/sunpci.server` スクリプトを使用したりすると、Enable に設定されているすべてのセッションが再開します。これが、標準の Solaris システムがシャットダウンする間に SunPCi セッションがシャットダウンするメカニズムです。

手動による Boot@Boot 構成の変更

`/etc/Master.ini` ファイルを編集して、次の変更を行うことができます。

- Xvnc の `DisplayNum` を使用する既存のディスプレイがある場合、その番号 (SunRay サーバーなどのディスプレイ)。
- 使用する `StartupScript` (デフォルトは `/opt/SUNWspci2/bin/VNCStartup`)。
- SunPCi を起動するコマンドライン引数 (ウィンドウマネージャデコレーションの `-title title_string` オプションを追加したり、`-p` スイッチで異なる `.ini` ファイルを使用したりする場合など)。
- VNC のコマンドライン引数 (VNC を 1280 x 1024 などの異なる解像度で表示する場合など)。

Card1 で使用する構成ファイルを `/pc/card1.ini` から `/pc/Win2K.ini` に変更する場合などに `/etc/Master.ini` ファイルの Boot@Boot 構成情報を手動で変更しても、SunPCi デーモンにはこの変更が通知されないため、変更はすぐに適用されません。

変更を加えたことを SunPCi ソフトウェアプロセスに通知するには、sunpcid コマンドで `-r` オプションを使用する必要があります。これにより、SunPCi デーモンは `/etc/Master.ini` ファイルを再び読み取り、デーモン自体を適切に再構成します。変更したセッションを再開するまで、変更は適用されません。したがって、新しい `/pc/Win2K.ini` ファイルを使用するには、SunPCi グラフィカルユーザーインターフェースか sunpcid コマンドで `-D` オプションを使用して Card1 の SunPCi セッションをシャットダウンし、再開する必要があります。

Xvnc 以外の X サーバーの使用

SunPCi カードに Xvnc 以外の X サーバーを使用するには、`/etc/Master.ini` ファイルのカードのセクションに次のような行を追加する必要があります。

```
DisplayName=hostname:displaynum
```

たとえば、ホスト名 `xyzzzy` のコンソールで実行している X サーバーで `Card1` を表示するよう構成するには、`/etc/Master.ini` ファイルの `[Card1]` セクションに `DisplayName=xyzzzy:0` というエントリを追加します

▼ リモートクライアントから VNC を操作する方法

1. リモートクライアントに `SUNWspvnc` パッケージをインストールします。

クライアントシステムに SunPCi II カードは必要はありませんが、カードを取り付けることもできます。

2. 次のコマンドを入力します。

```
# vncviewer
```

Xvnc サーバー名、およびその Xvnc サーバーが実行されているアカウントのユーザーパスワードを求めるダイアログボックスが表示されます。

コマンドラインで直接この情報を入力するには、次のようなコマンドを使用します。

```
# vncviewer vncserverhostname:displaynum
```

`vncserverhostname` を VNC を実行するサーバー名に、`displaynum` を使用するディスプレイ番号に置き換えてください。次に例を示します。

```
# vncviewer xyz:10
```

エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア

PC をエミュレートするために、SunPCi II ソフトウェアは Solaris 内でファイルを作成し、OpenDOS と Microsoft Windows がこのファイルを物理ハードドライブとして参照するよう構成します。このようなファイルを SunPCi II エミュレートハードドライブと呼びます。

SunPCi II ソフトウェアをインストールした後、デフォルトの C: ドライブを作成し、これをエミュレートドライブファイルに割り当てます。これにより、デフォルトですべての SunPCi II ウィンドウがこのドライブ C: から起動し、このドライブ上の起動ファイルを使用します。

注 – 異なるアプリケーションや構成を持つ複数の C: および D: ドライブファイルを作成し、必要に応じてドライブに割り当てることができます。一度に C: ドライブと D: ドライブをそれぞれ 1 つだけ有効にできます。また、1 つのファイルが同時に C: ドライブおよび D: ドライブとして機能することはできません。

これらのドライブの作成と構成については、15 ページの「エミュレートハードドライブの作成」を参照してください。

FAT16 ファイルシステムの制限

SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、40 GB までのエミュレートドライブファイルを作成することができます。ただし、エミュレートドライブで FAT 16 ファイルシステムを使用する場合、FAT 16 ファイルシステム固有の制限により、アクセスできるディスク領域は最初の 2 GB のみになります。

Microsoft Windows をインストールして起動した後、エミュレートディスクを FAT 32 または NT ファイルシステム (NTFS) などの別のファイルシステムに再フォーマット、変換したり、再度パーティション分割したりすることができます。さらに、新しいパーティションを作成したり、既存のパーティションのサイズを変更したり、再フォーマットを行ったりすることもできます。PowerQuest 社の PartitionMagic や ServerMagic などのサードパーティ製パッケージを使用したり、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT などの Microsoft オペレーティングシステムが提供するディスクの管理機能を使用して、これらの処理を実行することができます。

ファイルシステムの互換性

ディスク領域にパーティションを作成したり、異なるファイルシステムに変換したりすると、オペレーティングシステムによっては変換されたファイルシステムを認識できたり、できなかつたりします。次の表は、SunPCi 2.3 ソフトウェアがサポートしているオペレーティングシステム間での、変換後のディスク領域へのアクセスについて示しています。列にチェックマークがある場合には、異なるオペレーティングシステムのファイルシステム形式にアクセス可能であることを示しています。

表 11-3 変換されたファイルシステム間のアクセス可能性

ファイルシステム形式	オペレーティングシステム							
	¹ Windows XP Professional	¹ Windows 2000 Server	¹ Windows 2000 Professional	¹ Windows NT4 TS	¹ Windows NT4 WS	¹ Windows ME	¹ Windows 98 SE	² Caldera OpenDOS
FAT16	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
FAT32	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
NTFS 4	✓	✓	✓	✓	✓			
NTFS 5 ³	✓	✓	✓					

¹ ドライブにパーティションを作成したり、変換を行ったりするには、Microsoft Windows NTFS、FAT 32 または PartitionMagic ユーティリティを使用できます。また、SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、サードパーティ製ツールで、サポートされているサーバーオペレーティングシステム用の ServerMagic、およびサポートされている非サーバーファイルシステム用の PartitionMagic の動作が確認されています。

² FAT32、NTFS 4、または NTFS 5 形式に変換すると、エミュレートドライブを起動したり、OpenDOS で表示することができなくなります。

³ Windows 2000 で実行される NTFS5 と Windows NT 4 で実行される NTFS4 は、両方とも一般的に NTFS と呼ばれますが、この 2 つの間には互換性がありません。変換やパーティションを行う前に、バージョンを確認してください。

サーバーインストールでのファイルシステムの管理には、PowerQuest 社の ServerMagic サードパーティツールを使用してください。非サーバーインストールでのファイルシステムの管理には、PowerQuest 社の PartitionMagic ツールを使用します。これらのツールは次の PowerQuest 社の URL で入手できます。www.powerquest.com

パーティション、起動パーティション、およびファイルシステムの制限に関する詳細については、『ServerMagic User Guide』および ServerMagic オンラインヘルプ、または『PartitionMagic User Guide』および PartitionMagic オンラインヘルプを参照してください。

Windows NT4 TS の大容量エミュレートドライブ ファイルシステムのパーティション

Windows NT4 TS のカスタムインストール後は、ファイルシステム構成固有の問題がいくつかあります。PowerQuest 社の ServerMagic 4.0 ソフトウェアを使用して Microsoft Windows のドライブを初めて拡張する際、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
init failed Error 117 partition drive letter can't be identified
```

PowerQuest 社の ServerMagic 4.0 を使用して 2 GB を超えるサイズのドライブを拡張するには、ServerMagic をインストールした際に作成した 2 つのレスキュー起動ディスクを使用します。2 番目のレスキューディスクを挿入すると、ServerMagic が起動します。2 GB を超えるパーティションを拡張するには、ServerMagic の [Operation] メニューを開き、2 GB のパーティションに続くパーティションを削除します。次に最初のパーティションをハイライトし、[Operation] メニューから [Resize/Move] を選択して、SunPCi 「新規エミュレートドライブの作成」ダイアログボックスで定義したフルサイズにパーティションを拡張します。

一旦起動パーティションが NTFS または FAT32 ファイル形式に変換されてしまうと、OpenDOS を起動することはできません。これは既知の制限です。詳細については、156 ページの「FAT16 ファイルシステムの制限」を参照してください。

ファイルシステムの変換後は、インストールした Microsoft Windows オペレーティングシステムからディスク領域全体にアクセスできるようになります。ただし、変換を実行する前に、157 ページの「ファイルシステムの互換性」を参照してください。

エミュレートドライブ、Windows XP Professional、 Windows 2000、Windows NT、および SunPCi II ソフトウェア

この項では、Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で実行されるエミュレートハードドライブのファイルシステム形式のプロパティについて説明します。さらに詳しくは、156 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」も参照してください。

FAT (FAT 16 と FAT 32) および NTFS (NT ファイルシステム) は、Microsoft Windows のハードドライブで使用されるファイルシステム形式です。NTFS ファイルシステムには、より多くのエラー修復メカニズムがあり、この機能により FAT ファイルシステムよりも安定しています。ただし、パフォーマンスは少し低下します。

Microsoft Windows インストールパッケージに含まれている Microsoft Windows のマニュアルに、FAT と NTFS ファイルシステムの違いが説明されています。

▼ エミュレート C: ドライブをバックアップする方法

Microsoft Windows をインストールした後、C: ドライブのディスクイメージのコピーを定期的に作成する必要があります。何らかの事情によりドライブの内容を回復する必要が生じた場合、このコピーをバックアップとして使用できます。

1. C: ドライブのディスクイメージを見つけます。

ディスクイメージは、ワークステーションのホームディレクトリ内の `pc` というディレクトリに保存されています。ディレクトリの内容を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% cd ~/pc
% ls
```

ファイルのリストが表示されます。このリストには、インストール時に C: ドライブに割り当てた名前 (`C.diskimage` など) が含まれています。

2. このファイルのコピーを作成します。

実際のハードドライブの名前およびコピーに割り当てる名前を使用して、次のコマンドを入力します。

```
% cp C.diskimage C.diskimage.copy
```

SunPCi II ソフトウェアでの古いエミュレートドライブの使用

SunPCi ソフトウェアの 2.0 より前のバージョンで作成したエミュレートドライブがある場合、その古い C: ドライブを起動ドライブとして使用することはできません。ただし、エミュレートドライブを D: ドライブとして接続することはできます。



注意 – SunPCi ソフトウェアの 2.0 より前のバージョンでドライブを作成した場合、ドライブファイルのサイズ変更やパーティション作成、またはパーティションのサイズ変更を行わないでください。このような作業を行うと、SunPCi は「Cannot attach drive」というエラーメッセージを返し、そのエミュレートディスクを使用できなくなります。

複数の Microsoft Windows オペレーティングシステムの使用

SunPCi で複数のバージョンの Microsoft Windows を使用する場合、各オペレーティングシステムを別々のエミュレートドライブファイルにインストールすることをお勧めします。複数のオペレーティングシステムを 1 つのドライブにロードすることはお勧めできません。オペレーティングシステムを変更するには、[オプション] メニューの [ハードドライブの接続] コマンドを使用してエミュレートドライブを変更します。

Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows ME、または Windows 98 SE でデュアルブート SunPCi II ソフトウェアを使用するには、別の C: ドライブを作成します。上記のオペレーティングシステムのいずれかを実行する場合、[オプション] メニューから [ハードドライブの接続] コマンドを使用し、対応するオペレーティングシステムがインストールされている C: ドライブファイルを選択します。その後、SunPCi II ソフトウェアをリセットします。

注 – パーティションごとにインストールされた複数のバージョンの Microsoft Windows を使用する場合は、起動ドライブパーティションユーティリティをインストールする必要があります。PartitionMagic に同梱された BootMagic、および ServerMagic は SunPCi II ソフトウェアで動作が確認されています。

起動パーティションの作成

起動パーティションとは、オペレーティングシステム (Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows ME、Windows 98 SE など) がインストールされたディスクパーティションです。起動パーティションの必要条件は、Microsoft Windows のバージョンごとに異なります。Windows オペレーティングシステムのマニュアルおよび『Partition Magic User Guide』には、各オペレーティングシステムの必要条件についての情報が含まれています。ディスクユーティリティに PartitionMagic を使用している場合、起動パーティションの詳細については、PartitionMagic のユーザーガイドやヘルプを参照してください。

エミュレートディスクに関する問題のトラブルシューティング

付録 Aには、SunPCi II エミュレートドライブおよび Windows XP、Windows 2000、Windows NT の問題の解決方法が説明されています。詳しくは、191 ページの「エミュレートハードドライブの問題」を参照してください。

エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア

拡張ドライブとは、実際には SunPCi II ソフトウェアにおける、Solaris ファイルシステム内のディレクトリへの割り当てです。拡張ドライブを使用すると、Solaris オペレーティング環境と Microsoft Windows オペレーティングシステム間でアプリケーションやデータファイルを共有できます。SunPCi II プログラムでは、22 個までの拡張ドライブを使用して、アプリケーションやファイルを保存できます。

拡張ドライブには、ファイルシステムドライブとネットワークドライブの 2 種類があります。この項では両方のタイプのドライブについて説明します。両方とも、Windows エクスプローラを使用して割り当てます。

ファイルシステムドライブ

ファイルシステムドライブは、ローカルホストにマウントされたすべての Solaris ファイルシステム上のディレクトリに割り当てる拡張ドライブです。

Windows ME または Windows 98 SE でファイルシステムドライブを割り当てるには、162 ページの「Windows ME または Windows 98 SE で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法」を参照してください。

Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT でファイルシステムドライブを割り当てるには、165 ページの「Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法」を参照してください。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブは、SunPCi II PC (エミュレート PC) または実際の PC ディレクトリに割り当てを行う拡張ドライブです。Windows 98 SE または Windows ME から Solaris ファイルと CD-ROM ドライブにアクセスするには、162 ページの「Windows ME または Windows 98 SE で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法」に説明されているように、それらをネットワークドライブとして割り当てる必要があります。

Windows XP Professional、Windows NT、または Windows 2000 を使用している場合は、ファイルシステムドライブの割り当ての手順が、Windows 98 SE や Windows ME で使用される手順と異なります。165 ページの「Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法」を参照してください。

▼ Windows ME または Windows 98 SE で Solaris ファイルおよびディレクトリへアクセスする方法

この項では、Windows エクスプローラを使用して Solaris 拡張ドライブ (ネットワークドライブ) を割り当て、SunPCi II ソフトウェアや Microsoft Windows と共に使用する方法について説明します。構文は拡張ドライブでもネットワークドライブでも同じです。

Microsoft Windows と共に機能するように Solaris ドライブまたはディレクトリを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [スタート] から [プログラム] を選択し、ポップアップメニューから [エクスプローラ] を選択します。

「エクスプローラ」 ウィンドウが表示されます。

2. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。

「ネットワークドライブの割り当て」 ダイアログボックスが表示されます。

3. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。

割り当てられていないドライブのリストがメニューに表示されます。

注 – Windows 98 SE のみ、ドライブ F: の割り当てを変更しようとする、システムは「デバイスが接続されていません」というエラーを返します。この場合は、別のドライブを選択します。

4. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。
そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。
5. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。ディレクトリおよびサブディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

¥¥ディレクトリ¥サブディレクトリ

または

¥¥ディレクトリ¥.

割り当てるパスには 2 つの構成要素が必要です。1 つの構成要素しか持たない UNIX サブディレクトリにドライブを割り当てる場合には、ピリオド (.) を 2 番目の要素として使用する必要があります。次に例を示します。

¥¥home¥.

割り当てるパスにアスタリスクを使用しないでください。使用すると、Microsoft Windows が「デバイスが接続されていません」というエラーを返します。

6. SunPCi II ソフトウェアを起動するたびにこの拡張ドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。
7. [OK] をクリックします。
新しい拡張ドライブがエクスプローラのウィンドウに表示されます。

▼ Windows ME または Windows 98 で長いパスを持つディレクトリにドライブを割り当てる方法

2 つ以上のパス構成要素を持つ UNIX ディレクトリ (/ディレクトリ/サブディレクトリ/サブディレクトリ 2 など) にドライブを割り当てる場合は、UNIX シンボリックリンクを使用する必要があります。次の手順を実行します。

1. ルートファイルシステムからリンクを作成します。次の例で示されるパスは、実際のパス名で置き換えます。次のコマンドを入力します。

```
% ln -s /net/typicalmachine/files1/任意のディレクトリ/任意のディレクトリ
```

2. [スタート] から [プログラム] を選択し、ポップアップメニューから [エクスプローラ] を選択します。
「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。
3. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの接続] を選択します。
「ネットワークドライブの割り当て」ダイアログボックスが表示されます。
4. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。
割り当てられていないドライブのリストがメニューに表示されます。
5. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。
そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。
6. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。任意のディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

```
¥¥任意のディレクトリ¥.
```

7. SunPCi II ソフトウェアを起動するたびにこの拡張ドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。

8. [OK] をクリックします。

新しい拡張ドライブが、エクスプローラのウィンドウに表示されます。

ネットワークドライブが、目的ディレクトリ `/net/typicalmachine/files1/anydir` へのシンボリックリンクである、/任意のディレクトリに割り当てられます。

拡張ドライブでの Windows ME および Windows 98 SE アプリケーションのインストール

Windows 98 SE や Windows ME のアプリケーションは、いずれのエミュレートドライブ (C: および D:) にも、またはエクスプローラを使用して作成したどのドライブにもインストールすることができます。

注 – Windows 98 SE のみ、SunPCi II によって使用されるレガシーデフォルト拡張ドライブ (f:) があります。Microsoft Windows アプリケーションのインストールには、これ以外のドライブを割り当てることをお勧めします。

拡張ドライブの詳細については、161 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください、

▼ Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT で Solaris ファイルおよびディレクトリにアクセスする方法

Windows XP Professional、Windows NT、および Windows 2000 では、ファイルシステムドライブが Solaris システムにマウントされていることを指定する必要があります。この指定は、localhost を UNC パス指定でデバイスノードとして指定することにより行います。

Windows XP、Windows 2000、または Windows NT でファイルシステムドライブを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. [スタート] から [プログラム] を選択し、ポップアップメニューから [エクスプローラ] を選択します。

「エクスプローラ」ウィンドウが表示されます。

2. [ツール] メニューから [ネットワークドライブの割り当て] を選択します。

「ネットワークドライブの割り当て」ダイアログボックスが表示されます。

3. [ドライブ] フィールドの右にある矢印をクリックします。

割り当てられていないドライブのリストがメニューに表示されます。

4. 使用するドライブが表示されるまで下にスクロールし、そのドライブをクリックします。

そのドライブが [ドライブ] フィールドに表示されます。

5. 次のパスを [パス] フィールドに入力します。ディレクトリおよびサブディレクトリには実際のディレクトリ名を使用します。

¥¥localhost¥ディレクトリ¥サブディレクトリ

たとえば、Solaris ワークステーションの `/home/joeuser` にドライブを割り当てるには、次のパスを使用します。

¥¥localhost¥home¥joeuser

6. SunPCi II ソフトウェアを起動するたびにこのドライブを自動的に割り当てる場合は、[ログオン時に再接続] チェックボックスをオンにします。

7. [OK] をクリックします。

次に Windows エクスプローラを開くと、エクスプローラのウィンドウに新しいファイルシステムドライブが表示されます。

注 – Windows XP Professional、Windows NT、および Windows 2000 では、長いディレクトリパス (2 つ以上の要素が含まれるパス) を割り当てることができます。たとえば、シンボリックリンクを使用しないで ¥¥localhost¥usr¥local¥bin というパスを割り当てることができます。ただし、Windows ME および Windows 98 SE では同じディレクトリパスを割り当てるために、シンボリックリンクを使用する必要があります。

コピーおよび貼り付けコマンドの使用

SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、ワークステーション上の UNIX ウィンドウと Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、Windows ME、および Windows 98 SE との間でテキストをコピーすることができます。この項では、ワークステーションキーボードキーを使用してデータをコピーおよび貼り付けする方法について説明します。また、Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT で行う日本語ローケルのコピーと貼り付けを構成する方法について説明します。

注 - コピーおよび貼り付け操作に、フォント情報は含まれません。UNIX と Microsoft Windows 間でコピーまたは貼り付けを行うと、特殊文字やフォントが正しく表示されないことがあります。特殊文字等を使用しないことをお勧めします。

▼ UNIX ウィンドウ から Microsoft Windows への テキストをコピーする方法

UNIX ウィンドウからテキストをコピーして Microsoft Windows に貼り付けるには、次の手順を実行します。

1. マウスを使用してコピーするテキストをハイライトし、Copy キーを押します。
2. Microsoft Windows 文書にテキストを貼り付けるには、テキストを挿入する場所にカーソルを置き、Microsoft Windows の標準の貼り付けコマンドである Ctrl+V を押します。

注 - SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、Sun キーボードショートカットキー (コピー、貼り付け、切り取り)、および Microsoft Windows ショートカットキーの両方が機能します。

▼ Microsoft Windows から UNIX ウィンドウへのテキストのコピー

Microsoft Windows からテキストをコピーし UNIX ウィンドウに貼り付けるには、次の手順を実行します。

1. マウスを使用してコピーするテキストをハイライト表示し、Microsoft Windows の標準コピーコマンドである Ctrl+C を押します。
2. UNIX ウィンドウにテキストを貼り付けるには、テキストを挿入する場所にカーソルを置き、Paste キーを押します。

▼ Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法

注 - SunPCi II ソフトウェアの現行リリースでは、Windows XP Professional と Windows 2000、および Windows NT の日本語バージョンのみ、コピーおよび貼り付け機能をサポートします。

日本語のコピーおよび貼り付け機能を構成するには、次の手順を実行します。

1. SunPCi II ソフトウェアを終了していない場合は、ソフトウェアを終了します。
2. 任意のテキストエディタを使用して、\$HOME/pc/SunPC.ini ファイルを開きます。
3. 次の行をファイルの終わりに追加します。

```
[CopyAndPaste]
CodeSet=eucJP
```

4. 変更を保存してこのファイルを閉じます。

次回 SunPCi 2.3 ソフトウェアを起動すると、日本語のコピーと貼り付け機能を使用することができます。

注 - 手順3のように、CodeSet 行に eucJP と指定されていることを確認します。別のコードを使用したり、間違った文字を入力したりした場合、Microsoft Windows は次のようなメッセージを返します。Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini file: codeset. Ignoring. このメッセージが表示されてから [OK] をクリックして続行します。Microsoft Windows は引き続き動作しますが、日本語のコピーと貼り付けは使用できません。

Solaris プリンタを使用して Microsoft Windows から印刷する

この項では、ワークステーションのネットワークプリンタを使用して印刷できるように、SunPCi II 2.3 ソフトウェアで Microsoft Windows 設定を構成する方法について説明します。

注 - SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、DOS から UNIX プリンタへの印刷をサポートしていません。セットアップの過程でこのオプションを選択することができますが、実際には機能しません。

▼ Microsoft Windows から Solaris プリンタを設定する方法

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、次に [プリンタ] を選択します。
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
2. [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
3. Windows 98 SE または Windows ME の場合は 手順 a を使用し、Windows XP Professional、Windows 2000 または Windows NT の場合は 手順 b に従ってください。

- a. Windows 98 SE または Windows ME では、[次へ] をクリックし、[ネットワークプリンタ] を選択して [参照] ボタンをクリックします。
「プリンタの参照」ウィンドウが開きます。
 - b. Windows XP Professional、Windows 2000、または Windows NT では、[ネットワークプリンタ] を選択し、[次へ] をクリックし、[参照] ボタンを選択し、[次へ] をクリックします。
「プリンタの接続」ウィンドウが開きます。
4. [ネットワーク全体] をダブルクリックして、ネットワークに接続されているすべてのドメインを表示します。
 5. ドメインのリストから Sunpci Host を探します。[Sunpci Host] という名前の横のプラス記号 (+) をクリックし、ドメイン内のシステムのリストを表示します。
 6. 使用するプリンタに対応するシステム名 (印刷サーバー) を探します。
 7. システム名をダブルクリックし、印刷サーバーに接続しているプリンタを表示します。
正しいプリンタドライバを選択できるように、プリンタのモデルを確認しておいてください。
 8. システム名をクリックし、次に [OK] をクリックします。「プリンタウィザード」ダイアログボックスの指示に従います。
ワークステーションのネットワークプリンタを Microsoft Windows プリンタとして使用する準備が整います。Microsoft Windows アプリケーションから印刷する方法の詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

スクリーンセーバーの使用

アイコン化 (最小化) する SunPCi II ウィンドウで Microsoft Windows スクリーンセーバープログラムを使用しないでください。スクリーンセーバーが設定されていると、ウィンドウの非表示時にスクリーンセーバープログラムは不必要にシステムリソースを消費します。

次のステップ

SunPCi II 2.3 ソフトウェアメニューおよびソフトウェアコマンドの使用に関する情報は以上です。

- SunPCi II 2.3 ソフトウェアのインストール中や実行中に問題が発生した場合は、付録 A を参照してください。
- 海外サポートに関しては、付録 B を参照してください。
- 最高の性能を実現できるように SunPCi II 2.3 ソフトウェアをインストールする方法については、付録 C を参照してください。

付録 A

トラブルシューティング

この付録の各項では、SunPCi II 2.3 ソフトウェアリリースで発生が確認されている問題について説明します。この付録には、SunPCi II ソフトウェアのこのリリースで発生する可能性がある問題の解決方法が収録されています。

この付録では、次のような項目が扱われます。

- “問題のサポート” –173 ページ
- “SunPCi II既知の問題” –175 ページ
- “SunPCi IIハードウェアの問題” –179 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアの問題” –189 ページ
- “ネットワークの問題” –193 ページ
- “Windows XP Professional の問題” –194 ページ
- “Windows 2000 の問題” –198 ページ
- “Windows NT の問題” –202 ページ
- “Windows 98 SE の問題” –207 ページ

問題のサポート

SunPCi II 2.3 製品に関する質問や問題 (Windows NT の「青い画面」など) については、サポート担当者までご連絡ください。ご連絡いただく際には、電子メールに次の情報を含めてください。

- 発生した問題 (表示されたエラーメッセージを含む)
- 使用していたアプリケーション (アプリケーションのバージョン番号を含む)
- 問題の発生時に、アプリケーションで実行していた操作
- 問題が発生するまでの手順 (非常に重要)
- SunPCi セッションのログファイル

SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは、システムにインストールされているカードごとに個別のログファイルが作成されます。このログ機能はデフォルトで有効になっており、`Cardn.log` (n は SunPCi II カードの番号) というログファイルが作成されます。ログファイルは、`¥var¥preserve¥sunpcilogs` ディレクトリに保存されます。重大なエラーが発生すると、メッセージがログファイルに記録され、コンソールウィンドウと起動ウィンドウに表示されます。このような場合は、電子メールメッセージまたはバグレポートに、ログファイル全体を添付してください。

ログ構成ファイルへのパスは、`¥etc¥opt¥SUNWspci2¥log.conf` です。このファイルには、デフォルトで次の内容が含まれています。

```
; SunPCi のログ機能は、このファイルによってコントロールされます。このファイルを
; 使用して、ログ機能を有効（デフォルト）または無効にできます。次の LogConfig
; セクションで、Status = Disabled 行のコメントを外すと、SunPCi ログ機能を
; すべて無効にすることができます。
;
; ログファイルの保存場所も変更できます。次の Directory エントリのコメントを外し、
; 保存先ディレクトリを全ユーザーが読み込み、および書き込みできる任意のディレクトリに
; 変更します。ログファイルは、指定されたディレクトリに作成されます。
; デフォルトのディレクトリは、¥var¥preserve¥sunpcilogs¥ です。

[LogConfig]
; Status = Disabled
; Directory = ¥var¥preserve¥sunpcilogs¥
```

ログ機能を無効にする場合や、ログファイルの保存場所を変更する場合は、ファイルの指示に従ってください。

SunPCi II 製品のホームページ

このリリースに関する更新情報や問題の解決方法 (ある場合) は、次の SunPCi II 製品ホームページに随時掲載されます。

<http://www.sun.com/desktop/products/sunpci>

注 - SunPCi II ソフトウェアホームページには、ソフトウェアの更新、パッチ、および SunPCi II 製品に関するその他の情報が含まれています。このホームページに頻繁にアクセスして、最新情報を取得してください。

SunPCi II 既知の問題

この項では、次の項目について説明します。

- 175 ページの「CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール」
- 175 ページの「Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際のトラブルシューティング」
- 177 ページの「ファイル番号の表示」
- 178 ページの「ネットワークコンピュータの問題」
- 178 ページの「ネットワークドライブを参照する際に SunPCi II ソフトウェアがハングしたように見える」

制限事項や既知のアプリケーションの問題、およびその解決方法を次に挙げます。

CD-ROM からの Microsoft Windows のインストール

Microsoft Windows を SunPCi II 製品にインストールする際に、[CD-ROM から実行] オプションを使用することはできません。他のオプションを使用してください。

Solaris ファイルシステムにアプリケーションをインストールする際のトラブルシューティング

Windows XP Professional、Windows 2000、および Windows NT では、Sun ファイルシステムドライバ (SunFSD) によって DOS 式 (SFN) 変換規則がサポートされていません。Microsoft Windows のアプリケーションをインストールしようとする、Short File Names (SFN) と呼ばれる DOS ファイル名変換規則が原因となり、インストールが失敗する場合があります。

注 - SunPCi II プラットフォーム上に新しいアプリケーションをインストールする際は、Microsoft Windows CD を手元に用意してください。インストール中に、Microsoft Windows CD 内のファイルが必要になる場合があります。

SFN 規則では、長いファイル名、および 9 文字以上あるファイル名を含むディレクトリ名が、6 文字に変換され、末尾にチルド (~) と番号が追加されます。たとえば、THIS_IS_A_LONG_FILE_NAME.DAT というファイル名は、THIS_I~1.DAT に変換されます。

SunFSD では SFN 規則がサポートされていないので、この変換規則を使用する古い Microsoft Windows アプリケーションは正常にインストールできない場合があります。ほとんどの新しいアプリケーションは、ファイルシステムの 8.3 形式変換サポートに依存していないので、問題は発生しません。

SunFSD ソースディレクトリからのアプリケーションのインストール

SunFSD に割り当てられているドライブへのアプリケーションインストールが失敗する場合は、インストールソフトウェアが格納されているディレクトリパス名を調べます。割り当てられているディレクトリパスの名前が、すべて 8 文字以下であることを確認してください。

たとえば、Q: というドライブ文字が ¥¥localhost¥WatchGuard¥AntiVirusSoftware に割り当てられているとします。

AntiVirusSoftware ディレクトリには、AntiVirusFOREMM および AV4KADY というサブディレクトリがあります。

AntiVirusFOREMM に格納されたソフトウェアのインストールが失敗する場合は、インストールプログラムで使用されたこのサブディレクトリ名が 9 文字以上あることが原因であると考えられます。この場合は、サブディレクトリ名を 8 文字以下 (たとえば、AV4EMM) に変更し、もう一度インストールを試行します。

AV4KADY ディレクトリの名前は 8 文字以下なので、このサブディレクトリからのアプリケーションインストールは正常に実行されます。

注 - 割り当てられたパス名が WatchGuard¥AntiVirusSoftware のように 9 文字以上の名前を含んでいる場合でも、パス名のこの部分はインストールプログラムに影響しません。制約が課されるのは、割り当てられたドライブ文字以下のファイル名のみです。

SunFSD ターゲットディレクトリへのアプリケーションのインストール

アプリケーションのインストールプログラムで SunFSD に割り当てられているドライブへのインストールが失敗し、「パスが見つかりません」または「ファイルが見つかりません」という警告が表示される場合は、そのインストールプログラムが保存先ファイルシステムの 8.3形式サポートに依存している可能性があります。この問題は特に、インストール先パスのファイル名にスペースが含まれている場合に発生します。

たとえば、Corel WordPerfect Office 2000 では、デフォルトのインストール先に WordPerfect Office 2000 というディレクトリを使用します。このディレクトリが SunFSD ドライブに作成されている場合、インストールプログラムの一部のプロセスは 8.3 ファイル名を使用しようとします。その結果、ファイル Q:WordPerfect が見つからないというダイアログボックスが表示されます。SunFSD では 8.3 形式がサポートされていないため、ファイル名にスペースが埋め込まれていると、インストールプログラムで混乱が生じます。

このような場合は、保存先ディレクトリ名を変更してスペースが含まれないようにすると、インストールが正常に続行されます。たとえば、WordPerfect Office 2000 というディレクトリを、WordPerfect_Office_2000 に変更します。

注 - この例ではファイル名が 9 文字以上になりますが、Corel WordPerfect Office 2000 は新しいアプリケーションなので、長いファイル名を使用することができます。このような問題が発生するのは、インストール手順で古い技術が使用されているためです。

ファイル番号の表示

古い Microsoft アプリケーション(「DOS コマンドプロンプト」ウィンドウなど)では、9 文字以上のファイル名が 8.3 形式に短縮され、末尾に番号 (~1 など) が追加されることがあります。この番号を**ファイル番号**と呼びます。Windows 98 SE または Windows ME ウィンドウ、DOS ウィンドウ、または Windows NT や Windows 2000 の「コマンドプロンプト」ウィンドウで拡張ドライブ上の長いファイル名を読み取る際には、1 というファイル番号だけが表示されます。~2、~3 などは表示されません。

注 - 「DOS セッション」という用語は、Windows 98 SE または Windows ME からアクセスする DOS シェルウィンドウを指しています (Windows NT および Windows 2000 では「コマンドプロンプト」ウィンドウと呼ばれます)。OpenDOS 7.01 で実行される OpenDOS ウィンドウを指すものではありません。

ネットワークコンピュータの問題

注 - この項では、仮想 Ethernet ネットワークについて説明します。物理 Ethernet 接続には該当しません。

Microsoft Windows のデスクトップの [ネットワークコンピュータ] を開くと、「ネットワークコンピュータ」ウィンドウには [マイワークステーション] が表示されません。ワークステーションと SunPCi II カードは同じネットワークインタフェースを共有するため、ネットワーク上でお互いを「検出」することはできませんが、ネットワーク上で相互に通信することはできます。

仮想ネットワークを使用して SunPCi II ホストでワークステーションをネットワークする方法については、45 ページの「ネットワーク接続のセットアップ方法例」を参照してください。

ネットワークドライブを参照する際に SunPCi II ソフトウェアがハングしたように見える

ネットワークドライブを参照する際に、非常に長い遅延が発生することがあります。ドライブの内容を検索するときには、SunPCi II ソフトウェアがハングアップしたように見えることもあります。これは、Solaris ソフトウェアに、ワークステーションのすべての自動マウントポイントを自動的に表示できる「参照」機能が含まれているためです。

この参照機能が有効になっていると、ワークステーションのファイルを参照する際に、Microsoft Windows アプリケーションの動作速度が極端に遅くなることがあります。また Windows エクスプローラで非常に大きなディレクトリを表示したり、これらの大きなディレクトリ内のサブディレクトリに保存しようとしたりすると、問題が発生することもあります。

この問題を解決するには、Solaris の auto_master ファイルを編集して、この機能を無効にします。このファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. テキストエディタを使用して `/etc/auto_master` ファイルを開きます。

ファイルには次のような文字列が含まれます。

```
# Master map for automounter
#
+auto_master
/net          -hosts          -nosuid,nobrowse
/home         auto_home       -nobrowse
/xfn         -xfn
```

2. ファイル内の `+auto_master` 行を、リストの最後に移動します。

`-nosuid, nobrowse` および `-nobrowse` キーワードがファイルに含まれていない場合は、`+auto_master` 行の前に追加してください。ファイルは次のようになります。

```
# Master map for automounter
#
/net          -hosts          -nosuid,nobrowse
/home         auto_home       -nobrowse
/xfn         -xfn
+auto_master
```

3. ファイルを保存し、テキストエディタを終了します。

4. システムを再起動します。

「参照」機能がオフになります。

SunPCi IIハードウェアの問題

この項では、次の項目について説明します。

- “ハードウェアエラーメッセージ” –180 ページ
- “マウスの問題” –181 ページ
- “フロッピーディスクドライブの問題” –182 ページ
- “キーボードの問題” –183 ページ
- “CD-ROM ドライブの問題” –183 ページ
- “ビデオディスプレイの問題” –185 ページ
- “ネットワークハードウェアの問題” –187 ページ

ハードウェアエラーメッセージ

次の表には、ハードウェアの問題が発生したときに表示されるエラーメッセージ、考えられる原因、解決方法がリストされています。

表 A-1 SunPCi II エラーメッセージ

エラーメッセージ	考えられる原因	解決方法
Driver not found. Can't attach to device. Devlinks not created.	システムが PCI デバイスを識別できません。この問題には次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none">• 1 つ以上の SunPCi II カードが正常に PCI スロットに取り付けられていない。• SunPCi II ソフトウェアをインストールした際に、<code>¥etc¥devlink.tab</code> ファイルが正常に更新されていない。	『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』で説明されている手順に従って、SunPCi II カードを取り外し、もう一度取り付けてください。
The SunPCi II drivers could not be loaded. Is another session running?	このメッセージが表示される場合は、次の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none">• 既に別の SunPCi II のセッションを実行している。• SunPCi II カードを取り外し、システムの別の PCI スロットにもう一度取り付けた。	それぞれの原因に対応する作業を実行してください。 <ul style="list-style-type: none">• SunPCi II ソフトウェアを再実行する前に、他のセッションを中止します。
Driver couldn't be loaded. SunPCi II cannot open the device.	SunPCi II カードが、PCI スロットに正しく取り付けられていない可能性があります。 <ul style="list-style-type: none">• カードを取り付けた後、システムを再起動せずに SunPCi II ソフトウェアを起動した。	<ul style="list-style-type: none">• 可能であれば、カードを取り外し、最初に取り付けられていた PCI スロットに取り付けます。• スーパーユーザーとしてログインし、# プロンプトに <code>halt</code> と入力してシステムを停止します。ok プロンプトで <code>boot -r</code> を使用して再起動します。 PCI スロットにカードが正しく取り付けられていることを確認してください。

表 A-1 SunPCi II エラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	考えられる原因	解決方法
System could not transfer file data from buffers.	ホストファイルシステムのディスク容量が不足しています。	ホストファイルシステムの空き容量を増やしてください。
SunPCi.VXD: Can't dvma_alloc XXX bytes. The system is low on memory.	外部 VGA ドライバに割り当てたビデオ RAM の値が高すぎます。	ビデオ RAM の値を低くしてください。221 ページの「SunPCi II プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行」を参照してください。

マウスの問題

表 A-2 には、一般的なマウスの問題と解決方法がリストされています。

表 A-2 マウスの問題

問題	考えられる原因	解決方法
SunPCi II のデスクトップ (Windows 98 SE または Windows ME) に 2 つのマウスカーソルが表示される。	SunPCi II ソフトウェアドライバを Microsoft Windows にインストールしていないか、マウスが接続されていない可能性があります。	ドライバをインストールする前にマウスを使用するには、[オプション] メニューから [マウスの接続] を選択するか、Meta-M を押します。ドライバのインストールが終了すると、マウスは正常に機能します。
Windows 2000 のポインタの移動が遅い。	ディスプレイが 16 ビットまたは 24 ビットに設定されている場合、ポインタの移動が遅くなります。	198 ページの「2 つのマウスポインタ」を参照してください。
SunPCi II のインストール後、マウスポインタがスムーズに移動しなくなった。	アップグレードやカスタムインストールの実行時、または Windows ME のインストール時に、SunPCi II ソフトウェアドライバを Microsoft Windows にインストールしていない可能性があります。	ドライバのインストール方法については、オペレーティングシステムの使用に関する章を参照してください。ドライバのインストールが完了すると、マウスポインタの動きはスムーズになります。

フロッピーディスクドライブの問題

SunPCi II ソフトウェアと Solaris ボリュームマネージャープログラム (vold) との間で、フロッピーディスクドライブのコントロールに関する競合が発生する場合があります。ボリュームマネージャーは、フロッピーディスクドライブなど、システムに接続された周辺装置の自動マウントサービスを行います。

この競合は、システムでボリュームマネージャーのサポートが有効になっている場合に、SunPCi II ウィンドウからフロッピーディスクドライブにアクセスしようとすると発生します。この場合、エラーメッセージが表示され、フロッピーディスクにはアクセスできません。

デフォルトでは、SunPCi II ソフトウェアがインストールされると、フロッピーディスクドライブに対するボリュームマネージャーのサポートは無効になります。したがって、この問題は通常発生しません。ただし、システム上でボリュームマネージャーを有効に戻すことが可能なため、その後問題が発生する場合があります。

システムでフロッピーディスクドライブに対するボリュームマネージャーのサポートが有効になり、SunPCi II ソフトウェアからフロッピーディスクドライブにアクセスできなくなった場合は、ボリュームマネージャーを無効にして SunPCi II ウィンドウを再起動します。問題が解消されない場合は、ボリュームマネージャーを無効にしてシステムを再起動してください。

Solaris ボリュームマネージャーを無効にするには、次の手順を実行します。

1. SunPCi II ソフトウェアを実行していないことを確認します。
2. スーパーユーザーとしてログインします。
3. 次のコマンドを入力してボリュームマネージャーを無効にします。

```
# /opt/SUNWspci2/bin/vold_floppy_disable
```

4. スーパーユーザーセッションを終了します。
5. すべての SunPCi II ソフトウェアウィンドウを再起動します。

キーボードの問題

DOS で Backspace キーが機能しなくなる (Windows 98 のみ) 場合があります。Backspace キーには Delete キーを割り当てないでください。この割り当てを行うと、DOS アプリケーションで作業する際に Backspace キーを使用できなくなります。Backspace キーを押すと、カーソルの左にある文字ではなく、現在カーソルの右にある文字が削除されます。xinitrc ファイルを変更してこれらの 2 つのキーを割り当てた場合は、このファイルに次の行が含まれています。

```
xmodmap -e keycode 50 = delete
```

テキストエディタを使用して xinitrc を編集します。元のキーの割り当てに戻すには、この行を削除してください。

CD-ROM ドライブの問題

表 A-3 には、CD-ROM ドライブで発生する可能性のある問題、考えられる原因、および解決方法がリストされています。

表 A-3 CD-ROM ドライブの問題

問題	考えられる原因	解決方法
1 つの CD-ROM ドライブで CD の挿入や取り出しを行う際、もう 1 つの CD-ROM ドライブにアクセスできなくなる。	使用しているシステムには、2 つの SCSI CD-ROM ドライブがあります。	SunPCi II ソフトウェアで使用する CD-ROM ドライブを選択する必要があります。
Windows NT エクスプローラで、CD-ROM ドライブをダブルクリックすると、次のエラーメッセージが表示される。Drive not ready.Abort/Retry/Fail?	使用している CD-ROM ドライブが Sun のドライブではない可能性があります。	SunPCi II ソフトウェアは、Sun の CD-ROM ドライブのみをサポートします。システムの CD-ROM ドライブを Sun のドライブと交換してください。

表 A-3 CD-ROM ドライブの問題

問題	考えられる原因	解決方法
Solaris workman ユーティリティを使用してオーディオ CD を再生すると、Windows NT がハングアップする。オーディオ CD の再生中に Windows NT を起動すると、オーディオ CD が一時停止する。	CD-ROM ドライブは、Solaris と Microsoft Windows で共有されています。Microsoft Windows は CD を検出すると、すぐにその CD を一時停止します。	Solaris または Microsoft Windows のいずれかの CD 検出機能を無効にします。CD を両方のオペレーティングシステムで共有することはできません。いずれかのオペレーティングシステムで CD 検出機能を無効にすると、そのシステムでは CD を手動でマウントする必要があります。
CD-ROM ドライブに DVD ディスクを挿入しても動作しない。	SunPCi II ソフトウェアでは、DVD データディスクのみがサポートされています。	データフォーマットの DVD ディスクのみを使用してください。

CD-ROM ドライブのセットアップ

ワークステーションに複数の SCSI CD-ROM ドライブがインストールされている場合、SunPCi II ソフトウェアで使用するドライブを指定する必要があります。CD-ROM ドライブをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. まだ SunPCi II ソフトウェアを実行していない場合は起動します。

アプリケーションを起動するために使用するコンソールウィンドウに、次のメッセージが表示されます。

```
sunpci2:Your sunpci.ini file does not specify a CD device
        assuming %vol%dev%aliases%cdrom0
```

2. [オプション] メニューから、[CD-ROM の接続] を選択します。

「CD-ROM デバイスファイルの指定」ダイアログボックスが表示されます。

3. 使用する CD-ROM デバイスへのパスを入力します (%vol%dev%aliases%cdrom0 など)。

パスの入力が終了したら、[OK] をクリックします。

4. すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムを終了し、SunPCi II ウィンドウで [PC のリセット] オプションを使用します。

SunPCi II ソフトウェアを再起動すると、SunPCi II は指定した CD-ROM ドライブデバイスを使用します。

ビデオディスプレイの問題

Sun Blade 100 の 24 ビットディスプレイ

M64 フレームバッファを搭載する SunBlade 100 ワークステーションの場合、SunPCi II ウィンドウで 24 ビットカラーを表示するには、次の手順を実行する必要があります。

1. 端末ウィンドウを開き、root としてログインします。
2. テキストエディタでファイル `¥usr¥dt¥config¥Xservers` を開き、ファイルの最後の行を次のように編集します。

```
:0 Local local_uid@console root ¥usr¥openwin¥bin¥Xsun :0  
-nobanner -dev ¥dev¥fb defdepth 24
```

3. ファイルを保存して閉じます。
4. 次のコマンドを入力して、現在の解像度の設定を表示します。

```
# m64config -prconf
```

5. 次のコマンドを入力して、ディスプレイを 24 ビットカラーに設定します。

```
# m64config -depth 24 -res 現在の解像度の設定
```

コマンド `m64config -prconf` によって返された解像度の設定を使用します。たとえば、次のように入力します。`m64config -depth 24 -res 1152x900x76`.

6. 次のコマンドを入力して、ルートウィンドウの色数が 24 プレーンに変更されていることを確認します。

```
# xdpyinfo
```

7. システムを再起動します。

外部ビデオ解像度

表 A-4 には、SunPCi II ソフトウェアがサポートする外部 VGA ディスプレイの解像度が記載されています。最高の性能を得るには、使用可能なビデオの RAM を 2 MB (デフォルト) から 64 MB に増やし、VGA のメモリクロックを 70 MHz に再設定することをお勧めします。これらの変更を行うには、221 ページの「SunPCi II プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行」を参照してください。

注 - ビデオメモリを増やすと使用可能なシステムメモリが減ることに注意してください。詳細については、220 ページの「システムメモリの増設」を参照してください。

モニタの解像度またはディスプレイの色数を変更する前に、実行しているすべてのアプリケーションを終了し、作業を保存してください。適用する前に新しい設定をテストする必要はありません。次の表には、使用できる解像度がリストされています。

表 A-4 SunPCi II ソフトウェアの外部ビデオ解像度 (SiS 630 ドライバ)

解像度 (ピクセル)	色の深度 (色の数)	最大リフレッシュ頻度 (Hz) (非インタレース)
640 x 480	16、256、32K、64K、16M	120
800 x 600	16、256、32K、64K、16M	120
1024 x 768	256、32K、64K、16M	120
1280 x 1024	256、32K、64K、16M	120
1600 x 1200	256、32K、64K、16M	100
1920 x 1200	256、32K、64K、16M	80

外部モニタと 1600 X 1200 の解像度

Sis モニタを 1600 x 1200 ピクセルの解像度で表示するには、システムメモリから 8 MB の共有メモリを割り当てる必要があります。詳細については、220 ページの「システムメモリの増設」を参照してください。

外部モニタと Windows NT

外部モニタのビデオ解像度として、実際の最大解像度を超える値を選択すると、Windows NT がフリーズすることがあります。この問題が発生した場合は、SunPCi の [ファイル] メニューから [PC のリセット] コマンドを選択して Windows NT を再起動します。オプションの選択画面で、Windows NT の VGA オプションを選択します。Windows NT が起動し、640 x 480 の解像度でデスクトップが表示されます。この解像度は、コントロールパネルを使用して変更することができます。

ネットワークハードウェアの問題

SunPCi II カードで物理 Ethernet 接続をセットアップおよび実行する際に問題が発生する場合は、カードの Ethernet (MAC - マシン) アドレスを PROM にプログラム (フラッシュ更新) します。

SunPCi II カードの MAC アドレスは、カードの黄色のラベルに記載されています。このアドレスは、システムにカードを取り付ける前に『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』に記録します。詳細については、『SunPCi II 2.3 インストールマニュアル』を参照してください。

次の表には、MAC アドレスをフラッシュ更新する方法と、問題が発生した場合の解決方法がリストされています。

表内の手順には、sunpciflash ユーティリティコマンドを使用するものがあります。このコマンドの詳細については man(0) ページを参照してください。

表 A-5 MAC アドレス問題における sunpciflash の使用

質問	回答
複数のカードやその MAC アドレスを一覧するには？	<p>システムに取り付けられているすべてのカードを表示するには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>¥opt¥SUNWspci2¥bin¥sunpci -l</pre> <p>すると、card1 などのカード名、¥dev ディレクトリにある、カードのデバイスファイル名、カードの種類、カードの説明、カードの ID または Ethernet (MAC) アドレスが表示されます。出力例については、33 ページの「カード名の特定方法」を参照してください。</p>
特定のカードの MAC アドレスを調べるには？	<p>次のコマンドを 1 行で入力します。</p> <pre>sunpciflash -f ¥opt¥SUNWspci2¥bios¥bios.bin -c 1 -m</pre>
SunPCi II カードに MAC アドレスをプログラムするには？	<p>SunPCi II カードのラベルを確認します。このラベルは、カードのコンポーネント側、コネクタの近くにあります。MAC アドレスは、「E00B00」のような形式で記載されています。</p> <p>MAC アドレスをプログラムして BIOS を更新するには、次のコマンド (両方の部分) を 1 行で入力します。</p> <pre>¥opt¥SUNWspci2¥bin¥sunpciflash -f ¥opt¥SUNWspci2¥bios¥bios.bin -e XX:YY:ZZ:00:01:02</pre> <p>注意：XX:YY:ZZ:00:01:02 の部分に実際の MAC アドレスを入力します。</p>
複数のカードが取り付けられている場合、特定のカードに MAC アドレスをプログラムするには？	<p>上記の sunpciflash -l オプションを使用して、カードを一覧し、確認します。次に、sunpciflash コマンドの -c (カード番号) オプションおよび -e (Ethernet) オプションを使用して MAC アドレスをプログラムします。たとえば、カード番号 1 の MAC アドレスを XX:YY:ZZ:00:01:02 に設定するには、次のコマンド (両方の部分) を 1 行で入力します。</p> <pre>/opt/SUNWspci2/bin/sunpciflash /opt/SUNWspci2/bios/bios.bin -c 1 -e XX:YY:ZZ:00:01:02</pre>
コマンドの入力を間違った場合は？	<p>特に心配する必要はありません。コマンドをもう一度入力してください。</p>

表 A-5 MAC アドレス問題における sunpciflash の使用 (続き)

質問	回答
BIOS を更新するたびに MAC アドレスを再プログラムする必要がありますか？	いいえ。
BIOS を更新する前に、MAC アドレスを書き留めるのを忘れました。この情報は後でまた必要になりますか？	いいえ。一度 BIOS に MAC アドレスをフラッシュすると、再度指定する必要はありません。新しい BIOS のバージョンがフラッシュし、MAC アドレスは保存されます。
現在 BIOS にフラッシュされている MAC アドレスを出力するには？	次のコマンド (両方の部分) を 1 行で入力します。 <pre>/opt/SUNWspci2/bin/sunpciflash -f /opt/SUNWspci2/bios/bios.bin -m</pre> <p>出力は次のように表示されます。 Current Ethernet Address:00:A0:C0:B0:00:C0</p>

SunPCi II ソフトウェアの問題

この項では、次の項目について説明します。

- “ソフトウェア起動の問題” –190 ページ
- “エミュレートハードドライブの問題” –191 ページ
- “拡張ドライブの問題” –192 ページ

ソフトウェア起動の問題

SunPCi II 2.3 ソフトウェアを起動するときに、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

表 A-6 ソフトウェア起動エラーメッセージ

メッセージ	説明
Command not found	SunPCi II プログラムディレクトリ (デフォルトでは <code>¥opt¥SUNWspci2¥bin</code>) が環境 <code>\$PATH</code> にあることを確認します。 <code>\$PATH</code> 変数のセットアップについては、Solaris のマニュアルを参照してください。
Correct Solaris Installation Required	適切な Solaris インストールがシステムに存在していない場合は、SunPCi II ソフトウェアを起動しようとする問題が発生します。SunPCi II ソフトウェアでは、Solaris のエンドユーザーシステム、開発者システム、全体配布インストールが最低限必要となります。コアシステムしかインストールされていない場合、SunPCi II ソフトウェアは機能しません。ワークステーションにインストールされているシステムについては、システム管理者に問い合わせてください。

エミュレートハードドライブの問題

次の表は、大きなエミュレートディスクに関する一般的な質問と、その回答を示したものです。

表 A-7 エミュレートハードドライブの問題

問題	理由	解決方法
8 GB のエミュレートディスクを作成しましたが、2 GB しか表示されませんか？	DOS が認識できるファイルサイズの上限は 2 GB です。	156 ページの「FAT16 ファイルシステムの制限」を参照してください。エミュレートディスクをパーティションに分割する必要があります。エミュレートディスクファイルの残りの 6 GB を、さらにパーティションに分割することもできます。
8 GB のエミュレートディスクを作成し、Microsoft Windows をインストールしました。しかし、OS パーティションが起動しません。これはなぜですか？	エミュレートディスクファイルを新規作成すると、SunPCi は自動的にそのディスクの最初の 2 GB を使用して 2 GB のパーティションを作成します。Microsoft Windows をもう一方のパーティション (残りの 6 GB の部分) にインストールすると、DOS はその Windows を認識せず、SunPCi II ソフトウェアはそのパーティションからは起動しません。	Microsoft Windows 用に 2 GB のパーティションを新しく作成する必要があります。156 ページの「FAT16 ファイルシステムの制限」を参照してください。
パーティションを作成し、そこに Windows NT をインストールしました。どうして起動しないのでしょうか？	作成したパーティションが、エミュレートディスクの先頭位置から 4 GB を超える場所にあると、そのパーティションは起動しません。	そのエミュレートドライブの最初のパーティションに Windows NT をインストールしてください。156 ページの「FAT16 ファイルシステムの制限」を参照してください。
1 つのエミュレートドライブ上に作成できるパーティション数に制限はありますか？	いいえ。パーティション数に制限はありません。ただし、その他の制限事項があります。	1 つのエミュレートドライブ上に複数のパーティションを作成するには、PartitionMagic を使用する必要があります。Microsoft Windows および DOS が認識できるドライブ文字は 26 個までであり、一部のドライブ文字は既にデフォルトで割り当てられている (A:, C:, D:, E: など。Windows 98 SE では F: など) ことに注意してください。詳細については、『PartitionMagic User's Guide』を参照してください。

C: ドライブの接続

いつでも C: ドライブに接続できるように、ドライブの許可を変更することができます。許可を変更すると、ユーザーが SunPCi II プログラムを使用していない場合でも、他のユーザーは C: ドライブに接続できなくなります。C: ドライブの許可を変更するには、コマンドウィンドウに次の行を入力します。

```
% chmod 600 ~/pc/C.diskimage
```

この設定により、他のユーザーはこのドライブにアクセスできなくなります。

ディスクエラーメッセージ

起動時に、SunPCi II ウィンドウに「Non-system disk or disk error」というメッセージが表示される場合は、C: ドライブが破損しているか、A: ドライブに起動可能ディスクではないディスクが挿入されている可能性があります。A: ドライブにディスクが挿入されていない場合は、\$HOME/pc (~/pc/sunpc.ini) でデフォルトの C: ドライブファイルを削除し、SunPCi II ソフトウェアを再起動します。

定期的に C: ドライブをバックアップすることをお勧めします。詳細については、159 ページの「エミュレート C: ドライブをバックアップする方法」を参照してください。

拡張ドライブの問題

Windows エクスプローラでネットワークドライブをマウントできない場合は、SunPCi II プラットフォームにネットワークがインストールされていない可能性があります。

まずネットワークへのログインを試行してください。UNIX からネットワークにアクセスできる場合は、SunPCi II ソフトウェアの [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択し、[ネットワーク] をダブルクリックします。ネットワークに SunPCi II インストールを設定します。詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。

ログイン後もネットワークに接続できない場合は、Microsoft Windows を再インストールする必要があります。

ネットワークにログインするには、次の手順に従ってください。

- SunPCi II ソフトウェアを起動し、表示されるダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力して Microsoft ネットワークにログインします。

既に SunPCi II ソフトウェアを実行している場合、ネットワークにログインするには次の手順に従ってください。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] を選択します。
2. シャットダウンするか再起動するかを尋ねるダイアログボックスが表示されたら、[再起動する] をクリックします。
3. 「Microsoft ネットワーク」ダイアログボックスが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。

これで、ネットワークドライブのマウントが可能になります。Windows エクスプローラを使用してネットワークドライブを割り当てる方法については、161 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください。

ネットワークの問題

この項では、次の項目について説明します。

- 193 ページの「構成後のネットワークの起動が遅い」
- 194 ページの「他のシステムに接続できない」

構成後のネットワークの起動が遅い

ネットワークを構成した後 Microsoft Windows を初めて再起動する際には、ネットワークが起動するまでに数分かかることがあります。特に SunPCi II カードとともに DHCP を使用している場合は時間がかかりますが、これは初回の起動時における正常な動作です。

他のシステムに接続できない

注 – この項の説明は、仮想ネットワーク構成にのみ該当します。物理 Ethernet 接続を使用している場合は、この項を省略してください。

SunPCi II ソフトウェアを使用してネットワーク上の他のシステムに接続できない場合は、問題を診断する前に、SunPCi II ソフトウェアとシステムが次のように構成されていることを確認してください。

- システムと SunPCi II ソフトウェアホストの IP アドレスが異なっていること。
- SunPCi II ソフトウェアホストとワークステーションが同じ物理的サブネットワーク上に存在すること。ただし、異なる仮想サブネットワーク上に存在してもかまいません。
- ワークステーションと SunPCi II ソフトウェアが同じネットワークマスクを持っていること。ネットワークマスクの値は使用しているネットワークの種類によって異なります。詳細については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

注 – ワークステーションと同じサブネット上にある他のシステム、および異なるサブネット上にあるシステムの名前と IP アドレスを確認する必要があります。この情報がない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

Windows XP Professional の問題

この項では、SunPCi II ソフトウェアの本リリースにおける Windows XP Professional の既知の問題について説明します。

- “2 つのマウスポインタ” –195 ページ
- “ファイルシステムドライブの問題” –195 ページ
- “日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題” –196 ページ
- “Windows 2000 の問題のトラブルシューティング” –201 ページ
- “複数の Microsoft Windows バージョンの実行” –198 ページ

2 つのマウスポインタ

Windows XP Professional の実行中にマウスポインタが 2 つ表示される場合は、次の手順に従ってポインタの影の設定を無効にします。

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. コントロールパネルの [マウス] をダブルクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
3. [ポインタ] タブをクリックし、[ポインタの影を有効にする] チェックボックスをオフにします。
4. [適用]、[OK] の順でクリックし、ウィンドウを閉じます。
ポインタの影が無効になります。Windows XP Professional デスクトップ上には、ポインタが 1 つだけ表示されるようになります。

ファイルシステムドライブの問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- ファイルの属性 (「読み取り専用」や「書き込み専用」など) が正常に機能しないことがある。
- ファイルリンクが、ファイルシステムドライブで機能しない。ファイルシステムドライブにあるファイルにリンクする必要がある場合は、そのファイルを C: または D: ドライブに移動してからリンクを作成します。
- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- ファイルシステムドライブ、または ¥¥localhost¥¥パスを使用して割り当てられたドライブに保存されているオブジェクト (クリップアートファイルなど) は、Microsoft Office XP アプリケーションに正常に挿入できません。この場合は、オブジェクトをまず C: ドライブや D: ドライブに移動またはコピーしてから文書に挿入する必要があります。

- このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (¥¥localhost¥export¥home¥myfiles.doc など) を使用して Office 97、Office 2000、または Office XP のファイルを検索することができません。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

ファイルシステムドライブに関する詳細については、162 ページの「ファイルシステムドライブ」を参照してください。

日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題

日本語のコピーと貼り付け機能をサポートするように \$HOME¥pc¥SunPCi.ini ファイルを編集すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini  
file:codeset. Ignoring.
```

このメッセージは、編集したファイルにエラーがある可能性を示しています。詳細については、168 ページの「Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法」を参照してください。

Windows XP Professional の問題のトラブルシューティング

次の表に、Windows XP Professional で発生する可能性のある問題、その原因と解決方法を示します。

表 A-8 Windows XP Professional の問題

問題	原因	解決方法
Windows XP Professional にアップグレードすると、「青い画面」に「INACCESSIBLE_BOOT_DEVICE」というエラーメッセージが表示される。	53 ページの「Windows XP Professional へのアップグレード」で推奨されている手順ではなく、Windows XP Professional CD の Microsoft 標準アップグレード手順が使用されました。	C: ドライブのバックアップコピーを使用して、ドライブを修復します。53 ページの「Windows XP Professional へのアップグレード」を参照してください。 C: ドライブのバックアップを作成していない場合は、新しく C: ドライブを作成し、このマニュアルの手順に従って Windows XP Professional をインストールします。この場合、アプリケーションはすべて再インストールする必要があります。
Microsoft Office XP にファイルを挿入できない。	オブジェクトファイル (クリップアートや Excel スプレッドシートなど) が、ファイルシステムドライブまたは ¥¥localhost¥パスを使用して割り当てられたドライブ上に保存されています。	オブジェクトファイルを C: ドライブや D: ドライブにコピーまたは移動してから、もう一度挿入してください。
[スタート] ボタンをクリックすると、マウスが機能しなくなる (16 ビットおよび 24 ビットディスプレイのみ)。	コントロールパネルの [画面] の画面フェード効果でソフトウェアの競合が発生しています。	コントロールパネルの [画面] でフェード効果をオフにします。[視覚効果] の最初のチェックボックスをオフにします。[OK] をクリックします。マウスは正常に動作するようになります。

複数の Microsoft Windows バージョンの実行

このバージョンの SunPCi ソフトウェアは、デュアルブートのエミュレートドライブをサポートしていません。SunPCi II プラットフォームで複数のバージョンの Microsoft Windows を実行する場合は、オペレーティングシステムごとにエミュレートドライブを作成し、オペレーティングシステムとアプリケーションをインストールします。SunPCi II の [オプション] メニューの [ドライブの接続] コマンドを使用して、オペレーティングシステム間の切り替えを行います。

Windows 2000 の問題

この項では、SunPCi II ソフトウェアのこのリリースにおける Windows 2000 の既知の問題について説明します。

- “2 つのマウスポインタ” –198 ページ
- “ファイルシステムドライブの問題” –199 ページ
- “CD-ROM ドライブの問題” –199 ページ
- “日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題” –200 ページ
- “Windows 2000 の問題のトラブルシューティング” –201 ページ
- “複数の Microsoft Windows バージョンの実行” –202 ページ

2 つのマウスポインタ

Windows 2000 の実行中にマウスポインタが 2 つ表示される場合は、次の手順に従ってポインタの影の設定を無効にします。

1. [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. コントロールパネルの [マウス] をダブルクリックします。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
3. [ポインタ] タブをクリックし、[ポインタの影を有効にする] チェックボックスをオフにします。
4. [適用]、[OK] の順でクリックし、ウィンドウを閉じます。
ポインタの影が無効になります。Windows 2000 デスクトップ上には、ポインタが 1 つだけ表示されるようになります。

ファイルシステムドライブの問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- ファイルの属性 (「読み取り専用」や「書き込み専用」など) が正常に機能しないことがある。
- ファイルリンクが、ファイルシステムドライブで機能しない。ファイルシステムドライブにあるファイルにリンクする必要がある場合は、そのファイルを C: または D: ドライブに移動してからリンクを作成します。
- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- ファイルシステムドライブ、または ¥¥localhost¥¥パスを使用して割り当てられたドライブに保存されているオブジェクト (クリップアートファイルなど) は、Microsoft Office 2000 アプリケーションに正常に挿入できません。この場合は、オブジェクトをまず C: ドライブや D: ドライブに移動またはコピーしてから文書に挿入する必要があります。
- このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (¥¥localhost¥¥export¥¥home¥¥myfiles.doc など) を使用して Office 97 または Office 2000 のファイルを検索することができません。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

ファイルシステムドライブに関する詳細については、162 ページの「ファイルシステムドライブ」を参照してください。

CD-ROM ドライブの問題

CD-ROM ドライブの表示に時間がかかったり、またはまったく更新されないことがあります。これには CD に関するシステム情報や、Windows エクスプローラで表示する際の CD のタイトルなどが含まれます。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題

日本語のコピーと貼り付け機能をサポートするように `$HOME¥pc¥SunPCi.ini` ファイルを編集すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini
file:codeset. Ignoring.
```

このメッセージは、編集したファイルにエラーがある可能性を示しています。詳細については、168 ページの「Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法」を参照してください。

Windows 2000 の問題のトラブルシューティング

次の表に、Windows 2000 で発生する可能性のある問題、その原因と解決方法を示します。

表 A-9 Windows 2000 の問題

問題	原因	解決方法
Windows NT から Windows 2000 にアップグレードすると、「青い画面」に「INACCESSIBLE_BOOT_DEVICE」というエラーメッセージが表示される。	75 ページの「Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード」で推奨されている手順ではなく、Windows 2000 CD の Microsoft 標準アップグレード手順が使用されました。	C: ドライブのバックアップコピーを使用して、ドライブを修復します。75 ページの「Windows NT から Windows 2000 へのアップグレード」を参照してください。 C: ドライブのバックアップを作成していない場合は、新しく C: ドライブを作成し、このマニュアルの手順に従って Windows 2000 をインストールします。この場合、アプリケーションはすべて再インストールする必要があります。
Microsoft Office 2000 にファイルを挿入できない。	オブジェクトファイル (クリップアートや Excel スプレッドシートなど) が、ファイルシステムドライブまたは ¥¥localhost¥パスを使用して割り当てられたドライブ上に保存されています。	オブジェクトファイルを C: ドライブや D: ドライブにコピーまたは移動してから、もう一度挿入してください。
[スタート] ボタンをクリックすると、マウスが機能しなくなる (16 ビットおよび 24 ビットディスプレイのみ)。	コントロールパネルの [画面] の画面フェード効果でソフトウェアの競合が発生しています。	コントロールパネルの [画面] でフェード効果をオフにします。[視覚効果] の最初のチェックボックスをオフにします。[OK] をクリックします。マウスは正常に動作するようになります。

複数の Microsoft Windows バージョンの実行

このバージョンの SunPCi ソフトウェアは、デュアルブートのエミュレートドライブをサポートしていません。SunPCi IIプラットフォームで複数のバージョンの Microsoft Windows を実行する場合は、オペレーティングシステムごとにエミュレートドライブを作成し、オペレーティングシステムとアプリケーションをインストールします。SunPCi II の [オプション] メニューの [既存のドライブの接続] コマンドを使用して、オペレーティングシステム間の切り替えを行います。

Windows NT の問題

この項では、Windows NT を使用する際に発生する可能性がある問題について説明します。

- “外部ビデオの問題” –202 ページ
- “ネットワークドライブへのインストールの問題” –202 ページ
- “Windows NT の自動実行オプションからの回復” –203 ページ
- “ファイルシステムドライブの問題” –203 ページ
- “Windows NT 修復ディスクの作成” –203 ページ
- “Windows NT 修復ディスクの使用” –205 ページ
- “日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題” –206 ページ

外部ビデオの問題

外部ビデオの解像度として、モニタの実際の解像度を超える値を設定すると、Windows NT はフリーズすることがあります。詳細については、187 ページの「外部モニタと Windows NT」を参照してください。

ネットワークドライブへのインストールの問題

Windows NT アプリケーションをネットワークドライブにインストールできない場合は、C: ドライブまたは D: ドライブへのインストールを試行してください。アプリケーションは正常にインストールされます。

Windows NT の自動実行オプションからの回復

Windows NT のインストールおよび構成後に、Microsoft Windows オペレーティングシステム CD が必要となることがあります (ディスク上のマニュアルを参照する場合など)。Microsoft Windows CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動実行ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[Microsoft Windows セットアップ] オプションがありますが、このオプションは**使用しない**でください。

誤って [Windows NT セットアップ] オプションを選択した場合は、SunPCi II ソフトウェアの再起動後に、OS Loader 画面で別のオペレーティングシステムを選択してください。たとえば、[Last Operating System on C:] を選択します。

ファイルシステムドライブの問題

ファイルシステムドライブを使用する際に、次の問題が発生することがあります。

- デスクトップにファイルシステムドライブのファイルへのショートカットを作成する場合、ドライブ上でそのファイルの場所を変更しても、ショートカットは自動的に更新されません。この場合は、既存のショートカットを削除し、新しいショートカットを作成する必要があります。
- ファイルシステムドライブ、または `¥¥localhost¥¥`パスを使用して割り当てられたドライブに保存されているオブジェクト (クリップアートファイルなど) は、Microsoft Office 2000 アプリケーションに正常に挿入できません。この場合は、オブジェクトをまず C: ドライブや D: ドライブに移動またはコピーしてから文書に挿入する必要があります。
- このバージョンのソフトウェアでは、Universal Naming Convention (UNC) パス名 (`¥¥localhost¥¥export¥¥home¥¥myfiles.doc` など) を使用して Office 97 または Office 2000 のファイルを検索することができません。これは既知の問題であり、現在原因を調査中です。

Windows NT 修復ディスクの作成

Windows NT Workstation パッケージに付属している起動ディスクには、SunPCi II ソフトウェアドライバが含まれていません。これらの修復ディスクを使用して Microsoft Windows の問題を修復すると、SunPCi II ソフトウェアドライバがインストールされないため、SunPCi II ソフトウェアは正常に動作しません。

Microsoft Windows の SunPCi II 2.3 ソフトウェア用の修復ディスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. [スタート] メニューから [Windows の終了] を選択し、[再起動する] を選択します。

Windows NT では、選択肢がラジオボタンとして表示されます。

2. [OK] をクリックします。

Windows NT は終了し、再起動します。

3. OS Loader 画面で、下向き矢印キーを使用して [Previous Operating System on C:] を選択します。Return を押します。

SunPCi II ソフトウェアが DOS で起動します。SunPCi II が起動すると、DOS プロンプト (C:¥>) が表示されます。

4. ワークステーションのハードディスク内の別の領域またはフロッピーディスクに、次のファイルをバックアップします。

これらのファイルは、DOS 環境を初期化するために必要なファイルです。

```
C:¥winnt¥system32¥Autoexec.nt
```

```
C:¥winnt¥system32¥Config.nt
```

5. 次のファイルをフロッピーディスクにコピーします。

Windows NT Workstation 4.0 が起動しない場合は、このフロッピーディスクを使用して Windows NT を起動します。

```
C:¥Ntldr
```

```
C:¥Boot.ini
```

```
C:¥Ntdetect.com
```

```
C:¥bootsect.dos
```

```
C:¥Hal.dll
```

破損や紛失に備え、このフロッピーディスクのコピーを複数作成しておくことをお勧めします。

6. ワークステーションのハードディスク内のディレクトリ (\$HOME¥temp など) に、次のレジストリファイルをコピーします。

これらのファイルは、Windows NT レジストリを復元するために必要なファイルです。

```
C:¥System32¥config¥Sam
```

```
C:¥System32¥config¥Sam.log
```

```
C:¥System32¥config¥Sam.sav
```

```
C:¥System32¥config¥Security
```

```
C:¥System32¥config¥Security.log
C:¥System32¥config¥Security.sav
C:¥System32¥config¥Software
C:¥System32¥config¥Software.log
C:¥System32¥config¥Software.sav
C:¥System32¥config¥System
C:¥System32¥config¥System.alt
C:¥System32¥config¥System.sav
C:¥System32¥config¥System.log
C:¥System32¥config¥Default
C:¥System32¥config¥Default.log
C:¥System32¥config¥Default.sav
C:¥System32¥config¥Userdiff
C:¥System32¥config¥Userdiff.log
```

注 - ディレクトリ内に .sav ファイルが存在しない場合もありますが、問題ありません。 .sav ファイルが存在する場合は、これらのファイルをバックアップすることをお勧めします。

7. デフォルトのユーザープロファイルを復元するため、次のファイルをフロッピーディスクにコピーします。

```
C:¥winnt¥profiles¥Default User¥Ntuser.dat
C:¥winnt¥profiles¥Default User¥NTuserdat.log
```

注 - DOS では、ディレクトリは C:¥winnt¥profiles¥Defaul~1¥ と表示されます。

Windows NT 修復ディスクの使用

Windows NT を復元する必要がある場合は、次の手順に従います。

1. DOS ファイルのコピーを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、SunPCi II ソフトウェアを起動します。

SunPCi II ソフトウェアウィンドウが DOS プロンプトで起動します。

注 - DOS プロンプトで起動できない場合は、フロッピーディスクドライブに DOS 6.22 フロッピーディスク (手元にある場合) を挿入して SunPCi II ソフトウェアをもう一度再起動します。

2. DOS プロンプトで、修復ディスクの作成時に指定されたディレクトリパスに、残りのフロッピーディスクのファイルをコピーします。
3. ワークステーションのハードディスクに保存したファイルを、指定されたディレクトリにコピーします。
4. 保存していたすべてのファイルを各ディレクトリにコピーしたら、[ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択して SunPCi II ソフトウェアを再起動します。

SunPCi II ソフトウェアが Windows NT で起動します。

5. Windows NT で起動できない場合は、Windows NT の起動ファイルが保存されているフロッピーディスクを挿入して SunPCi II ソフトウェアをもう一度再起動します。

Windows NT がフロッピーディスクから起動します。F3 を押して DOS プロンプトを起動します。Windows NT の起動ファイルをフロッピーディスクから C: ドライブに再度コピーします。

注 - Windows NT システムのパスワードファイルのみを復元する場合には、次のファイルを復元します。

C:¥System32¥config¥Sam

C:¥System32¥config¥Sam.log

C:¥System32¥config¥Sam.sav

日本語のコピーと貼り付け機能に関する問題

日本語のコピーと貼り付け機能をサポートするように \$HOME¥pc¥SunPCi.ini ファイルを編集すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Warning, bad clipboard translation codeset specified in SunPC.ini
file:codeset. Ignoring.
```

このメッセージは、編集したファイルにエラーがある可能性を示しています。詳細については、168 ページの「Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法」を参照してください。

Windows 98 SE の問題

Microsoft Windows の [スタート] メニューから Windows 98 SE を終了する際には、ダイアログボックスに複数のオプション ([電源を切れる状態にする] や [再起動する] など) が表示されます。Windows 98 SE では [スタンバイ] オプションを使用しないでください。[スタンバイ] オプションは、SunPCi II 2.3 ソフトウェアでは機能しません。

SunPCi II 各国語のサポート

この付録では、海外サポートに関する一般的な次の項目について扱われています。

- “海外サポート” –209 ページ
- “キーボード環境変数の使用” –210 ページ
- “DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用” –213 ページ
- “コードページと SunPCi II ソフトウェア” –215 ページ

この付録では、次の手順を完了する方法が扱われます。

- “環境変数の設定方法” –212 ページ
 - “環境変数をオフにする方法” –212 ページ
 - “Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法” –213 ページ
-

海外サポート

SunPCi II ソフトウェアには、インターナショナルキーボードを使用してアプリケーションを実行できるよう必要な言語サポートが含まれています。SunPCi II プログラムの最初の起動時に、言語と国名のリストが表示されます。ユーザーは、キーボードがサポートする言語または国に対応する番号を入力します。こうした各国言語と国名を PC の用語でコードページと呼びます。コードページとキーボード言語テーブルを変更する場合は、この付録の説明に従ってください。

SunPCi II 2.3 ソフトウェアのインターナショナルキーボードサポートをセットアップするには、KBTYPE と KBCP の環境変数を使用して、インストールに適切なキーボード言語テーブルとコードページを選択します。これらの環境変数の詳細、および Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT、または Windows 98 SE での使用手順については、210 ページの「キーボード環境変数の使用」を参照してください。

注 - 日本語のコピーと貼り付け機能を使用できるように Windows NT、Windows XP、または Windows 2000 を構成するには、168 ページの「Microsoft Windows と Solaris 間での日本語のコピーと貼り付けをできるようにする方法」を参照してください。

キーボード環境変数の使用

この項では、次の項目について説明します。

- “KBTYPE 環境変数の設定” - 210 ページ
- “KBCP 環境変数の設定” - 211 ページ
- “環境変数の設定方法” - 212 ページ
- “環境変数をオフにする方法” - 212 ページ

KBTYPE 環境変数の設定

KBTYPE 環境変数は、SunPCi II ソフトウェアで使用するキーボード言語テーブルを指定します。KBTYPE を設定するには、212 ページの「環境変数の設定方法」を参照してください。表 B-1 は、KBTYPE の値と対応する言語をリストしたものです。

表 B-1 KBTYPE 値

KBTYPE 値	キーボード言語
be	ベルギー語
cf	フランス語 (カナダ)
dk	デンマーク語
fr	フランス語
gf	ドイツ語 (スイス)
gr	ドイツ語
it	イタリア語
la	スペイン語 (ラテンアメリカ)
nl	オランダ語

表 B-1 KBTYPPE 値 (続き)

KBTYPPE 値	キーボード言語
no	ノルウェー語
po	ポルトガル語
sf	フランス語 (スイス)
sg	ドイツ語 (スイス)
sp	スペイン語
su	フィンランド語
sv	スウェーデン語
uk	英語 (英国)
us	英語 (米国)

KBCP 環境変数の設定

KBCP 環境変数はキーボードのコードページを指定します。コードページは、キーボードで使用する文字セット (アクセント、通貨記号など) を指定します。表 B-2 は、使用できる KBCP 環境変数の値をリストしたものです。

表 B-2 KBCP 値

値	説明
437	米国のコードページ
850	複数言語のコードページ。ヨーロッパ、北米、南米のほとんどの言語で使用される文字がすべて含まれています。
860	ポルトガルのコードページ
863	フランス語圏カナダのコードページ
865	北欧のコードページ。ノルウェー語とデンマーク語の文字すべてが含まれています。

KBCP を設定するには、212 ページの「環境変数の設定方法」を参照してください。コードページとその働きの詳細については、215 ページの「コードページとは？」を参照してください。

▼ 環境変数の設定方法

環境変数を設定するには、次の手順に従ってください。

1. SunPCi II ソフトウェアが実行されていないことを確認します。実行している場合は、SunPCi II を終了します。
2. デスクトップで端末ウィンドウを開きます。
3. 環境変数を設定するには、% プロンプトで次のコマンドを入力します (% は入力しません)。変数名には環境変数の名前を入力し、値には変数の値 (必要な場合) を入力します。

C シェル :

```
% setenv 変数名 値
```

Bourne シェル :

```
% 変数名=値  
% export 変数名
```

4. SunPCi II ソフトウェアを起動します。

▼ 環境変数をオフにする方法

環境変数をオフにするには、次の手順に従ってください。

- 次のコマンドを入力します。変数名には環境変数の名前を入力します。

```
% unsetenv 変数名
```

▼ Microsoft Windows 用にキーボードをセットアップする方法

キーボードレイアウトが使用する言語で正しく動作するには、使用しているバージョンの Microsoft Windows 用にキーボードを構成する必要があります。キーボードをセットアップするには、次の手順を実行してください。

1. Solaris の KBCP と KBTYPЕ の各環境変数が同じ言語 (us、gr など) を使用するよう設定されていることを確認します。

環境変数が設定されていない場合は、210 ページの「KBTYPЕ 環境変数の設定」を参照して KBTYPЕ を設定し、また211 ページの「KBCP 環境変数の設定」を参照して KBCP を設定してください。

2. Microsoft Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択し、[コントロールパネル] を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3. Microsoft Windows のデフォルトのキーボードレイアウトを KBTYPЕ と同じ値に設定します。

DOS 環境でのインターナショナルキーボードの使用

Sun インターナショナルキーボードは、各言語の DOS AT/102 キーボードを完全にエミュレートします。各キーボードでは、US-ASCII および各言語の AT/102 文字セットのすべての文字、さらにその国で日常的に使用されるその他の文字を入力できます。

インターナショナルキーボードの使用

このキーボードの使用方法は、一般のキーボードの使用方法与ほとんど同じです。キーを押すと、その文字が画面に表示されます。大文字を入力するには、Shift キーを押しながら入力するか、Caps Lock をオンにします。キーに文字が 3 つ表示されている場合、Alt-Graph キーを押しながらそのキーを押すと 3 番目の文字を入力できます。しかし、DOS 環境でキーボードを操作する場合、気を付けるべき点があります。

- インターナショナルキーボードでは、各言語の DOS キーボードで使用できる文字より多くの文字にアクセスできます。
- DOS および Solaris オペレーティングシステムでは、キャラット (^) やチルド (~) などのように、1 つの文字がアクセント文字と分離文字の両方に使用されることがあります。Solaris システムでは、別のキーを使用してアクセント文字と分離文字を入力しますが、DOS 環境では、1 つのキーでこれら 2 つの文字を入力します。DOS 環境で、アクセント文字を入力するには、該当するキーを押します。分離文字を入力するには、そのキーとスペースバーを同時に押します。
- その言語の DOS キーボードで使用できない文字を入力しようとしても無視されます。

DOS 文字セット

DOS 環境で、ユーザーまたはユーザーが使用するプログラムによってファイルが作成される場合は、常に、DOS 文字セットが必ず使用されます。Solaris システム上で、ファイルを作成する場合は、常に、ISO 8859 Latin 1 文字セットが使用されます。Solaris 環境で DOS ファイルを使用したり、DOS 環境で Solaris ファイルを使用したりするのでない限り、これらの文字セットを考慮する必要はありません。一方の形式から他方の形式にファイルを変換するために、2 つの変換ユーティリティ (dos2unix と unix2dos) が用意されています。DOS 文字セットと ISO 8859 Latin 1 文字セットの両方に存在する文字だけが形式を変換できます。一般的に使用される文字のほとんどは、両方の文字セットで使用できます。

ただし、テキストファイルに特殊文字が含まれている場合は、これらの特殊文字を変換できない場合があります。ほとんどのワードプロセッサ、およびテキストプロセッシングプログラムでは、各ファイル内で文字スタイルやページレイアウトを示すために特殊コードが使用されています。ですが、これらのほとんどのプログラムには、「テキストのみで保存」したり、「ファイルに出力」したりするオプションがあり、このオプションを使用して特殊コードを排除することにより、dos2unix および unix2dos コマンドでファイルを変換できます。

コードページと SunPCi II ソフトウェア

DOS は、言語固有のコードページを使用して各言語をサポートしています。

コードページを変更する場合は、211 ページの「KBCP 環境変数の設定」の説明に従って、KBCP 環境変数を使用してください。

コードページとは？

コードページとは使用する文字セットを定義するテーブルです。各文字セットには、その国または言語に固有の 256 のエントリが含まれています。文字はコードページテーブルから翻訳され、キーボード、画面、プリンタで使用されます。フランス語圏カナダで使用される文字、数字、記号（アクセント記号など）のセットがその一例です。この文字セットを DOS で使用できるようにテーブルに挿入すると、そのテーブルはフランス語圏カナダのコードページになります。

コードページには、**ハードウェア**と**準備済**コードページの 2 つの種類があります。**ハードウェア**コードページは、デバイス内蔵のコードページです。たとえば、ポルトガルで使用するよう製造されたプリンタには、ポルトガル語のハードウェアコードページが組み込まれています。多くのデバイスは、組み込まれたハードウェアコードページしか使用できません。

準備済コードページは、ソフトウェアのコードページ情報（.CPI）ファイルに含まれています。OpenDOS には、次の**準備済**コードページがあります。

- 437－米国のコードページ
- 850－複数言語のコードページ。ヨーロッパ、北米、南米のほとんどの言語で使用される文字がすべて含まれています。
- 860－ポルトガルのコードページ
- 863－フランス語圏カナダのコードページ
- 865－北欧のコードページ。ノルウェー語とデンマーク語の文字すべてが含まれています。

言語サポートコード

フランス語圏スイスとドイツ語圏スイスの国コードは 041 です。国コードが 358 と 972 の国は、米国の準備コードページ 437 ですが、その国固有の日時形式が含まれています。たとえば、国コード 351 (ポルトガル) を使用する場合、準備済コードページ 860 と 850 および po (ポルトガル) キーボードコードを使用できます。us (米国) キーボードコードは使用できません。

表 B-3 言語サポート

国、地域、または言語	国 コード	準備済 コードページ	キー コード
米国	001	437, 850	us
フランス語 (カナダ)	002	863, 850	cf
ラテンアメリカ	003	437, 850	la
オランダ	031	437, 850	nl
ベルギー	032	437, 850	be
フランス	033	437, 850	fr
スペイン	034	437, 850	sp
イタリア	039	437, 850	it
スイス	041	437, 850	sf、sg
英国	044	437, 850	uk
デンマーク	045	865, 850	dk
スウェーデン	046	437, 850	sv
ノルウェー	047	865, 850	no
ドイツ	049	437, 850	gr
英語 (インターナショナル)	061	437, 850	-
ポルトガル	351	860, 850	po
フィンランド	358	437, 850	su
イスラエル	972	437	-
日本	081		ja
韓国	082		ko
中国	086		ch
台湾	088		tn

\$LANG 変数

コードページを指定するには、`/usr/bin/dos2unix` および `/usr/bin/unix2dos` の 2 つの Solaris コマンドが使用できます。たとえば、コードページ 850 で作成された `task_list` ファイルを DOS 形式から Solaris 形式に変換するには、`dos2unix` コマンドを使用して次の行を入力します。

```
C:¥> dos2unix -850 task_list task_list
```

コードページがコマンドラインで指定されていない場合は、`dos2unix` と `unix2dos` は `$LANG` 環境変数に基づいて使用するコードページを決定します。`$LANG` 変数が設定されているかどうかを確認するには、Solaris コマンドウィンドウに次の行を入力してください。

```
% env | grep LANG
```

`$LANG` 変数を設定していない場合、または表 B-4 にリストされていない設定がされている場合、SunPCi II ソフトウェアではデフォルトの US コードページ 437 と `en_US` (英語-米国)`$LANG` 設定が使用されます。

表 B-4 \$LANG 変数設定

\$LANG 変数設定	言語/地域
C	デフォルト「C」ロケール
es_AR	アラビア語
da	デンマーク語
de	ドイツ語
de_AT	ドイツ語 (オーストリア)
de_CH	ドイツ語 (スイス)
el	ギリシャ語
en_AU	英語 (オーストラリア)
en_IE	英語 (アイルランド)
en_NZ	英語 (ニュージーランド)
en_UK	英語 (英国)
en_US	英語 (米国)

表 B-4 \$LANG 変数設定 (続き)

\$LANG 変数設定	言語/地域
es	スペイン語
es_BO	スペイン語 (ボリビア)
es_CL	スペイン語 (チリ)
es_CO	スペイン語 (コロンビア)
es_CR	スペイン語 (コスタリカ)
es_EC	スペイン語 (エクアドル)
es_GT	スペイン語 (グアテマラ)
es_MX	スペイン語 (メキシコ)
es_NI	スペイン語 (ニカラグア)
es_PA	スペイン語 (パナマ)
es_PE	スペイン語 (ペルー)
es_PY	スペイン語 (パラグアイ)
es_SV	スペイン語 (エルサルバドル)
es_UY	スペイン語 (ウルグアイ)
es_VE	スペイン語 (ベネズエラ)
fr	フランス語
fr_BE	フランス語 (ベルギー)
fr_CA	フランス語 (カナダ)
fr_CH	フランス語 (スイス)
it	イタリア語
ja	日本語
ko	韓国語
sv	スウェーデン語
zh	中国語
zh_TW	中国語 (台湾)

表にリストされている設定は SunPCi II がサポートする設定で、Solaris がサポートする言語すべてを表示しているわけではありません。

Solaris 環境変数の使用については、Solaris のマニュアルを参照してください。

付録 C

SunPCi II パフォーマンス向上のヒント

この付録では、SunPCi II システムと Microsoft Windows アプリケーションのパフォーマンスを向上させるための方法について説明します。この付録では、次の項目が扱われます。

- “SunPCi II 構成の調整” –219 ページ
 - “システムメモリの増設” –220 ページ
 - “エミュレートドライブの指定” –220 ページ
 - “ビデオパフォーマンスの向上” –221 ページ
 - “エミュレートドライブのパフォーマンスの向上” –221 ページ
- “SunPCi II プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行” –221 ページ
 - “ビデオメモリの増設方法” –222 ページ
 - “ビデオディスプレイの出力” –223 ページ
- “SunPCi II ソフトウェアでの Palm Pilot の使用” –223 ページ

SunPCi II 構成の調整

次の項では、SunPCi II ソフトウェアのパフォーマンスを向上させるために変更することができる SunPCi II 構成について説明します。

システムメモリの増設

システムメモリの量が多いほど、SunPCi II プログラムのパフォーマンスは向上します。SunPCi II ソフトウェアの実行には、SunPCi II カードに最低 64 MB のメモリをインストールしておくことをお勧めします。工場出荷時には、SunPCi II カードには 64 MB のメモリモジュールがインストールされています。Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT4 Server、または Windows NT4 TS を実行している場合、最低 128 MB のメモリをインストールしてください。最高の性能を実現するには、256 MB のメモリを使用してください。

SunPCi II プラットフォームに割り当てる RAM の量を増やす場合は、オプションの 128 MB または 256 MB のメモリモジュールを購入します。たとえば、256 MB の SODIMM を 2 つ購入して 64 MB メモリモジュールと交換すると、合計 512 MB のメモリを搭載することができます。インストールの詳細については、『SunPCi II SODIMM Installation Guide』を参照してください。また、購入方法については販売店にお問い合わせください。



注意 – VGA ドライバに RAM を割り当てすぎないように注意してください。ビデオメモリの量を増やすと、使用できる Microsoft Windows システムメモリの量が減少します。Microsoft Windows のシステムメモリが少なすぎると、SunPCi II ソフトウェアで Microsoft Windows の「青い画面」が表示され、次のエラーメッセージが表示されます。

```
SunPCi.VXD: Can't dvma_alloc xxx bytes. The system is low on memory.
```

エミュレートドライブの指定

新しい C: または D: ドライブを作成するとき、ドライブのサイズをできるだけ大きく指定してください（ハードディスクの空き容量にもよりますが、最大 8 GB まで指定できます）。

エミュレートハードディスクドライブの使用については、156 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください。拡張ドライブの使用については、161 ページの「エミュレートドライブおよび SunPCi II ソフトウェア」を参照してください。

ビデオパフォーマンスの向上

ワークステーションのビデオディスプレイが 8 ビットモードで実行されている場合、デスクトップの壁紙に単純な模様か [なし] を選択することによって、ビデオのパフォーマンスを向上させることができます。壁紙の模様を複雑にすると、作業中、頻繁に画面を再ペイントする必要が生じるため、ビデオのパフォーマンスが低下します。

注 - 24 ビットのビデオでは、デスクトップの壁紙を変更してもパフォーマンスには影響がありません。

エミュレートドライブのパフォーマンスの向上

デフォルトでは、SunPCi II ソフトウェアはホームディレクトリ内の ~/pc ディレクトリに C: ドライブ (大きな UNIX ファイル) を作成します。ホームディレクトリがワークステーションのハードドライブではなくネットワークに存在する場合、C: ドライブのパフォーマンスが低下する場合があります。パフォーマンスを向上させるには、C: ドライブをローカルワークステーションのハードドライブに移動することをお勧めします。

SunPCi II プラットフォームでのゲームソフトウェアの実行

注 - この手順は、SunPCi II カードで外部 VGA モニタを使用している場合にのみ該当します。外部 VGA モニタのインストールと構成方法については、第 10 章を参照してください。

この項では、SunPCi II プラットフォームでのゲームのパフォーマンスを調整する方法について説明します。SunPCi II カードのデフォルトの VGA メモリ設定は 2 MB で、ほとんどのゲームにおいて十分ですが、グラフィックがより重要な役割を果たすゲームでは、VGA メモリの量を増やすこともできます。

注 – ビデオメモリを増やすと使用可能なシステムメモリが減ることに注意してください。詳細については、220 ページの「システムメモリの増設」を参照してください。

▼ ビデオメモリの増設方法

SunPCi II で使用できる VGA メモリの量を増やすには、次の手順に従ってください。

1. SunPCi II ソフトウェアを起動します。SunPCi II ソフトウェアを既に実行している場合は、Microsoft Windows を終了し、[ファイル] メニューから [PC のリセット] を選択します。

起動画面と RAM チェックルーチンが表示されます。

2. RAM チェックルーチンの実行中に、キーボードの Del (Delete) キーを押します。

起動ルーチンが停止し、セットアップ画面が表示されます。

3. [Integrated Peripherals] を選択します。

4. [System Shared Memory Size] パラメータを大きい値に変更します。

デフォルトは 2 MB です。このパラメータには、0.5 MB 間隔で 2 MB から 64 MB までの値を入力できます。

5. セットアップウィンドウを終了します。

新しい VGA メモリ設定を使用して SunPCi II 起動ルーチンがもう一度開始されます。



注意 – ビデオメモリの値をあまり高く設定しないでください (たとえば、SunPCi II カードのメモリが 64 MB のみの場合、共有メモリを 32 MB に設定するのは高すぎます)。ビデオメモリを高く設定しすぎると、Microsoft Windows にエラーが発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
SunPCi.VXD: Can't dvma_alloc XXX bytes. The system is low on memory.
```

ビデオディスプレイの出力

次の表には、SunPCi II ソフトウェアにおけるビデオ出力のいくつかが説明されています。

表 C-1 には使用するオペレーティングシステム、インストールしているビデオドライバ、そしてプロンプトへ `sunpci -vga` を入力したかどうかで分類したビデオ出力の種類について説明します。

表 C-1 ビデオに関するオプション

PC オペレーティングシステム	VGA モニタを接続した場合	VGA モニタを接続しない場合
DOS (-vga スイッチ使用)	ビデオは VGA モニタに出力されます。	ビデオは使用できません。SunPCi II ウィンドウに、Video routed というメッセージが表示されます。
DOS (-vga スイッチ不使用)	ビデオはワークステーションの SunPCi II X ウィンドウに出力されます。	ビデオはワークステーションの SunPCi II ウィンドウに出力されます。
Windows 98 (VGA ドライバ使用)	ビデオは VGA モニタに出力されます。	ビデオは使用できません。
Windows 98 (SunPCi II ドライバがインストール済み)	ビデオはワークステーションの SunPCi II X ウィンドウに出力されます。	ビデオはワークステーションの SunPCi II ウィンドウに出力されます。
Windows XP/NT/2000 (SunPCi II ドライバが自動インストール済み)	ビデオはワークステーションの SunPCi II X ウィンドウに出力されます。外部モニタを使用するには、sis630 ドライバをインストールしてください。	ビデオはワークステーションの SunPCi II ウィンドウに出力されます。

SunPCi II ソフトウェアでの Palm Pilot の使用

SunPCi II ソフトウェアは、Palm Pilot の「hotsync」機能をサポートします。最良の結果を得るため、特に Windows 98 SE を使用する場合は、Palm Pilot の hotsync 速度の設定をもっと早い設定ではなく一定の速度に設定することをお勧めします。

付録 D

規制、安全、準拠に関する情報

この付録では、SunPCi II 製品の規制、安全、および準拠の宣言情報に関する次の項目が扱われます。

- “Regulatory Compliance Statements” –226 ページ
- “安全への準拠に関する情報” –229 ページ
- “Declaration of Conformity” –233 ページ

Regulatory Compliance Statements

サン製品には、準拠クラスを示すマークが付いています。

- 連邦通信委員会 (FCC) 6 アメリカ
- カナダデジタル機器規準 (ICES-003) – カナダ
- 情報処理装置等電波障害自主規模協議会 (VCCI) - 日本
- 計測および検査基準局 (BSMI) - 台湾

サン製品をインストールする前に、製品にあるマークに対応する項をお読みください。

FCC Class A Notice

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy, and if it is not installed and used in accordance with the instruction manual, it may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Shielded Cables: Connections between the workstation and peripherals must be made using shielded cables to comply with FCC radio frequency emission limits. Networking connections can be made using unshielded twisted-pair (UTP) cables.

Modifications: Any modifications made to this device that are not approved by Sun Microsystems, Inc. may void the authority granted to the user by the FCC to operate this equipment.

FCC Class B Notice

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/television technician for help.

Shielded Cables: Connections between the workstation and peripherals must be made using shielded cables in order to maintain compliance with FCC radio frequency emission limits. Networking connections can be made using unshielded twisted pair (UTP) cables.

Modifications: Any modifications made to this device that are not approved by Sun Microsystems, Inc. may void the authority granted to the user by the FCC to operate this equipment.

ICES-003 クラス A 告知 - Avis NMB-003、クラス A

本クラス A デジタル装置は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

ICES-003 クラス B 告知 - Avis NMB-003、クラス B

本クラス B デジタル装置は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.


VCCI 基準について

クラス A VCCI 基準について

クラス A VCCI の表示があるワークステーションおよびオプション製品は、クラス A 情報技術装置です。これらの製品には、下記の項目が該当します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

クラス B VCCI 基準について

クラス B VCCI の表示  があるワークステーションおよびオプション製品は、クラス B 情報技術装置です。これらの製品には、下記の項目が該当します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

BSMI Class A Notice

The following statement is applicable to products shipped to Taiwan and marked as Class A on the product compliance label.

警告使用者：
這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

安全への準拠に関する情報

手順を開始する前に、この項をお読みください。この項では、サンマイクロシステムズの製品を安全に設置していただくための注意事項について説明します。

安全上の注意事項

装置を設置する場合には、次の点に注意してください。

- 装置上に記載されているすべての注意事項や指示に従ってください。
- ご使用の電源の電圧や周波数が、装置の電気定格表示と一致していることを確認してください。
- 装置の開口部に異物を差し込まないでください。内部は高電圧になることがあり危険です。金属などの導体を入れるとショートして、発火、感電、装置の損傷の原因となることがあります。

記号について

このマニュアルでは、以下の記号を使用しています。



注意 - 人身への事故や装置の故障が発生する危険性があります。指示に従ってください。



注意 - 表面が高温になっています。触れないでください。触れると火傷をする危険性があります。



注意 - 高電圧です。感電やケガを防ぐため、説明に従ってください。



オン - システムに AC 電源を供給します。

装置の電源スイッチの種類により、次の記号のいずれかが使用されます。



オフ - システムへの AC 電源の供給を停止します。



スタンバイ - システムはスタンバイモードになっています。

装置の改造

装置に機械的または電氣的な改造を行わないでください。改造が行われた場合、サンマイクロシステムズは、規制への準拠に関して責任を負いません。

サン製品の設置



注意 - 装置の開口部を塞いだり覆ったりしないでください。また、装置の近くに放熱機器を置かないでください。装置が過熱すると、信頼性が損なわれます。



注意 - DIN 45 635 第 1000 項で規定されている現場騒音レベルが 70Db(A) 以下でなければなりません。

SELV 準拠

I/O 接続の安全状態は、SELV (Safety Extra Low Voltage) の要件に準拠しています。

電源コードの接続



警告 - サンの製品は、アースされた中性線を持つ単相電力系を使用する設計になっています。感電の危険を避けるため、これ以外の電力系にサン 製品を指し込まないでください。建物に供給されている電力の種類が分からない場合には、施設管理者や資格を持った電気技師に問い合わせてください。



注意 - 電源コードによって定格電流は異なります。家庭用延長コードには過負荷保護がなく、コンピュータシステムでの使用を意図したものではありません。家庭用延長コードを サン の製品に使用しないでください。



警告 - サンの製品には、アース付き (3 線式) 電源コードが付属しています。感電の危険を避けるため、必ずアースしたコンセントに電源コードを接続してください。

次の警告は、スタンドバイ電源スイッチ付きの装置にのみ該当します。



警告 - この製品では、電源スイッチを切った場合でもスタンバイ状態が保たれています。完全に電源を切るには、電源プラグを抜いてください。設置場所の側にあるアース付きの電源コンセントに電源プラグを差し込んでください。システムシャーシから電源装置を取り外したら、電源プラグは差し込まないでください。

リチウム電池



注意 - サンの CPU ボードにある実時間時計 (SGS No. MK48T59Y、MK48TXXB-XX、MK48T18-XXXPCZ、M48T59W-XXXPCZ、MK48T08) には、リチウム電池が埋め込まれています。ユーザーがこのリチウム電池を交換することはできません。取り扱いを誤ると、爆発の危険があります。電池を火の中に投入しないでください。また、リチウム電池を分解したり充電したりしないでください。

電池パック



警告 - SunPCi II ユニットには、密閉鉛蓄電池が入っています (ポータブルエネルギー製品番号: TLC02V50)。電池パックの取り扱いを誤ったり、交換が不適当だと、爆発の危険があります。サンマイクロシステムズ同種の電池パックのみと交換してください。また、鉛蓄電池を分解したり、システムから出して充電したりしないでください。電池は、各地域の規定に従って廃棄してください。

システム本体のカバー

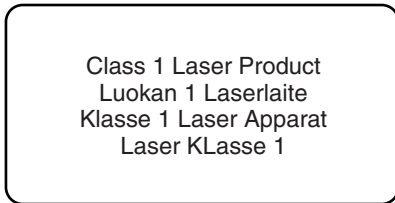
カード、メモリ、内部記憶装置を追加する際には、サンコンピュータシステム本体のカバーを取り外す必要があります。作業後は、必ずカバーを元どりに取り付けてから、電源を入れてください。



注意 - サン 製品を操作する前に必ずカバーを元に戻してください。カバーを開けたまま サン 製品を使用するのは危険です。人身事故やシステム故障の原因になることがあります。

レーザー準拠通知

レーザー技術を使用する サン 製品は、クラス 1 レーザー条件に準拠しています。

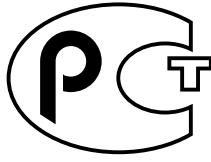


CD-ROM



注意 - 指定された以外の手順で制御、調整、操作を行った場合、被爆の可能性があります。

GOST-R Certification Mark



Declaration of Conformity

Compliance Model Number: Chimera
Product Name: SunPCi II

EMC

USA—FCC Class B

This equipment complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This equipment may not cause harmful interference.
2. This equipment must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

European Union

This equipment complies with the following requirements of the EMC Directive 89/336/EEC:

EN55022:1998/CISPR22:1997	Class B
EN55024:1998	4 kV (Direct), 8 kV (Air)
EN61000-4-2	3 V/m
EN61000-4-3	1.0 kV AC Power Lines, 0.5 kV Signal and DC Power Lines
EN61000-4-4	1 kV AC Line-Line and Outdoor Signal Lines
EN61000-4-5	2 kV AC Line-Gnd, 0.5 kV DC Power Lines
EN61000-4-6	3 V
EN61000-4-8	1 A/m
EN61000-4-11	Pass
EN61000-3-2:1995 w/Amendments 1, 2	Pass
EN61000-3-3:1995	Pass

Safety

This equipment complies with the following requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC:

EC Type Examination Certificates:

EN60950:1992, 2nd Edition, Amendments 1, 2, 3, 4, 11 IEC 950:1991, 2nd Edition, Amendments 1, 2, 3, 4
Evaluated to all CB Countries

Supplementary Information

This product was tested and complies with all the requirements for the CE Mark.

/S/



Dennis P. Symanski
Manager, Compliance Engineering
Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road, MPK15-102
Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A
Tel: 650-786-3255
Fax: 650-786-3723

DATE: 10/30/2000

/S/



Peter Arkless
Quality Manager
Sun Microsystems Scotland, Limited
Springfield, Linlithgow
West Lothian, EH49 7LR
Scotland, United Kingdom
Tel : 0506-670000
Fax : 0506-760011

DATE: 11/02/2000

索引

記号

- .ini ファイル
 - デフォルト, 29
 - 起動, 33
 - 内容, 29
- .ini ファイルの起動, 33
- [オプション] メニュー, 17
- [接続しない] ボタン, 20

A

- auto_master ファイル, 178
- A ドライブ, 129

B

- Boot@Boot
 - SunPCi カード、サポートの準備, 150
 - SunPCi デーモン、説明, 145
 - Virtual Network Computing (VNC)、説明, 146
 - VNC、サポートの構成, 148
 - VNS または SunPCi セッションを無効にする, 152
 - Xvnc 以外の X サーバーの使用, 155
 - サポートの構成, 147
 - 手動による構成の変更, 154
 - セッションのリスト, 152
 - 説明, 145

C

- CD-ROM ドライブ、手動でマウントする, 132
- CD 読み取り専用メモリ、CD-ROM ドライブを参照, 132
- COM ポート, 135, 136
- CおよびDドライブ、トラブルシューティング, 191
- C ドライブ
 - 作成と構成, 15
 - 説明, 156
 - トラブルシューティング, 192
 - バックアップ, 159

D

- DOS
 - ディレクトリ操作, 178
 - 短い名前, 177
 - 文字セット, 214
- D ドライブ
 - 作成と構成, 15
 - 説明, 156

E

- Ethernet
 - 仮想, 62, 84, 102
- Ethernet ネットワーク
 - Windows NT での構成, 62, 84, 102

- L**
LPT ポート, 135, 136
- M**
MAC アドレスと複数のカード, 37
MANPATH 環境変数, 6
Meta-E キーの組み合わせ, xxiv
Meta キー, xxiv
Microsoft DOS、MS-DOSを参照, 178
Microsoft ネットワーク
 ネットワークパスワード, 116
 と拡張ドライブ, 125
MS-DOS
 ディレクトリ操作, 178
- N**
NDIS ドライバ
 TCP/IP の構成, 43
 TCP/IP プロパティ, 43
- O**
OpenDOS, xx
- R**
RAM SODIMM、オプションとしてインストール
 , xxv
- S**
setupnt スクリプト, 97
Solaris
 コマンドウィンドウ, xxii
 必要なバージョン, 12
 プリンタ、Windows で使用, 169
 ボリュームマネージャー, 131
Solaris の参照機能, 178
- Solaris プリンタの使用, 169
SunFSD ドライバ、有効化と無効化, 81, 99
SunPCi
 [オプション] メニュー, 17
 C または D ドライブの作成, 15
 キーボードアクセラレータ, xxiv
 機能, 2
 システム必要条件, 12
 シリアルポート, 136
 製品のホームページ, 174
 セッション、シャットダウン, 153
 ドライバ、インストール, 115
 パフォーマンス向上のヒント, 219
 パラレルポート, 136
 起動, 13
SunPCi コマンド, 141
SunPCi コマンドオプション, 141
SunPCi の機能, 2
SunPCi の起動, 13
sunpci コマンド, 13
SunPCi デーモン
 シャットダウン, 153
 説明, 145
SunPCi の既知の問題, 173
- T**
TCP/IP, 87
 NDIS ドライバを使用するためのプロパティ設定
 , 43
 構成, 43
 構成に必要な情報, 43
 プロパティの設定, 43
- U**
USB (Universal Serial Bus) サポート, 133
- V**
VGA
 Windows 2000 のドライバ, 67, 90

- メモリ, 221
- 監視、ドライバのインストール, 115
- vga sunpci コマンドオプション, 91
- Virtual Network Computing (VNC)
 - シャットダウン, 153
 - 説明, 146
 - リモートクライアント, 155
 - リモートクライアントからの操作, 155
- vold、有効化と無効化, 131
- vold_floppy_disableスクリプト, 182

W

- w2kupg スクリプト, 57, 59, 61, 80
- Windows 2000
 - w2kupg スクリプト, 80
 - ディスプレイプロパティの構成, 68, 92
 - メモリの推奨サイズ, 50, 72, 96
- Windows 95、アプリケーションのインストール, 165
- Windows 98
 - CD-ROM からの実行, 175
 - MS-DOS で読み取られるファイル名, 177
- Windows NT
 - setupnt スクリプト, 97
 - w2kupg スクリプト, 57, 59, 61, 80
 - インストール, 52, 74, 98
 - 仮想 Ethernet ネットワークの構成, 62, 84, 102
 - 再インストール, 52, 75, 99, 116, 124
- Windows ディスクドライブ、作成, 15
- Windows、ヘルプの表示, 7
- Windows エクスプローラ
 - ネットワークドライブの割り当て, 162, 192
 - ファイルシステムドライブの使用, 162

X

- X オプション、RAM SODIMM, xxv

あ

- アクセラレータ、キーボード, xxiv
- アドオンの背面板
 - 外部デバイスへの接続, 133
 - シリアルポート, 136
 - パラレルポート, 136

い

- インストール
 - RAM SODIMM のマニュアル, xxv
 - サーバー, 81
 - システム必要条件, 12
 - ハードウェアのマニュアル, xxv
- インターナショナルキーボードサポート, 209

え

- エミュレートドライブ, 156
 - デフォルトのファイル, 29
 - 構成ファイル, 29
 - トラブルシューティング, 191, 192
 - パフォーマンス向上のヒント, 220
 - パフォーマンスの調整, 220
 - 複数カードシステム, 29

お

- オーディオ、スピーカーの接続, 133
- オーディオ接続, 133
- オペレーティングシステム、必要なバージョン, 12

か

- カード、複数の構成, 27
- カード名、リスト, 31
- 拡張ドライブ, 162
 - アプリケーションのインストール, 165
 - 使用, 161
 - デフォルト, 165
 - トラブルシューティング, 192

- ネットワークドライブ, 162
- カスタマーサポート, xxiv
- 仮想 Ethernet
 - 構成, 62, 84, 102
 - 有効化, 62, 84, 102
- 外部ビデオ, 133
 - VGA ドライバのインストール, 115
 - ゲームのパフォーマンス向上のための調整, 221
 - 接続, 133
 - 内部ビデオへの変更, 93
 - プロパティの構成, 68, 92

き

- キーボード、海外サポート, 209
- キーボードアクセラレータ, xxiv
- 技術サポート, xxiv

け

- ゲーム、外部 VGA の実行, 221

こ

- 構成、複数のカードの, 28
- 構成ファイル、デフォルトの内容, 29
- コードページ
 - \$LANG 変数, 217
 - 定義, 215

- コピーコマンド, 167

- コピーと貼り付け
 - UNIX と Windows 間, 167
 - 日本語、構成, 168

さ

- サーバー
 - インストールに関する注意、Windows 2000, 81
 - 構成に関する注意, 99
- 再バインド、カードとイメージ, 37
- サポート, xxiv

し

- システム必要条件, 12
- 手で CD-ROM ドライブをマウントする, 132
- シリアルポート, 135
- 新規ハードドライブの作成, 20
- 自動マウントされたディレクトリ、参照, 178

せ

- セットアップコマンド, 115

た

- タイトル、SunPCi ウィンドウ, 36
- タイトルオプション、SunPCi コマンド, 36

て

- テキスト、UNIX と Windows 間のコピーと貼り付け, 167
- ディスクイメージ
 - 起動方法, 35
 - 名前、新しいカードの, 31
- ディスクイメージの起動, 35
- ディスクオペレーティングシステム、DOS 参照, 214

と

- トラブルシューティング
 - エミュレートハードドライブ, 191
 - 拡張ドライブ, 192
 - ネットワーク, 193
 - マウスの問題, 181
- ドライバ、インストール, 115

な

- 内部ビデオ、外部ビデオからの変更, 93

長いファイル名、DOS ウィンドウでの読み取り
、 177
名前、SunPCi ウィンドウ、 36

に

日本語のコピーと貼り付け、構成、 168

ね

ネットワーク
TCP/IP プロパティの設定、 43
デバイス、参照、 178
トラブルシューティング、 193, 194
プリンタ、 169
ログイン、 192
ネットワークインタフェース、 178
ネットワークコンピュータ、 178
ネットワークドライブ、 162

は

ハードウェアのインストールマニュアル、 xxv
ハードドライブ
新規作成、 20
接続、 20
トラブルシューティング、 191, 192
長いハング、 178
ファイル、 156
貼り付けコマンド、 167
パフォーマンス向上のヒント、 219
SunPCi 構成、 219
エミュレートドライブ、 220
パフォーマンスの調整、ハードドライブ、 220
パラレルポート、 135

ひ

ビデオ
外部から内部への変更、 93
外部接続、 133

ふ

ファイルシステム、割り当て、 81
ファイルシステムドライブ、 81
ファイルシステムドライバ、SunFSD ドライバを参
照、 81
ファイルシステムドライブ、 162
ファイル番号、 177
複数のカード
MAC アドレスの変更、 37
エミュレートディスクと共に起動、 35
および仮想ネットワーク、 37
構成、 27, 28
構成の更新、 36
作成、エミュレートドライブ、 30
ソフトウェア手順、 28
名前、 31
名前の例、 30
複数のカードとドライブの起動、 35
フロッピーディスクドライブ、 129
フロッピードライブ、 129
物理 Ethernet、無効化、 62, 84, 102
プリンタ、ローカルへの接続、 135

へ

ヘルプ、 6
ヘルプの表示、Windows、 7

ほ

ボリュームマネージャー、有効化と無効化、 131

ま

マイクロフォン、SunPCi への接続、 133
マウス、問題のトラブルシューティング、 181
マニュアルページ、 6

め

メモリ

調整, 220

パフォーマンス向上のヒント, 220

メモリ、VGA, 221

も

文字セット, 214

ろ

ローカルプリンタ、SunPCi への接続, 135

ログファイル、名前と保存場所, 174

わ

割り当て

ファイルシステム, 81

有効化, 83